

# 大学院学生の手引

2019 年度入学生用

本冊子に記載されたカリキュラムは  
あなたが修了するまで適用されます



信州大学大学院総合理工学研究科

(伊那キャンパス)

# 目 次

1. 信州大学・総合理工学研究科の 理念と目標…………… 1	(7) 実習・調査等における学生の 自家用車使用について
2. 信州大学大学院・総合理工学研究科 「学位授与の方針」 「教育課程編成・実施の方針」…………… 2	(8) 就 職 (9) 課外活動 (10) 海外渡航届 (11) 登山届 (12) 学生証等の携帯, 再発行 (13) 住 居 (14) アルバイト
3. 農学専攻及び生命医工学専攻の理念と目標 「学位授与の方針」 「教育課程編成・実施の方針」…………… 3	13. 学生教育研究災害傷害保険及び 学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任 保険への加入手引…………… 33
4. 履修要項…………… 5	14. 講義室・学生ラウンジ使用の手引…………… 35
(1) 修了要件	15. 信州大学附属図書館 農学部図書館利用の手引…………… 36
(2) 単位	16. 体育館使用の手引…………… 38
(3) 履修方法及び履修登録手続	17. 福利厚生施設利用の手引…………… 39
(4) 授業方法等	18. 実習宿泊施設利用の手引…………… 40
(5) 成績評価	19. 野外調査の届け出について…………… 41
(6) 修士論文等の提出時期等	20. 伊那キャンパス構内における 火気使用についての申し合わせ…………… 43
(7) 修了生が取得可能な免許	21. 緊急事態対応の手引…………… 44
5. 所属教員一覧…………… 7	22. 農学部配置図…………… 45
6. 専攻別の修了要件及び授業科目一覧	23. 位置図…………… 46
農学専攻…………… 9	24. ACSU による出席状況確認…………… 47
生命医工学専攻…………… 15	25. 信州大学大学院学則…………… 49
7. 信州大学大学院総合理工学研究科 学位論文等審査 及び最終試験並びに修了判定実施要項… 19	26. 信州大学学位規程…………… 62
8. 修士論文関係様式…………… 20	27. 信州大学大学院総合理工学研究科規程… 65
修士学位論文等審査申請書	28. 信州大学学生生活に関する通則…………… 78
修士学位論文等要旨	29. 信州大学における学生の懲戒に関する 規程/信州大学における学生の懲戒 に係るガイドライン…………… 79
修士論文作成要領	30. 位置及び沿革…………… 82
9. 信州大学大学院総合理工学研究科 修士論文評価基準…………… 22	31. ハラスメント (嫌がらせ) にあつたら 【ハラスメント相談員】に相談してくだ さい…………… 83
10. 信州大学大学院総合理工学研究科における 長期履修学生制度の取扱要項…………… 23	
11. 学生の表彰及び懲戒について…………… 24	
12. 学生生活関係…………… 27	
(1) 授業料・授業料免除・奨学金	
(2) 学生向け情報の掲示及びメール	
(3) 証明書・学生旅客運賃割引証	
(4) 保健・メンタルヘルス	
(5) 休学・退学	
(6) 学籍情報入力	

# 1. 信州大学・総合理工学研究科の理念と目標



## 信州大学の理念

---

信州大学は、

信州の豊かな自然、その歴史と文化、人々の営みを大切にします。

信州大学は、

その知的資産と活動を通じて、自然環境の保全、人々の福祉向上、産業の育成と活性化に奉仕します。

信州大学は、

世界の多様な文化・思想の交わる場所であり、それらを理解し受け入れ共に生きる若者を育てます。

信州大学は、

自立した個性を大切にします。

信州大学で学び、研究する我々は、

その成果を人々の幸福に役立て、人々を傷つけるためには使いません。



## 信州大学の目標

---

信州大学は、

その存立の理念に基づき、教育・研究・地域貢献・国際交流において次の目標を掲げます。

(教育)

かけがえのない自然を愛し、人類文化・思想の多様性を受容し、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であり、自ら具体的な課題を見出しその解決に果敢に挑戦する精神と高度の専門知識・能力を備えた個性を育てます。

(研究)

人類の知のフロンティアを切り拓き、自然との共存のもとに人類社会の持続的発展を目指した独創的研究を推進し、その成果を地域と世界に発信し、若い才能を引きつける研究環境を築きます。

(地域貢献)

信州の自然環境の保全、歴史と文化・伝統の継承・発展、人々の教育・福祉の向上と産業発展の具体的課題に貢献するため、大学を人々に開放し関連各界との緊密な連携・協力を進めます。

(国際交流)

諸外国から学生・研究者を積極的に受け入れ、世界に開かれた大学とし、信州の国際交流の大きい推進力となります。



## 総合理工学研究科の理念と目標

---

総合理工学研究科は、信州の豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた大学院として、それぞれの専門分野において社会に資する有為な人材を育成するための教育・研究を推進します。幅広い学問分野を含む利点を生かして、学際領域を開拓する進取の気性に富んだ人材を育成し、広い視野と高い課題解決能力をもつ高度専門職業人を養成することを教育・研究の理念とします。

本研究科は、高度な専門知識・技術および周辺分野の課題にも対応した応用力・俯瞰力と批判的思考力をもつ高度専門職業人、創造性豊かな研究者、および環境調和社会を支える知的素養と倫理観を備えた人材を養成することを教育・研究目標とします。

## 2. 信州大学大学院・総合理工学研究科 「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」



### 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

#### 信州大学大学院

信州大学大学院では、俯瞰力と独創力を備え、持続可能な価値社会を創造する質の高い高度専門職業人や、先端的研究を推進する人材を養成するために、以下のように各課程の学位授与方針を定める。

1. 修士課程にあつては、広い視野に立って精深な学識を持ち、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を修得している。
2. 博士課程にあつては、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得している。
3. 専門職学位課程にあつては、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を修得している。

#### 総合理工学研究科

総合理工学研究科では、以下の知識と能力等を十分培い、かつ、専攻ごとに定められた学位授与方針に適う知識と能力等を有する学生に「修士」の学位を授与します。

1. 人類、社会の平和的・持続的発展のために、研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
2. 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える高度な専門知識と実践的技術力
3. さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
4. 深い専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力



### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

#### 信州大学大学院

##### 大学院課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学大学院は、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学大学院は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮します。

##### 大学院課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学大学院は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、コースワークを充実させ、コースワークから研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行います。また、各研究科の「学位授与の方針」に定めた、修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示します。
2. 信州大学大学院は、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、授業時間外の多様な学修研究機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学大学院は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点します。
4. 信州大学大学院は、修士課程及び博士課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行います。

#### 総合理工学研究科

総合理工学研究科は、高度専門職業人、研究者等に必要とされる高度な専門知識、手法、技能、実践力を身につけることを目標として、学位論文の作成を中心に、講義、演習、実験、実習等からなる専門性の高いカリキュラムを策定しています。カリキュラムの実施にあたってはコースワークから学位論文作成へ有機的につながる体系的な教育を行います。加えて、本研究科が幅広い学問分野により構成されているという利点を生かして、分野・専攻を超えた学際的な共通科目を設定することで、高い専門性と総合性のバランスを確保し、深い専門性と近傍分野における課題解決についての応用力や理工学系領域全体に対応する俯瞰力も養成します。



### 3. 農学専攻及び生命医工学専攻の理念と目標 「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」



#### 農学専攻の教育・研究の理念と目標

---

本専攻は、環境と調和した持続的生産に基づく、より豊かな人間社会を築くため、生命、食料、環境を支える農学分野における幅広い体系的な基礎学力、実践的技術力と研究開発能力を備え、イノベーション創出に資する科学者・高度専門人材を養成することを教育・研究の理念とします。

本専攻は、自然環境と共生し得る農学の学際的先端領域を開拓し、実践的技術力及び創造性豊かな研究開発能力を備えた人材を養成することを教育・研究の目標とします。



#### 農学専攻の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

農学専攻では、研究科および農学専攻の目的に則り、以下の知識と能力等を充分培い、かつ、分野・ユニットごとに定められた学位授与方針に適合する知識と能力等を有する学生に「修士」の学位を授与します。

1. より豊かな人間社会の構築に貢献できる知識と技術を修得している。
2. 環境と調和した国際性と地域性に根差した持続的生産に関わる知識と技術を修得している。
3. 生命科学、食品科学、食料生産および環境の保全と修復などの分野における幅広い体系的な基礎学力と実践的技術力とともに高い研究開発能力を修得している。
4. 農学分野で必要とされる情報収集・分析能力を有し、農学分野での研究成果を発信できるグローバルな情報発信能力を有する。



#### 農学専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

農学専攻は、専攻の理念・教育目標のもと、学際的な基礎知識を培う分野共通科目、専門知識を学修する特論・特別演習科目、実験技術を修得する特別実験実習等を履修し、農学の基盤となる知識・技術を学修します。この過程で課題解決力、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を涵養し、専門性を深化させます。さらに、指導教員による個別の指導の下に、特別研究によって、課題探究から研究計画の立案、実施、課題解決、考察、文献検索などを実践して専門性を高め、修士論文の作成、発表等を遂行することにより、農学にかかわる高度専門職業人としての総合力を確立するためのカリキュラムを配置します。



## 生命医工学専攻の教育・研究の理念と目標

---

本専攻は、医学・工学・繊維学・農学・理学連携により、学部の垣根を越えた実践型研究教育を実施し、異分野の研究者と大学院生が同じテーマで共に学ぶシステム（異分野融合教育・人と場所の流動型教育）を構築し、下記の社会に資する人材を育成します。

- ・ 稀有の実体験により、産学官連携研究を推進する特殊知識・技能をもつオンリーワン人材
- ・ 製品開発能力をもつ大学研究者・医学的知識をもつ企業研究者などの人材
- ・ 知的財産などを含めた産学官連携イノベーションマネジメントの専門人材
- ・ レギュラトリーサイエンスの専門人材
- ・ 国際舞台で活躍する研究者



## 生命医工学専攻の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

生命医工学専攻では、研究科および繊維学専攻の目的に則り、以下の知識と能力等を充分培い、かつ、分野ごとに定められた学位授与方針に適う知識と能力等を有する学生に「修士」の学位を授与します。

1. 健康・福祉・医療・創薬分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
2. 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える健康・福祉・医療・創薬分野の高度な専門知識と実践的技術力
3. さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
4. 専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力



## 生命医工学専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

生命医工学専攻は、医学・工学・繊維学・農学・理学の学士課程で身につけた基礎的な科学技術の素養に基づき、健康・医療・福祉領域で活躍する高度専門職業人、研究開発者等に必要とされる高度な知識や研究手法を身につけることを目標としています。これを達成するため、学士課程において理工学分野を学んだ学生には医学・生物学の基礎科目を、保健・生物・農学分野を学んだ学生については理工学系基礎科目を習得させるとともに、各専門分野の教育を行います。また、実践的教育を充実させるために、学内外の施設を利用した医療インターンシップを実施します。学位論文の作成を中心に、セミナー、講義、実験・実習・演習などからなるカリキュラムを策定しています。

## 4. 履修要項

### (1) 修了要件

- 1) 修業年限は2年（地域共生マネジメントプログラムの学生は1年）です。（ただし、研究科が優れた業績を上げたと認める者については、修士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。）また、在学期間は、修業年限の2倍を超えることはできません。
- 2) 修了のために必要な単位数は、「6. 専攻別の修了要件及び授業科目一覧」に記載してある〔修了要件及び履修方法〕を参照してください。さらに、必要な研究指導を受けた上、修士論文または特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することが必要です。

### (2) 単位

- 1) 単位の算定は、次の基準により計算します。

講義・演習	15～30時間	1単位
実験・実習・実技	30～45時間	1単位
- 2) 1度履修して単位が認定された場合、同一科目を再び履修することはできません。従って、単位修得済みの科目を異なる年度・学期に再度履修登録することは認められません。
- 3) カリキュラムは、皆さんが卒業するまでに学修する内容であり、入学年度により異なります。先輩の必要単位数や履修内容とは異なる場合がありますので、先輩からの情報を鵜呑みにせず、単位の管理・履修計画は必ず自己責任で行ってください。

### (3) 履修方法及び履修登録手続

- 1) 履修計画は、履修要件、授業内容及び授業時間割表などを参照しながら、指導教員とよく相談の上、各人が立ててください。
- 2) 授業により、履修年次が指定されている場合があります。必ず指定された年次で履修登録を行うように注意してください。
- 3) 履修登録手続は、パソコン等を利用してWeb上の「信州大学キャンパス情報システム」にアクセスして行います（方法は伊那キャンパス履修案内の冊子を参照）。履修登録手続期間は、前期・通年開講科目は4月上旬、後期開講科目は9月下旬を予定しています。詳しい手続期間は掲示等でお知らせします。また、履修登録後に確認期間が設けられているので必ず確認するようにしてください。所定の期間内に手続を済ませないと授業を受講できません。原則としてこれ以降の登録変更は認められませんので注意してください。
- 4) 学期の初めに決定していない集中講義・実習・実験についての具体的な日程等は、その都度、別に掲示等で周知されますので注意してください。

### (4) 授業方法等

#### 1) 授業形態

授業形態は、大別すると次の(ア)～(エ)となります。

- (ア) 毎週1回ずつ、15週又は30週行うもの
- (イ) 毎週1日ずつ、7～8週行うもの
- (ウ) 毎週2～3回ずつ、5～8週行うもの
- (エ) ある時期に集中して行うもの

## 2) 授業時間

1 時限	9 時 0 0 分～1 0 時 3 0 分
2 時限	1 0 時 4 0 分～1 2 時 1 0 分
3 時限	1 3 時 0 0 分～1 4 時 3 0 分
4 時限	1 4 時 4 0 分～1 6 時 1 0 分
5 時限	1 6 時 2 0 分～1 7 時 5 0 分
6 時限	1 8 時 0 0 分～1 9 時 3 0 分
7 時限	1 9 時 4 0 分～2 1 時 1 0 分

## 3) 集中講義

集中講義は、原則として夏季休業中及び春季休業中に行います。この形式の授業の日程等の詳細は、学期の初めには決定していない場合もありますので、その場合は決定次第掲示により連絡します。集中講義の履修登録手続も、通常の履修登録期間中に行ってください。

## (5) 成績評価

授業はすべて出席するのが学生の義務です。従って、いかなる理由があっても、授業時間数の 2 / 3 以上の出席のない学生は、評価の対象となりません。

履修科目の成績判定は受講生が所定の受講を完了した時点で、その授業科目について十分な学力を得たかどうかを担当教員が評価して、秀 (90-100 点)・優 (80-89 点)・良 (70-79 点)・可 (60-69 点)・不可 (59 点以下) の評語をもって表し、可以上を合格とし、不可を不合格とします。合格の場合に所定の単位が与えられます。

なお、成績の発表 (通知) は、原則として前期分を 8 月下旬、後期・通年分を 2 月下旬に行います。発表期日については、その都度掲示します。

また、成績に疑義がある場合は、成績の発表日から 1 週間以内に学務グループに申し出てください。

## (6) 修士論文等の提出時期等

「修士学位論文等審査申請書」、「修士論文」、「論文内容の要旨」は、指定された期日までに学務グループに提出してもらいます。早めに準備をして、指導教員に確認の上、指導教員を経由して提出してください。(「8. 修士論文関係様式」参照)

## (7) 修了生が取得可能な免許

- (ア) 中学校教諭専修免許状 (理科)
- (イ) 高等学校教諭専修免許状 (理科・農業)

上記 (ア) (イ) の免許状はそれぞれ一種免許の取得者のみ取得可能です。取得するには、指定された授業科目の単位を修得しなければなりません。指定科目は、「6. 専攻別の修了要件及び授業科目一覧」の表中に示してあります。

## 5. 所属教員一覧

専攻名	分野名	ユニット名	所属教員	
農学専攻	先端生命科学分野	生命機能工学ユニット	大神田 淳子, 鈴木 俊介, 細見 昭, 喜井 勲	
		細胞システム科学ユニット	小野 珠乙, 下里 剛士, 高木 優二, 高谷 智英	
		生物共生科学ユニット	福田 正樹, 加藤 新平, 齋藤 勝晴, 山田 明義	
	食品生命科学分野	食品生物機能科学ユニット	池田 正人, 千 菊夫, 竹野 誠記	
		食料機能解析学ユニット	藤田 智之, 真壁 秀文, 中村 浩蔵, 濱渦 康範, 筒井 歩	
		食品分子機能学ユニット	片山 茂, 河原 岳志, 田中 沙智, 三谷 墨一	
	生物資源科学分野	動物資源生産学ユニット	神 勝紀, 濱野 光市, 平松 浩二, 上野 豊, 竹田 謙一	
		植物資源生産学ユニット	春日 重光, 伴野 潔, 松島 憲一, 北村 嘉邦, 根本 和洋, 鈴木 香奈子	
		生産環境システム学ユニット	萩原 素之, 渡邊 修, 濱野 充, 角田 智詞, 小林 みずき	
	環境共生学分野	森林資源利用学ユニット	植木 達人, 加藤 正人, 武田 孝志, 小林 元, 細尾 佳宏, 上村 佳奈	
		地域環境共生学ユニット	泉山 茂之, 大窪 久美子, 佐々木 邦博, 上原 三知, 鈴木 純, 内川 義行, 三木 敦朗	
		山岳環境保全学ユニット	岡野 哲郎, 平松 晋也, 荒瀬 輝夫, 安江 恒, 小野 裕, 城田 徹央, 福山 泰治郎	
	生命医工学専攻	生命工学分野	生命工学ユニット	鏡味 裕, 藤井 博, 保坂 毅, 米倉 真一, 伊原 正喜, 入枝 泰樹, 梅澤 公二, 荻田 佑, 富岡 郁夫, 諸白 家奈子



## 6. 専攻別の修了要件及び授業科目一覧

### 2019年度入学 農学専攻 修了要件 及び 履修方法

- ・修士課程に2年以上在学し、下記のとおり30単位以上を修得すること。(※地域共生マネジメントプログラムの修了要件は別に定める。)
  - ・研究科共通科目「研究者倫理特別講義 (CITI-Japan&講義)」2単位、専攻共通科目「食と緑の科学特論」2単位、所属ユニットから10単位、所属分野の分野共通から「特別研究」、「特別演習」及び「Advanced Study 科目」の14単位、その他(総合理工学研究科で開講されている授業科目)2単位、計30単位以上を修得する。
  - ・必要な研究指導を受けた上、修士論文または特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。
- ※ただし、在学期間に関しては、研究科が優れた業績を上げたと認める者については、修士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

#### [地域共生マネジメントプログラムの修了要件]

- ・修士課程に原則1年以上在学し、環境共生学分野から「地域環境計画学特論」2単位、生物資源科学分野から「生産環境システム学特論 I」2単位及びプログラムの科目26単位、計30単位を修得する。
- ・必要な研究指導を受けた上、修士論文または特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。

#### [山岳科学教育プログラムの修了要件]

- ・専攻の修了要件を満たし、山岳科学教育科目の「山岳科学概論 A」、「山岳科学概論 B」、「山岳フィールド実習 A」及び「山岳フィールド実習 B」の4単位並びに山岳科学に関する科目群より4単位以上(生物圏、地球圏、人間圏から2つ以上の群を含む。)の計8単位以上を修得すること。ただし、山岳科学教育科目は専攻の修了要件に含むことができない。
- ・プログラムを履修している期間に開催される山岳科学学術集會に毎年参加し、発表を行うこと。
- ・提出された修士論文が山岳科学に関するものであると認められること。

### 2019年度入学 農学専攻 教諭専修免許状 取得要件

#### [中学校教諭専修免許状(理科)の取得要件]

- ・中学校教諭一種免許状(理科)の取得者であること。
- ・中学(理科)科目欄に○印の付いている科目を、24単位以上修得すること。

#### [高等学校教諭専修免許状(理科)の取得要件]

- ・高等学校教諭一種免許状(理科)の取得者であること。
- ・高校(理科)科目欄に○印の付いている科目を、24単位以上修得すること。

#### [高等学校教諭専修免許状(農業)の取得要件]

- ・高等学校教諭一種免許状(農業)の取得者であること。
- ・高校(農業)科目欄に○印の付いている科目を、24単位以上修得すること。

# 農学専攻の履修プロセス概念図

- ・より豊かな人間社会の構築に貢献できる知識と技術
- ・環境と調和した国際性と地域性に根差した持続的生産に関わる知識と技術
- ・幅広い体系的な基礎学力と実践的技術力とともに高い研究開発能力
- ・農学分野で必要とされる情報収集・分析能力
- ・農学分野での研究成果を発信できるグローバルな情報発信能力

を有する人材

修士(農学)

最終試験の合格

学会誌等への学術論文投稿  
や学会発表等による質の担保

30単位以上を修得

論文審査(論文発表会)  
透明な審査体制/公開による開催

審査委員の決定・複数審査員の  
審査による質の担保

学位論文提出

学位論文題目提出

研究進捗状況に関する中間発表会

論文作成

調査・実験・データ収集

研究計画

特別研究  
・研究手法の修得・論文執筆

分野共通科目

ユニット科目

特別演習Ⅱ

研究開発能力

情報収集・  
分析能力

特別実験実習

実践的技術力

特別演習Ⅰ

特論

Advanced Study 科目

グローバルな  
情報発信能力

特別演習

特論

持続的生産に関わる  
知識と技術

専攻共通科目

幅広い基礎学力

食と緑の科学特論

研究課題の決定  
早期からの計画的な研究指導による質の確保

豊かな人間社会の構築に  
貢献できる知識と技術

研究科共通科目

研究者倫理特別講義  
(CITI-Japan&講義)

指導教員の決定・  
組織的な教育研究指導体制

授業科目・研究指導

学位論文作成・  
論文審査

2年次

1年次

農学分野の幅広い基礎学力を有し、研究に高い意欲をもって取り組むことのできる、持続的発展可能な社会の創造に貢献できる高度専門職業人を志す入学者



# 地域共生マネージメントプログラムの履修プロセス概念図

- ・より豊かな人間社会の構築に貢献できる知識と技術
- ・環境と調和した国際性と地域性に根差した持続的生産に関わる知識と技術
- ・幅広い体系的な基礎学力と実践的技術力とともに高い研究開発能力
- ・農学分野で必要とされる情報収集・分析能力
- ・農学分野での研究成果を発信できるグローバルな情報発信能力

を有する  
専門技術者

修士(農学)

最終試験の合格

学会誌等への学術論文投稿  
や学会発表等による質の担保

## 【地域共生マネージメントプログラム】

修士課程に原則1年以上在学し、環境共生学分野から「地域環境計画学特論」2単位、生物資源科学分野から「生産環境システム学特論Ⅰ」2単位及びプログラムの科目26単位、計30単位を修得する。

地域共生マネージメントプログラム科目

研究開発能力

グローバルな  
情報発信能力

実践的技術力

情報収集・  
分析能力

地域課題探究演習Ⅰ・Ⅱ

地域連携・経営学特論Ⅰ・Ⅱ

中山間地域管理学

動植物環境共生学特論

食品バイオサイエンス特論

生命産業科学特論

生産環境システム学特論Ⅰ

地域環境計画学特論

特別研究  
・研究手法の修得  
・論文執筆

研究進捗状況に関する中間発表会

調査・実験・データ収集

論文作成

研究計画

豊かな人間社会の構築に  
貢献できる知識と技術

持続的生産に関わる  
知識と技術

幅広い基礎学力

研究課題の決定  
早期からの計画的な研究指導による質の確保

指導教員の決定・  
組織的な教育研究指導体制

学位論文作成・  
論文審査

授業科目・研究指導

1年次

農学分野の幅広い基礎学力を有し、研究に高い意欲をもって取り組むことのできる、持続的発展可能な社会の創造に貢献できる高度専門職業人を志す社会人

# 2019年度入学 農学専攻 授業科目一覧

科目区分	履修登録コード	授業科目の名称	単位数	教職科目			配当年次	備考	
				中学理科	高校理科	高校農業			
研究科共通科目	FS102500	MOT特論	2				1・2		
	FS103500	産学連携特別講義	2				1・2		
	FS104500	国際連携特別講義I	1				1・2		
	FS105500	国際連携特別講義II	1				1・2		
	AS106500	科学英語	2				1・2		
	AS107500	大学院と社会	2				1・2		
	AS108500	臨床医学概論	2				1・2		
	AS109500	研究者倫理特別講義	2				1・2		
	AS110500	科学技術政策特論	2				1・2	隔年開講	
	AS110501	研究者・技術者をめざす大学院生のキャリア設計	2				1・2		
専攻共通科目	AS200500	食と緑の科学特論	2	○	○		1		
	AS201500	国際農学特論I	2				1・2		
	AS202500	国際農学特論II	2				1・2		
	AS203500	国際農学特論III	2				1・2		
	AS204500	国際農学特論IV	2				1・2		
	AS205500	国際農学特別演習I	2				1・2		
	AS206500	国際農学特別演習II	2				1・2		
	AS207500	国際農学特別実習I	2				1・2		
	AS208500	国際農学特別実習II	2				1・2		
AS209500	海外農学特別実習	2				1・2			
先端生命科学分野	生命機能工学ユニット	ASB00500	基礎生命機能科学特論	2	○	○		1	
		ASB01500	生命機能科学特論	2	○	○		1	
		ASB02500	生命機能工学特別演習I	2	○	○		1	
		ASB03600	生命機能工学特別演習II	2	○	○		2	
		ASB04500	生命機能工学特別実験実習	2	○	○		1	
	細胞システム科学ユニット	ASC00500	細胞システム科学特論	2	○	○		1	
		ASC01500	動物細胞工学特論	2			○	1	
		ASC02500	細胞システム科学特別演習I	2	○	○		1	
		ASC03600	細胞システム科学特別演習II	2	○	○		2	
		ASC04500	細胞システム科学特別実験実習	2	○	○		1	
	生物共生科学ユニット	ASD00500	菌類共生科学特論	2	○	○		1	
		ASD01500	農環境特論	2			○	1	
		ASD02500	生物共生科学特別演習I	2	○	○		1	
		ASD03600	生物共生科学特別演習II	2	○	○		2	
		ASD04500	生物共生科学特別実験実習	2	○	○		1	
	分野共通	ASA00500	先端生命科学特論	2	○	○		1	
		ASA01500	先端生命科学特別演習	2				1	
		ASA02500	特別インターンシップ(短期)	2				1・2	
		ASA036**	特別研究	10				2	
		ASA04500	Advanced Study for Life Science	2				1・2	
食品生命科学分野	食品生物機能科学ユニット	ASF00500	応用微生物学特論	2	○	○		1	
		ASF01500	分子生物・遺伝子工学特論	2	○	○		1	
		ASF02500	食品生物機能科学特別演習I	2	○	○		1	
		ASF03600	食品生物機能科学特別演習II	2	○	○		2	
		ASF04500	食品生物機能科学特別実験実習	2	○	○		1	
	食料機能解析学ユニット	ASG00500	食料分析化学特論	2	○	○		1	
		ASG01500	食料機能解析学特論	2	○	○		1	
		ASG02500	食料機能解析学特別演習I	2	○	○		1	
		ASG03600	食料機能解析学特別演習II	2	○	○		2	
		ASG04500	食料機能解析学特別実験実習	2	○	○		1	
	食品分子機能学ユニット	ASH00500	食品分子機能学特論	2	○	○		1	
		ASH01500	食品機能開発学特論	2	○	○		1	
		ASH02500	食品分子機能学特別演習I	2	○	○		1	
		ASH03600	食品分子機能学特別演習II	2	○	○		2	
		ASH04500	食品分子機能学特別実験実習	2	○	○		1	
	機能性食品創製学ユニット	ASI00500	機能性食品創製学特論I	2				1・2	
		ASI01500	機能性食品創製学特論II	2				1・2	
	分野共通	ASE00500	食料資源利用学特論	2			○	1	
		ASE01500	食品生命科学特別演習	2				1	
		ASE02500	特別インターンシップ(短期)	2				1・2	
ASE036**		特別研究	10				2		
ASE04500		Advanced Study for Food Science	2				1・2		

科目区分	履修登録コード	授業科目の名称	単位数	教職科目			配当年次	備考	
				中学理科	高校理科	高校農業			
生物資源科学分野	動物資源生産学ユニット	ASK00500	動物資源生産学特論Ⅰ	2	○	○		1	
		ASK01500	動物資源生産学特論Ⅱ	2			○	1	
		ASK02500	動物資源生産学特別演習Ⅰ	2	○	○		1	
		ASK03600	動物資源生産学特別演習Ⅱ	2			○	2	
		ASK04500	動物資源生産学特別実験実習	2	○	○		1	
	植物資源生産学ユニット	ASL00500	植物資源生産学特論Ⅰ	2	○	○		1	
		ASL01500	植物資源生産学特論Ⅱ	2			○	1	
		ASL02500	植物資源生産学特別演習Ⅰ	2	○	○		1	
		ASL03600	植物資源生産学特別演習Ⅱ	2			○	2	
		ASL04500	植物資源生産学特別実験実習	2	○	○		1	
	生産環境システム学ユニット	ASM00500	生産環境システム学特論Ⅰ	2			○	1	
		ASM01500	生産環境システム学特論Ⅱ	2			○	1	
		ASM02500	生産環境システム学特別演習Ⅰ	2	○	○		1	
		ASM03600	生産環境システム学特別演習Ⅱ	2			○	2	
		ASM04500	生産環境システム学特別実験実習	2	○	○		1	
	分野共通	ASJ00500	生物・食資源生産学特論	2	○	○		1	
		ASJ01500	生物資源科学特別演習	2			○	1	
		ASJ02500	特別インターンシップ（短期）	2				1・2	
		ASJ036**	特別研究	10				2	
ASJ04500		Advanced Study for Biological Resources	2				1・2		
ASJ05500	高冷地先端農業特別演習	2				1・2			
環境共生学分野	森林資源利用学ユニット	ASO00500	森林資源利用学特論	2	○	○		1	
		ASO01500	木材理学特論	2	○	○		1	
		ASO02500	森林資源利用学特別演習Ⅰ	2	○	○		1	
		ASO03600	森林資源利用学特別演習Ⅱ	2	○	○		2	
		ASO04500	森林資源利用学特別実験実習	2	○	○		1	
	地域環境共生学ユニット	ASP00500	地域環境計画学特論	2			○	1	
		ASP01500	緑地環境評価学特論	2	○	○		1	
		ASP02500	地域環境共生学特別演習Ⅰ	2			○	1	
		ASP03600	地域環境共生学特別演習Ⅱ	2	○	○		2	
		ASP04500	地域環境共生学特別実験実習	2	○	○		1	
	山岳環境保全学ユニット	ASQ00500	山地保全学特論	2			○	1	
		ASQ01500	森林生態学特論	2	○	○		1	
		ASQ02500	山岳環境保全学特別演習Ⅰ	2	○	○		1	
		ASQ03600	山岳環境保全学特別演習Ⅱ	2	○	○		2	
		ASQ04500	山岳環境保全学特別実験実習	2	○	○		1	
	分野共通	ASN00500	環境共生学特論	2			○	1	
		ASN01500	環境共生学特別演習	2				1	
		ASN02500	特別インターンシップ（短期）	2				1・2	
		ASN036**	特別研究	10				2	
ASN04500		Advanced Study for Environmental Science	2				1・2		
地域共生 マネージメント プログラム	AS400500	地域連携・経営学特論Ⅰ	2				1		
	AS401500	地域連携・経営学特論Ⅱ	2				1		
	AS402500	動植物環境共生学特論	2				1		
	AS403500	食品バイオサイエンス特論	2				1		
	AS404500	中山間地域管理学	2				1		
	AS405500	生命産業科学特論	2				1		
	AS406500	地域課題探究演習Ⅰ	2				1		
	AS407500	地域課題探究演習Ⅱ	2				1		
	AS408500	特別研究	10				1		

# 山岳科学教育プログラム授業科目一覧

科目区分	履修登録コード	授業科目	単位数	授業形態	配当年次	備考
山岳科学教育科目	AS501500	山岳科学概論A	1	講義	1・2	
	AS502500	山岳科学概論B	1	講義	1・2	
	AS503501	山岳フィールド実習A（地質調査）	0.5	実習	1・2	
	AS503502	山岳フィールド実習A（臨湖実習A-1）	0.5	実習	1・2	
	AS503503	山岳フィールド実習A（臨湖実習A-2）	0.5	実習	1・2	
	AS503504	山岳フィールド実習A（臨湖実習B）	1	実習	1・2	
	AS503505	山岳フィールド実習A（山岳地形・生物地理実習A）	0.5	実習	1・2	
	AS503506	山岳フィールド実習A（山岳地形・生物地理実習B）	1	実習	1・2	
	AS503507	山岳フィールド実習A（森林生産実践アドバンスA）	0.5	実習	1・2	
	AS503508	山岳フィールド実習A（森林生産実践アドバンスB）	0.5	実習	1・2	
	AS503509	山岳フィールド実習A（高冷地先端農業特別演習）	1	実習	1・2	
	AS503510	山岳フィールド実習A（森林利用デザイン）	1	実習	1・2	
	AS503511	山岳フィールド実習A（木材工学）	1	実習	1・2	
	AS503512	山岳フィールド実習A（自然の成り立ち）	1	実習	1・2	
	AS503513	山岳フィールド実習A（山岳環境保全）	1	実習	1・2	
	AS504500	山岳フィールド実習B	1	実習	1・2	
山岳科学に関する科目	ASQ01500	森林生態学特論	2	講義	1・2	農学専攻
	ASO00500	森林資源利用学特論	2	講義	1・2	農学専攻
	ASO01500	木材理学特論	2	講義	1・2	農学専攻
	ASP01500	緑地環境評価学特論	2	講義	1・2	農学専攻
	ASD00500	菌類共生科学特論	2	講義	1・2	農学専攻
	ASL01500	植物資源生産学特論Ⅱ	2	講義	1・2	農学専攻
	ASM00500	生産環境システム学特論Ⅰ	2	講義	1・2	農学専攻
	SSE11500	系統発生学	2	講義	1・2	理学専攻
	SSE04500	情報生理学	2	講義	1・2	理学専攻
	SSE01500	発生学	2	講義	1・2	理学専攻
	SSE02500	遺伝子情報学	2	講義	1・2	理学専攻
	SSE12500	植物病理学	2	講義	1・2	理学専攻
	SSF10500	化学生態学	2	講義	1・2	理学専攻
	SSF07500	地域環境学Ⅰ	2	講義	1・2	理学専攻
	SSF08500	地域環境学Ⅱ	2	講義	1・2	理学専攻
	SSF15500	根圏生態学	2	講義	1・2	理学専攻
	ASQ00500	山地保全学特論	2	講義	1・2	農学専攻
	SSD01500	古環境復元論	2	講義	1	理学専攻
	SSD02500	古環境変動論	2	講義	1	理学専攻
	SSD03500	地殻構造形成論	2	講義	1	理学専攻
	SSD04500	シーケンス層序学	2	講義	1	理学専攻
	SSD05500	変形構造解析論	1	講義	1	理学専攻
	SSD09500	鉱物変移論	2	講義	1	理学専攻
	SSD10500	地殻火成活動史	2	講義	1	理学専攻
	SSD11500	岩石磁気学	2	講義	1	理学専攻
	SSE10500	進化生態学	2	講義	1・2	理学専攻
	SSE09500	植物進化学	2	講義	1・2	理学専攻
	SSE08500	進化生態遺伝学	2	講義	1・2	理学専攻
	SSF01500	環境計測学	2	講義	1・2	理学専攻
	SSF02500	堆積学特論	2	講義	1・2	理学専攻
	SSF03500	大気陸面相互作用論	2	講義	1・2	理学専攻
	ASN00500	環境共生学特論	2	講義	1・2	農学専攻
	ASP00500	地域環境計画学特論	2	講義	1・2	農学専攻
ASJ00500	生物・食資源生産学特論	2	講義	1・2	農学専攻	
ASL00500	植物資源生産学特論Ⅰ	2	講義	1・2	農学専攻	
TSX09500	サステイナブル建築設計学	2	講義	1・2	工学専攻	
TSX05500	建築保存再生設計学	2	講義	1・2	工学専攻	
TSY07500	建築史学特論	2	講義	1・2	工学専攻	
TSY01500	建築環境設計学	2	講義	1・2	工学専攻	
他大学履修科目	AS505500	山岳科学連携講義Ⅰ	1	講義	1・2	他大学の山岳科学に関する科目を履修した場合に、左記の科目に読替えることができます。その読替については、連携大学大学院の指定に準じます。
	AS506500	山岳科学連携講義Ⅱ	1	講義	1・2	
	AS507500	山岳科学連携講義Ⅲ	1	講義	1・2	
	AS508500	山岳科学連携講義Ⅳ	1	講義	1・2	
	AS509500	山岳科学連携講義Ⅴ	1	講義	1・2	
	AS510500	山岳科学連携講義Ⅵ	1	講義	1・2	
	AS511500	山岳科学連携演習Ⅰ	1	演習	1・2	
	AS512500	山岳科学連携演習Ⅱ	1	演習	1・2	
	AS513500	山岳科学連携演習Ⅲ	1	演習	1・2	
	AS514500	山岳科学連携演習Ⅳ	1	演習	1・2	
AS515500	山岳科学連携演習Ⅴ	1	演習	1・2		
AS516500	山岳科学連携演習Ⅵ	1	演習	1・2		

## 2019 年度入学 生命医工学専攻 修了要件 および 履修方法

### 1. 修了要件

修士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士課程の目的に応じ、修士論文または特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することです。

ただし、在学期間に関しては、研究科が優れた業績を上げたと認めた場合には、修士課程に1年以上在学すれば足りるものとなっています。

### 2. 履修方法

生命医工学専攻では、以下のとおりです。履修計画は指導教員の先生と良く相談したうえで、立てるようにしてください。

#### 【生命工学分野】

講義 18 単位以上（研究科共通科目及び専攻共通科目の必修科目 4 単位，生命工学分野専門科目の必修科目 2 単位を含む），演習 4 単位（生命工学分野専門科目の必修科目），特別実験 8 単位（生命工学分野専門科目の必修科目），計 30 単位以上を修得する。

#### 【生体医工学分野】

講義 18 単位以上（研究科共通科目及び専攻共通科目の必修科目 4 単位，生体医工学分野専門科目の必修科目 2 単位と選択科目 2 単位以上を含む），演習 4 単位（生体医工学分野専門科目の必修科目），特別実験 8 単位（生体医工学分野専門科目の必修科目），計 30 単位以上を修得する。

#### <修了に必要な単位>

分野	講義	演習	特別実験	合計
生命工学分野	18 以上	4	8	30 以上
生体医工学分野	18 以上	4	8	30 以上

- ・履修に当たって、自分の所属分野の選択科目から8単位以上、修得することが望ましい。
- ・「力学基礎Ⅰ・Ⅱ」は、保健・生物・農学分野を学んできた学生に理工学系の基礎を身に付けてもらうため、「生物学基礎Ⅰ・Ⅱ」は、理学・工学分野を学んできた学生に医学・生物学の基礎を身に付けてもらうため、全員が1年次の時に履修することが望ましい科目です。

## 2019 年度入学 生命医工学専攻 教諭専修免許状 取得要件

#### [中学校教諭専修免許状（理科）の取得要件]

- ・中学校教諭一種免許状（理科）の取得者であること。
- ・中学(理科)科目欄に○印の付いている科目を、24 単位以上修得すること。

#### [高等学校教諭専修免許状（理科）の取得要件]

- ・高等学校教諭一種免許状（理科）の取得者であること。
- ・高校(理科)科目欄に○印の付いている科目を、24 単位以上修得すること。

# 生命医工学専攻(生命工学分野)の履修プロセス概念図

- ・健康・福祉・医療・創薬分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
  - ・環境調和社会, 知識基盤社会を多様に支える健康・福祉・医療・創薬分野の高度な専門知識と実践的技術力
  - ・さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
  - ・専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力
- 以上の能力を有する人材

『修士(医工学)』学位授与

最終試験の合格

修士論文の保管  
附属図書館

・質の保証

30単位以上を修得

講義科目 18単位以上  
(研究科共通科目及び専攻共通科目(必修)各2単位)  
(分野専門科目(必修)2単位) }含む

専門科目

生命工学特論(必修), 先進応用生命科学特論, 生命情報科学特論, 先進生命化学特論, 分子生物学特論  
10単位  
専門的知識・能力

専攻共通科目

応用科目

病院インターンシップ研修 1単位  
行政・企業インターンシップ研修 2~6単位  
実践教育による専門的知識

基礎科目

力学基礎 I + 力学基礎 II 4単位  
生物学基礎 I + 生物学基礎 II 4単位  
(出身学部で履修していない学生対象)  
異分野領域の基礎的知識

医療倫理学・社会医工学  
専門分野の基本的知識 2単位(必修)

研究科共通科目

研究者倫理特別講義 2単位(必修)  
研究者としての倫理観の醸成

演習4単位(必修)  
特別実験8単位(必修)

研究手法の修得・論文執筆  
複数教員による指導

研究分野の専門的知識  
科学・技術発展の見解・倫理観

思考や妥当性の説明・批判的思考力  
研究・開発能力

情報収集・分析能力  
情報発信能力

研究課題の決定

・質の担保  
早期から計画的な研究指導

指導教員の決定

・組織的な教育研究体制  
・質の担保  
複数研究分野教員による補助指導

論文審査

論文発表会

・透明な審査体制  
公開による開催

学位論文提出

審査委員の決定

・透明な審査体制  
主査1名、副査2名以上

論文題目決定

学位論文作成・論文審査

授業科目・研究指導

2年次

1年次

1. 大学等において能動的に学び、一般教養及び専門分野の基礎学力を身に付けている人
2. 健康・医療・福祉分野の基礎的あるいは応用的研究に高い意欲をもって取り組む人
3. 科学技術を担う研究者あるいは高度専門職業人として社会をリードするとともに、その技術と知識を持って国際社会に貢献する意欲を持つ人
4. 科学技術の発展が社会にもたらす影響について十分に考え、社会及び自然環境に配慮したものづくりを目指す人

# 2019年度入学 生命医工学専攻 授業科目一覧

科目区分	履修登録コード	授業科目の名称	単位数		教職科目		配当年次	備考	
			必修	選択	中学理科	高校理科			
研究科共通科目	FS102500	MOT特論		2			1・2		
	FS103500	産学連携特別講義		2			1・2		
	FS104500	国際連携特別講義I		1			1・2		
	FS105500	国際連携特別講義II		1			1・2		
	BS106500	科学英語		2			1・2		
	BS107500	大学院と社会		2			1・2		
	BS108500	臨床医学概論		2			1・2		
	BS109500	研究者倫理特別講義	2				1・2		
	BS110500	科学技術政策特論		2			1・2	隔年開講	
	BS110501	研究者・技術者をめざす大学院生のキャリア設計		2			1・2		
専攻目共通	基礎科目	BS201500	医療倫理学・社会医工学	2			1・2		
	応用科目	BS271500	病院インターンシップ研修		1		1・2		
		BS272500	行政・企業インターンシップ研修		4 ～6		1・2		
生命工学分野	基礎科目	BSA01500	力学基礎 I		2	○	○	1	共同
		BSA02500	力学基礎 II		2	○	○	1	共同
	専門科目	BSB01500	生命工学特論	2		○	○	1	オムニバス
		BSB02500	先進応用生命科学特論		2	○	○	1・2	オムニバス
		BSB03500	生命情報科学特論		2	○	○	1・2	オムニバス
		BSB04500	先進生命化学特論		2	○	○	1・2	共同
		BSB05500	分子生物科学特論		2	○	○	1・2	
		BSB815**	生命工学演習 I	1				1	
		BSB825**	生命工学演習 II	1				1	
		BSB836**	生命工学演習 III	1				2	
		BSB846**	生命工学演習 IV	1				2	
		BSB915**	生命工学特別実験 I	2				1	
		BSB925**	生命工学特別実験 II	2				1	
		BSB936**	生命工学特別実験 III	2				2	
		BSB946**	生命工学特別実験 IV	2				2	
生体医工学分野	基礎科目	BSC01500	生物学基礎 I		2	○	○	1	
		BSC02500	生物学基礎 II		2	○	○	1	
	専門科目	BSD01500	生体医工学特論	2		○	○	1	オムニバス
		BSD02500	生体ロボット学特論		2			1・2	
		BSD04500	生体流体力学特論		2	○	○	1・2	
		BSD05500	生体マイクロデバイス特論		2	○	○	1・2	
		BSD06500	生体情報システム学特論		2	○	○	1・2	
		BSD07500	基礎連続体統計学特論		2			1・2	
		BSD08500	動物行動学特論		2	○	○	1・2	
		BSD09500	生体材料学特論		2	○	○	1・2	
		BSD10500	バイオメカニクス特論		2	○	○	1・2	
		BSD11500	生体応答学特論		2	○	○	1・2	オムニバス
		BSD12500	生体計測学特論		2	○	○	1・2	
		BSD13500	組織工学特論		2				
		BSD815**	生体医工学演習 I	1				1	
		BSD825**	生体医工学演習 II	1				1	
		BSD836**	生体医工学演習 III	1				2	
		BSD846**	生体医工学演習 IV	1				2	
		BSD915**	生体医工学特別実験 I	2				1	
		BSD925**	生体医工学特別実験 II	2				1	
BSD936**	生体医工学特別実験 III	2				2			
BSD946**	生体医工学特別実験 IV	2				2			





# 7. 信州大学大学院総合理工学研究科学位論文等審査及び最終試験並びに修了判定実施要項

(趣旨)

第1条 この要項は、信州大学大学院学則（平成16年4月7日信州大学学則第2号。以下「大学院学則」という。）第43条の規定に基づき、信州大学大学院総合理工学研究科（以下「研究科」という。）の学位論文又は特定の課題についての研究の成果（以下「学位論文等」という。）の審査及び最終試験並びに修了判定の実施に関し必要な事項を定める。

(学位論文等の提出)

第2条 学位論文等の提出は、次の各号のとおり行う。

- 一 申請者は「修士学位論文等審査申請書」（様式1）に学位論文等、「修士学位論文等要旨」（様式2）を添えて指導教員を経て研究科長に提出する。
- 二 提出期限は、3月又は9月修了に応じて各専攻の定める日とする。

(審査委員会)

第3条 学長からの付託を受けて、研究科委員会は申請者1名について3名以上の研究科の研究指導教員（主査1名、副査2名以上）をもって組織する審査委員会を設け、学位論文等の審査及び最終試験を行う。ただし、審査委員会の設置は各専攻に委託する。

- 2 前項の学位論文の審査に当たっては、各専攻が必要と認めた場合、他の研究科、他の大学院又は研究所等の教員等を副査として加えることができる。
- 3 審査委員会は、学位論文等の審査結果並びに最終試験結果を「修士学位論文等審査及び最終試験結果報告書」（様式3）により、研究科長に報告する。

(学位論文等の審査)

第4条 学位論文等審査は、3月又は9月修了に応じて各専攻の定める期間に行うと共に、発表会を開く。

(最終試験)

第5条 最終試験は学位論文等に関係ある科目について口頭又は筆答により行う。

- 2 最終試験は、3月又は9月修了に応じて各専攻の定める期日までに行う。

(博士課程学位プログラム)

第6条 第2条～第5条の規定に係わらず、大学院学則第27条の3第1項第1号に定めるファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成プログラムの履修生については別に定める。

(修了判定)

第6条 研究科委員会は、審査委員会の報告に基づき、課程修了の可否について議決する。

(学位論文等の保管)

第8条 学位論文等は、審査終了後、学部の図書館及び指導教員がそれぞれ保管する。この場合、指導教員が学位論文を保管する期間は、当該指導教員が信州大学に在職する期間とする。なお、学位論文は、印刷物又は電子媒体で保管する。

(雑則)

第9条 この要項により難い事案が発生した場合は、研究科委員会において審議の上、決定する。

附 則

この要項は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

1. この要項は、平成29年11月9日から施行する。

# 8. 修士論文関係様式

様式 1

(元号) 年 月 日  
Request made on (YYYYMMDD)

信州大学長殿  
To: The President, Shinshu University

(元号) 年度入学  
Year of Admission

信州大学院総合理工学研究科  
Graduate School of Science and Technology, Shinshu University

専攻 分野  
Department Division

学籍番号  
Student ID

申請者(自題印)  
Student Name

英文氏名  
Student Name

生年月日 昭和・平成・西暦 年 月 日生  
Date of Birth (YYYYMMDD) 外国籍の方のみ西暦で記入してください

## 修士論文等審査申請書 Request for Master's Dissertation or Selected Topical Research Evaluation

このたび、信州大学学位規程第4条の規定により、修士（ ）の学位を受けたいので、下記の学位論文等を提出いたしますから御審査くださるよう申請いたします。

In compliance with the rules and regulations of Shinshu University, Article 4, I hereby request a Master's Dissertation or Selected Topical Research Evaluation to receive a Master's Degree in \_\_\_\_\_ . The dissertation title is stated below.

記

学位論文等題名 Title	
------------------	--

※申請者名・英文氏名は学位記に記載される漢字・綴りを記入してください。(※英文氏名 Shinshu Taroh)  
※学位論文等題名が外国語の場合は、その和訳を（ ）書きで併記すること。

様式 2

## 修士學位論文等要旨 Abstract of Master's Dissertation or Selected Topical Research

論文提出者 / The person who submits a thesis	専攻名 / Department 分野名 / Division 学籍番号 / Student ID 氏名 / Name
論文等題目 / Title	専攻分野
論文等要旨 (1,000字以内) / Abstract (Within 1,000 characters in Japanese or 300 words in English)	

信州大学院総合理工学研究科

# 修士論文作成要領

1 規格 A4判 (自著3通とする。)

2 装丁等

- ① 市販のファイル (淡青色) を使用し、左とじとする。  
表紙及び背表紙には、右図の事項を記載する。
- ② 表紙の次の頁に表紙と同様な事項を記載したものを綴じ込む。
- ③ 次に目次を綴じ込む。
- ④ 次に本文を綴じ込む。(頁を記入)
- ⑤ 論文内容の要旨は、別に添付する。

3 本文の作成方法

ア 和文の場合

- ① 手書きの場合は、指定の原稿用紙を使用し横書きとする。
- ② パソコン等による場合は、1頁当たり900字(30字×30行)を目安とし、横書きとする。用紙は厚手のA4判用紙とする。

イ 外国語の場合

- ① パソコン等を使用し、用紙は厚手のA4判用紙とする。
- ② 行数は、1頁当たり約30行とする。
- ③ 「論文内容の要旨」は、日本語で作成する。

ウ その他

右図のように余白を取る。(特に図、表の場合  
紙面いっぱいにならないように注意する。)

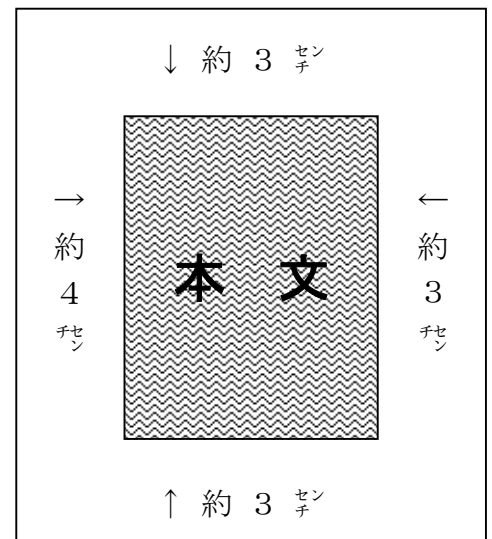
4 その他

ア 提出する論文のうち、副本(2部)はコピーでよいが、  
カラー写真及び着色した図は、正本と同じものを使用する。

イ 両面刷りも可とする。

(表紙)

論文 題 名	学 位 論 文 (論文題名) (元号)〇〇年度
	氏 名
	信州大学大学院 総合理工学研究科 〇〇〇〇専攻 氏名 〇〇〇〇



## 9. 信州大学大学院総合理工学研究科修士論文評価基準

信州大学大学院総合理工学研究科は、以下の基準に拠り、論文審査および口頭試問等を経て、審査委員会が最終的な評価を決定する。

### 1. [独創性・意義]

研究目的、研究手法あるいは研究成果は、十分な独創性または意義を有するか。また、学術研究が従うべき規範を守り、研究者としての研究倫理を身に付けているか。

### 2. [実験・調査]

研究を遂行するために実施した実験・調査は、適切な方法に基づいて行なわれているか。また、その分析は正確で、結果や解釈が妥当であるか。

### 3. [関連資料・参考文献]

研究を遂行するために利用した関連資料・参考文献について、正確な読解、的確な把握、また妥当な解釈がなされているか。あるいは客観的に正当な批判や批評が提示されているか。

### 4. [論証方法・論旨とデータ（資料）の提示方法]

問題提起から結論にいたる論証方法と論旨は、明解かつ妥当であるか。また実験データ・調査資料の提示と展開の方法は適切であるか。

### 5. [表現の的確性]

日本語もしくは使用外国語について、語句や学術用語の使用は的確で、文章表現は論理的であるか。

### 6. [論文の体裁]

本文、章立て、注記、関連資料・参考文献からの引用、図表等は、論文構成において、体裁が整っているか。

### 7. [総合的評価]

当該分野の研究において、総合的に評価して修士論文に値するか。

(ただし書き)

- 1) 項目2と3の評価基準は、いずれか一方、もしくは両方を採択しうることを示す。
- 2) 参考図書・論文・史料・統計資料・辞書・地図・インターネット資料その他、参照する全ての資料・図版等については、「関連資料・参考文献」と表記した。
- 3) 実験、実地調査、聞き込み調査、情報・資料提供者（インフォーマント）との面談等、実施する全ての研究作業については、「実験・調査」と表記した。
- 4) 前項の「実験・調査」によって収集され、分析の対象となるもの全てについては、「実験データ・調査資料」と表記した。

附 則

この基準は平成28年4月1日より施行する。

# 10. 信州大学大学院総合理工学研究科における 長期履修学生制度の取扱要項

この取扱要項は、信州大学大学院総合理工学研究科規程（平成 28 年信州大学規程第 268 号）第 16 条に定める長期にわたる教育課程の履修（以下「長期履修学生制度」という。）について、社会人学生等を対象に計画的な長期在学・履修により修学の便宜と授業料の軽減を図ることを目的として、本研究科における取扱いを、次のとおり定める。

## 1. 申請資格

原則として職業を有している社会人とする。

## 2. 長期履修の開始日

原則として年次の始めとする。

## 3. 長期履修の在学年限

4 年間を超えることはできない。

## 4. 申請手続き

長期履修を希望する学生は、入学手続期間内に「長期履修希望調書」（別紙様式 1）を、入学後に「長期にわたる教育課程の履修申請書」（別紙様式 2）を研究科長に提出する。

在学生にあつては 1 年次の後学期が終了する 2 か月前までに「長期にわたる教育課程の履修申請書」（別紙様式 2）を研究科長に提出する。

休学に伴う変更については、「休学に伴う長期にわたる教育課程の履修計画変更申請書」（別紙様式 3-1）を研究科長に提出する。

また、相当の理由により長期履修期間を延長する場合は、「長期にわたる教育課程の履修期間変更申請書」（別紙様式 3-2）を研究科長に提出する。

## 5. 履修期間の短縮申請手続き

申請が認められた学生が在学期間を短縮する場合は、各学期が終了する 2 か月前までに「長期にわたる教育課程の履修期間の短縮申請書」（別紙様式 4）を研究科長に提出する。

## 6. 審査及び報告

研究科長は、提出された申請書の審査を専攻会議に付託する。

なお、審査結果は、当該学生あてに許可書（別紙様式 5, 6-1, 6-2, 7）を通知するとともに、学長に報告（別紙様式 8, 9-1, 9-2, 10）する。

## 7. 授業料の納入

申請を許可された学生は、「信州大学授業料等に関する規程（平成 16 年信州大学規程第 85 号）」が定める長期履修学生の所定の授業料を各学期の納期限までに納入する。そのほか、短縮を許可された場合及び学年途中で修了する場合も同規程による。

## 附 則

この取扱いは、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

# 11. 学生の表彰及び懲戒について

## (1) 表彰

大学生活の中で正課・課外活動において表彰に値する行為があったときは、これをたたえ功績に応じ「学長賞」・「功労賞」・「農学部長賞」「同窓会長賞」「後援会長賞」の表彰をします。

### 学長賞

- 一 信州大学（以下「本学」という。）における課外活動の成果が特に顕著であり、かつ、本学の課外活動の振興に功績があったと認められるもの

※該当するもの

スポーツ活動で、オリンピック、世界選手権、日本選手権等のスポーツの権威ある大会に出場し、優れた成績を収めたもの文学、絵画、彫刻、音楽、演劇等の芸術・文化活動で、作品、公演等が国際レベル又は国内最高レベルの審査等で高い評価を得たもの

- 二 社会活動において優れた評価を受け、かつ、本学の名誉を著しく高めたと認められるもの

※該当するもの

ボランティア活動、人命救助、犯罪防止、火災防止等の社会活動で、社会的に優れた評価を受け、その活動が国内外の公的機関において表彰されたもの

- 三 その他前2号と同等又はそれ以上の表彰に価する行為等があったと認められるもの

### 功労賞

- 一 本学における課外活動の成果が顕著であり、かつ、本学の課外活動の振興に功績があったと認められるもの

※該当するもの

スポーツ活動で、オリンピック、世界選手権、日本選手権等に準ずる大会に出場し、優れた成績を収めたもの文学、絵画、彫刻、音楽、演劇等の芸術・文化活動で、作品、公演等が国内レベルの審査等で高い評価を得たもの

- 二 社会活動において優れた評価を受け、かつ、本学の名誉を高めたと認められるもの

※該当するもの

ボランティア活動、人命救助、犯罪防止、火災防止等の社会活動で、社会的に優れた評価を受けたもの

- 三 その他前2号と同等又はそれ以上の表彰に価する行為等があったと認められるもの

農学部長賞 [対象学生：農学部、総合理工学研究科（伊那キャンパス）、総合医理工学研究科（伊那キャンパス）の学生]

- 一 農学部における学業成績が特に優秀又は学術研究の成果が特に顕著であると認められるもの
- 二 スポーツ活動で優れた成績を収めたもの
- 三 芸術・文化活動で高い評価を受けたもの
- 四 社会活動で高い評価を受けたもの
- 五 その他前4号と同等又はそれ以上の表彰に価する行為等があったと認められるもの

同窓会長賞 [対象学生：農学部の学生]

信州大学農学部における学業成績が優秀であると認められるもの

- 一 「ゆりのき賞」は学生生活をも考慮して、表彰に価すると認められる学部卒業予定者のうち各コース1名を原則とする
- 二 「からまつ賞」は3年生までの学業成績が優秀でありかつ学生生活をも考慮して、表彰に価すると認められる在学生のうち各コース1名を原則とする

後援会長賞 [対象学生：農学部、総合理工学研究科（伊那キャンパス）の学生]

- ・ 農学部のコースごとに専攻研究が高い評価を得たと認められるもの
- ・ 総合理工学研究科（伊那キャンパス）の分野ごとに修士論文が高い評価を得たと認められるもの

## (2) 懲戒

本学の規則に違反し、または学生としての本分に反する【表1】のような行為は、懲戒（退学・停学・訓告）の対象となります。

対象となる行為には、飲酒、自動車運転、コンピューターやネットワークに関することなど、身近な行為が原因となることもあります。

本学が実施する試験等における不正行為（カンニング、コピー&ペーストなど）を行った場合も、懲戒となり、修業年限内に卒業できなくなります。さらに、【表2】のとおり修得した単位の認定が取り消されます。

懲戒手続は、P79の「信州大学における学生の懲戒に関する規程」に基づき行います。

【表1】

懲戒対象行為		該当する懲戒の種類
区分	事項	
A 学内秩序を乱す行為	① 「国立大学法人信州大学におけるハラスメントの防止等に関する規程（平成16年国立大学法人信州大学規程第27号）」に抵触する行為	退学，停学（無期又は有期）又は訓告
	② 本学が実施する試験等における不正行為（詳細は，別表に掲げる事例とする。）	退学，停学（無期又は有期）又は訓告
	③ 飲酒を強要し，アルコール飲料の一气飲み等が原因となり死に至らしめた行為	退学又は停学（無期）
	④ 飲酒を強要し，アルコール飲料の一气飲み等が原因となり急性アルコール中毒等の被害を与えた行為	退学，停学（無期又は有期）又は訓告
	⑤ 未成年者と知りながら飲酒を勧める行為	停学（無期又は有期）又は訓告
	⑥ 未成年の飲酒行為	停学（無期又は有期）又は訓告
	⑦ 本学の教育研究又は管理運営を著しく妨げた行為	退学，停学（無期又は有期）又は訓告
	⑧ 本学構成員に対する暴力行為，威嚇行為，拘禁行為，拘束行為等	退学，停学（無期又は有期）又は訓告
	⑨ 本学が管理する建造物への不法侵入又は不正使用，若しくは占拠した行為	停学（無期又は有期）又は訓告
	⑩ 本学が管理する建造物又は器物等の損壊行為，汚損行為，不法改築行為等	停学（無期又は有期）又は訓告
	⑪ 「信州大学における研究活動上の不正行為の防止等に関する規程（平成19年信州大学規程第154号）」に抵触する行為（データ捏造・改ざんに関わる行為，論文盗用，著作権の侵害等）	退学，停学（無期又は有期）又は訓告
	⑫ 反社会的団体の活動を行っており，その活動が他の学生等に影響を及ぼし本学の秩序を乱すものと認められた行為	退学，停学（無期又は有期）又は訓告
	⑬ 違法薬物（麻薬，大麻等）と類似の効果を持つ薬物を，正当な理由（治療目的等）なく，使用，所持，譲渡，仲介若しくは入手しようとする行為	退学，停学（無期又は有期）又は訓告
B 犯罪行為	① 殺人，強盗，強姦，放火等の凶悪な犯罪行為又は犯罪未遂行為	退学
	② 薬物犯罪行為（麻薬・大麻等の薬物使用・不法所持・売買・仲介等）	退学又は停学（無期又は有期）
	③ 傷害，窃盗，詐欺，恐喝，賭博，住居侵入，他人を傷害するに至らない暴力行為等の犯罪行為	退学又は停学（無期又は有期）
	④ 痴漢行為（覗き見，わいせつ，盗撮行為その他の迷惑行為を含む。）	退学又は停学（無期又は有期）
	⑤ 「ストーカー行為等の規制等に関する法律（平成12年法律第81号）」に定める犯罪行為	退学又は停学（無期又は有期）
	⑥ 「児童買春，児童ポルノに係る行為等の処罰及び児童の保護等に関する法律（平成11年法律第52号）」に定める犯罪行為	退学又は停学（無期又は有期）
	⑦ コンピューター又はネットワークを用いた犯罪行為	退学又は停学（無期又は有期）
C 交通事故・違反	① 死亡又は高度な後遺症を伴う交通事故を起こした場合で，その原因行為が無免許運転，飲酒運転，暴走運転等の悪質な場合	退学
	② 人身事故を伴う交通事故を起こした場合で，その原因行為が無免許運転，飲酒運転，暴走運転等の悪質な場合	退学又は停学（無期又は有期）
	③ 無免許運転，飲酒運転，暴走運転等の悪質な交通法規違反行為	停学（無期又は有期）
	④ 死亡又は高度な後遺症を伴う人身事故を起こした場合で，その原因行為が過失の場合	退学又は停学（無期又は有期）
	⑤ 後遺症等を伴う人身事故を起こした場合で，その原因行為が過失の場合	停学（無期又は有期）又は訓告

本学が実施する試験等における不正行為（カンニング、コピー&ペーストなど）を行った場合は、懲戒となり、さらに【表2】のとおり修得した単位の認定が取り消されます。

【表2】

本学が実施する試験等における不正行為の事例		単位認定の可否	
		当該科目	不正行為を行った学期の科目
単位認定に係る試験時の行為	替え玉受験をすること及び替え玉受験を依頼すること。	認定しない	認定しない
	許可されていないノート又は参考書等を使用すること。		
	答案を交換すること。		
	他の受験者の答案を見ること又は他の受験者に答案を見せること。		
	試験監督者の注意又は指示に従わない場合で特に悪質と認められるもの。		
その他不正な行為と認められること。			
単位認定に係るレポート（卒業論文等含む）の行為	他人の著作物を盗用すること。	認定しない	認定しないことができる
	実験や調査結果のデータを捏造又は偽造すること。		
	他人が書いたレポート並びに著作物を自分のものとして提出すること。		
他の学生に成り代わり授業に出席又は代返等の行為を行った者並びに同行為を依頼した者。	認定しないことができる	特に悪質な場合認定しないことができる	
授業の実施に係るその他不正な行為と認められること。			



## 12. 学生生活関係

農学部の事務組織及び学生に関わる業務内容の概略は以下のとおりです。

窓口時間 平日 8 : 30 ~ 17 : 15

事務組織

学務グループ (管理棟 1 階)	教務担当	(1) 教育課程に関すること, (2) 授業の履修手続き, (3) 学生の身分 (入学, 休学, 復学, 退学, 卒業及び修了) の手続き, (4) 学籍簿及び学業成績の管理, (5) 学生の教員免許状の取得の手続き, (6) 修士論文の手続き, (7) 大学院総合理工学研究科, 総合医理工学研究科に関すること, (8) 学生の諸証明に関すること, (9) 学内での PC 利用およびインターネット利用に関すること。
	学生支援担当	(1) 学生旅客運賃割引証 (学割証) の発行, (2) 授業料等の免除・徴収猶予, 奨学金の手続き, (3) 学生の健康管理, (4) 課外活動, (5) 就職, 進学情報の提供, (6) 学生寄宿舎等, (7) 留学生に関すること, (8) 海外留学, (9) 学生教育研究災害傷害保険及び学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険。
	入試担当	学生の募集及び入学試験。
総務グループ (管理棟 1 階)	庶務担当	(1) 諸行事, (2) 入学式・卒業式, (3) 環境委員会に関すること。
	会計担当	(1) 授業料・入学料・入学検定料・寄宿料の納付, (2) 物品の購入。
	管理担当	施設・設備の保守・管理に関すること。
	附属施設担当	(1) 附属施設を利用しての実習・演習に関すること, (2) アルプス圏フィールド科学教育研究センター (AFC) の運営。
図書担当 (図書館)		図書館に関すること。
教育研究支援室 (B 棟 1 階)		各分野の教育研究支援。

### (1) 授業料・授業料免除・奨学金

#### 1) 授業料

授業料は年額 535,800 円です。前期 267,900 円, 後期 267,900 円を期限までに納付しなければなりません。

授業料の納付方法は, 入学時に届け出られた普通預金口座から, 前・後期分それぞれの指定日に自動的に引き落とされる預金口座自動振替制度を採用していますので, 指定日前銀行営業日の 15 時までには預金口座へ授業料の入金を忘れぬよう行ってください。

授業料を期日までに納付しないと, 一定の督促手続きを経て除籍処分になることがありますので注意してください。

なお, 在学中に授業料改定が行われた場合には, 改定時から新授業料が適用されます。

#### 2) 授業料免除

##### I. 個人が申請する授業料免除 (本学による申請期間及び基準で選考)

① 経済的理由により授業料の納付が困難であり, かつ, 学業優秀と認められる者, ② 授業料の納期前 6 ヶ月以内 (新入学者は入学前 1 年以内) において, 学資負担者が死亡し, 又は学生もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより, 授業料の納付が著しく困難であると認められる者に対し, 本人の申請に基づき, 選考の上, その期に納付すべき授業料が免除 (全額又は半額) される制度, 徴収が猶予される制度, 月割分納できる制度があります。

上記制度の出願時期等については, 掲示にて周知するので十分注意してください。なお, 授業料の免除, 徴収猶予, 及び月割分納についての詳細は学生総合支援センターまたは学務グル

ープへ問い合わせてください。

## II. 成績優秀学生に対する授業料免除

学業成績が特に優れかつ人物優秀であると認められる学生を選考し、特別な待遇を図ることにより、本学学生に対しより一層勉学を奨励することを目的として、成績優秀者に対する後期分の授業料が免除される「成績優秀者に対する授業料免除」の制度があります。対象となる学生は農学部及び総合理工学研究科の学生（研究生，聴講生等を除く。）であり、信州大学学則（平成 16 年信州大学学則第 1 号）第 65 条及び信州大学大学院学則（平成 16 年信州大学学則第 2 号）第 56 条の規定に基づく懲戒処分を受けていない人です。

成績優秀学生を選考は、成績・成果を集計し、学部と研究科において、それぞれへの配分係数の範囲内で独自の判定基準および選考方法で行われます。その選考結果に基づき、9 月末に学部長・研究科長は学長へ推薦を行い、後期分の授業料が全額または半額免除されます。免除対象者が通常の授業料免除の申請を行っていた場合でも、成績優秀者の授業料免除認定が優先されますので問題ありません。また、この選考は通常の授業料免除とは違い、対象となっている学生に対して自動的に行われるため、学生の皆さんは免除申請を行う必要はありません。成績・単位の修得状況・人物面を考慮して推薦を行いますので、普段から意識して授業に臨んでください。

### 3) 奨学金

奨学金については、日本学生支援機構及びその他の団体（地方自治体・各種団体・企業等）から貸与または給付されます。その選考に当たっては、学業成績が優秀であり、経済的理由により就学困難な者が対象となります。なお、成績不振者には支給停止となる可能性があります。また、学資負担者の死亡・災害等については、特別な扱いとなりますので学務グループへご相談ください。申請時期・申請方法等は募集の都度掲示します。

## (2) 学生向け情報の掲示及びメール

1) 学生向け情報伝達は、掲示及びキャンパス情報システムで行います。掲示については、毎日登下校時に掲示板を見るようにしてください。農学部ホームページ「在学生の方へ」も定期的にチェックしてください。

学生呼び出しは、電子掲示板やメールにて行います。登録するメールアドレスについては、よく使うアドレスを登録するとともに、必ず毎日チェックするようにしてください。また、特に緊急性の高いものなどは電話にて連絡することもあります。

連絡先を変更した場合は、情報が届かないことがないように必ずキャンパス情報システムで登録変更を行ってください。

2) 外国人留学生については、留学生専用掲示板も見るようにしてください。

3) 掲示物については、学務グループで許可を受けた上で指定された場所に掲示してください。

## (3) 証明書・学生旅客運賃割引証

「在学証明書」，「成績証明書」，「修了見込証明書(修士 2 年生)」は学務グループにある証明書発行機により交付されます。学生証を持参して画面の案内に従って手続きをすればすぐに発行されます。

また、「学生旅客運賃割引証(学割証)」も同様に証明書発行機で発行することができます。学割証は下記の目的で J R を片道 100km を超えて利用する場合に使用できます。

《学割証は一部の私鉄やフェリーの 2 等にも使うことができます。》

- |                                  |                         |
|----------------------------------|-------------------------|
| ①帰省                              | ④就職又は進学のための受験等          |
| ②実験・実習等の正課の教育活動                  | ⑤大学が修学上適当と認めた見学又は行事への参加 |
| ③大学が認めた特別教育活動又は文化・体育に関する正課外の教育活動 | ⑥傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理  |
|                                  | ⑦保護者の旅行への随行             |

なお、学割証の発行枚数は1日2枚、有効期間は発行日から3ヶ月間です。1人当たり年間15枚まで証明書発行機で発行できますが、やむを得ない事情の場合は、学務グループ窓口にご相談ください。

証明書発行機の稼働日・時間：月曜日～金曜日 8:30～17:15（土日祝日は利用できません）

「卒業証明書」が発行できるようになるのは、卒業年度の3月20日以降となります。

その他の証明書は学務グループカウンターに備え付けの「証明書交付願」により申し込んでください。交付までには約2週間かかる場合もありますので余裕を持って申し込んでください。申込みの際は学生証等本人確認のできるものをお持ちください。

なお、就職活動用の推薦書が必要な場合は指導教員と相談してください。

#### (4) 保健・メンタルヘルス

総合健康安全センター伊那キャンパス分室として、保健室（講義棟1階）・カウンセリング室（B棟1階）が設置されています。保健師・カウンセラーが常駐していますので、遠慮なく利用してください。

##### 1) 保健室

- ① 定期健康診断（毎年4月実施）
- ② ココロとカラダの健康相談（医師の診察は要予約）
  - カラダの健康相談：総合健康安全センター医師毎月1回
  - ココロの健康相談：総合健康安全センター医師毎月1回、学校医毎月1回
  - その他相談：随時保健師により実施

##### ③ 応急処置

##### ④ 学校近隣の医療機関案内

##### ⑤ その他

就職活動などに必要な健康診断書の発行（定期健康診断受診者に限る）

※原則、証明書自動発行機から発行されますが、発行されない場合は保健室にお問い合わせください。

##### 2) カウンセリング室

大学生活を送るなかでは様々な問題や悩みに直面することもあります。カウンセリング室はそうした場合にみなさんと共に考え、話し合いながら問題を整理したり、自分の思いや気持ちに気付くお手伝いをする場所です。自分のことや、家族や友人・異性のこと、学習のこと、将来のこと、身体のことなど、気軽にご相談ください。なお、相談に関する個人の秘密は厳守されます。

<相談申込方法>

原則として予約制です。予約は保健室か学務グループにお問合せください。

しかし、急を要する場合にはこの限りではありません。

<相談日>

月曜日～水曜日・金曜日 9:00～16:00 ※木曜日は終日閉室

<場所>

B棟1階 教育研究支援室前 カウンセリング室

## (5) 休学・退学

休学を希望する場合は、休学願を休学開始日の2ヶ月前までに学務グループへ提出し、学長の許可を得る必要があります。

農学部で休学が認められる理由は、以下の場合です。

- 1) 病気のため・・・願と医師の診断書を提出
- 2) 経済的理由のため・・・願の申し立て欄に詳細な事由を記載
- 3) 農学に関する留学のため（大学との交流協定によるもの・語学留学は除く）  
・・・願と留学先の入学許可書等を提出
- 4) 公共的な事業に参加するため（国又は地方公共団体等の求めによる場合）  
・・・願の申し立て欄に詳細な事由を記載

退学を希望する場合は、退学願を退学日の2ヶ月前までに学務グループへ提出し、学長の許可を得る必要があります。

各願の提出には、保証人およびクラス担任（または指導教員）の署名・押印が必要です。休・退学を検討する場合は、早めに保証人およびクラス担任（または指導教員）に相談してください。

各願の用紙は、学務グループにあります。また、農学部ホームページ（在学生の方へ>在学生の各種手続き）からダウンロードできます。

## (6) 学籍情報入力

キャンパス情報システムの「Web 登録情報の確認修正」機能を利用して、学籍情報を入力することができます。届け出た現住所・電話番号・メールアドレス・保証人住所・緊急連絡先・帰省先等を変更した場合は、必ずキャンパス情報システムから変更内容を登録してください。大学からの急な連絡を電話・メール等により行う場合があります。また、伊那キャンパスに所有自動車を通学する場合は学務グループに自動車登録票を提出し、車を変更した場合は必ず申し出てください。

## (7) 実習・調査等における学生の自家用車使用について

伊那キャンパス外で行われる実習・調査等のために学生が自家用車を利用することは原則認めておりません。

ただし、下記のやむを得ない事情がある場合のみ、学生の自家用車の使用を認めます。

- 1) インターンシップ、ボランティア、介護等体験、教育実習等の実習において、実習地までの公共交通機関が極めて不便で、受入れ先が自家用車の使用を認めている場合
- 2) 卒業論文や修士論文等の研究を目的とした調査において、調査地までの公共交通機関が極めて不便で、指導教員が認めた場合
- 3) その他、やむを得ない事情がある場合

上記1)～3)により自家用車を使用する学生は、様式「実習・調査等における自家用車使用届出書」に運転免許証の写し（表・裏）、車検証の写し及び自動車任意保険証の写しを添付して、学務グループに届け出てください。

様式は、農学部ホームページ（在学生の方へ>在学生の各種手続き）にあります。

## (8) 就 職

就職活動の支援は学務グループで行っています。求人情報・各種パンフレットは、講義棟1階「就職資料室」にあります。また、信州大学ホームページの学生生活・就職>キャリアサポートセンターに各種情報が掲載されていますので活用してください。

就職活動のタイミングにあわせて随時ガイダンスを開催します。就職に係る手続き、詳細については3年次に開催されるガイダンスごとの配布資料を参照してください。信州大学農学部ホームページの在学生の方へ>就職活動支援にガイダンス情報が随時掲載されますので利用してください。

就職についての相談を行うことができますので活用してください(予約制)。予約は学務グループ窓口で直接行ってください。電話やメールによる予約は受け付けません。

上記とは別に、教員を希望する学生は教員免許状が必要です。詳細については学年毎に行われる4月の教職ガイダンスで説明します。

## (9) 課外活動

校内には、体育館、弓道場及び運動場があり、体育系・文化系サークルが、それぞれ活発な活動を行っています。また、登山・スキー等も地の利を得て、活動は活発です。なお登山については、単独登山は絶対に避け、事前に登山届を学務グループへ必ず提出してください。

各種届については学務グループにあります。農学部ホームページ(在学生の方へ>在学生の各種手続き)からダウンロードできます。

課外活動施設の使用は以下の「課外活動施設の使用心得」に沿って使用することになります。

1. 課外活動施設(以下「施設」という。)は団体設立届あるいは継続・変更届を提出した農学部学生の課外活動団体が使用できるものとします。
2. 使用時間は、9時から21時までを原則とします。ただし、12月28日～1月4日は使用できません。
3. 施設の使用にあたっては、次のことを遵守しなければなりません。
  - 1) 暖房器具は石油ファンヒーターとする。
  - 2) 火気の取扱に注意すること。
  - 3) 備品等は無断で移動したり、室外へ持ち出さないでください。
  - 4) 使用目的・使用時間以外に使用しないでください。
  - 5) 掲示物等は所定の場所以外に掲示しないでください。
  - 6) 使用後は清掃を行い、使用前の状態に復すると共に消灯・火の元・施錠を必ず確認してください。
  - 7) 使用時間を守り、騒音防止に努め、他人の迷惑になる行為はしないでください。
  - 8) その他職員の指示に従ってください。

## (10) 海外渡航届

海外へ渡航する場合は、渡航前に学務グループへ海外渡航届を提出してください。緊急時の連絡に必要となります。配布は学務グループで行っておりますが、クラス担任または指導教員の押印が必要となりますので余裕を持って受け取りに来てください。

## (11) 登山届

登山の場合は、出発前までに登山届を登山計画書とともに、学務グループへ提出してください。配布は学務グループで行っておりますが、顧問またはクラス担任・指導教員の署名・押印が必要となりますので、余裕を持って受け取りに来てください。

## (12) 学生証等の携帯、再発行

学生証・Safety Support Card・エコキャンパスカードは常に携帯してください。授業の出席確認、証明書発行機を利用する際、図書館の入退館の際には学生証を使用します。また、緊急の際は、本冊子「19. 緊急事態対応の手引」または、Safety Support Cardを見て、連絡してください。

再発行を希望する場合、学生証（自費）・Safety Support Cardは学務グループへ、エコキャンパスカードは環境委員会事務局（総務グループ庶務担当）へ申し出てください。

## (13) 住居

### 1) 学生寄宿舎について

伊那キャンパスには、鉄筋コンクリート3階建、収容人員96名(男子)・20名(女子)の中原寮があります。所定の手続きにより入寮を願い出た者について選考のうえ、入寮が許可されます。

### 2) 下宿について

信州大学生生活協同組合（生協）に相談してください。

## (14) アルバイト

アルバイトをする場合には、学業との両立、健康状況等を考えて慎重に検討してください。アルバイトの紹介は信州大学キャンパス情報システム内で行っています。就労中の事故には十分に注意のうえ、求人者の指示等を理解し、責任を持って誠実に行うよう努めてください。なお、アルバイト先でのトラブル（待遇、セクハラ等）、危険であると判断される作業、事故などがあつた場合には、直ちに学生総合支援センター又は学務グループへ申し出てください。

## 13. 「学生教育研究災害傷害保険」及び「学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険」への加入手引

この保険は、信州大学が窓口となっている学生保険です。

農学部にて在籍する学生全員が加入を原則としていますが、生協の保険やその他同等の保険に加入している場合は、必ずしも加入しなくとも問題ありません。（いずれかの保険への加入が確認されない場合は実験・実習の受講が認められません。）

農学部では学生教育研究災害傷害保険に加入する場合、〈学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険〉へ同時に加入することを推奨しています。

### ●学生教育研究災害傷害保険（略称：学研災）について

本学指定コースは、通学中等障害危険担保特約付き（Aタイプ2,000万円コース）です。教育研究活動中（正課・学校行事・クラブ活動）や通学中等における不慮の災害事故を補償する保険です。

※感染予防保険金支払特約は付帯しません。この特約は、病院または診療所等において臨床実習のある学部が対象となるため、本学部では対象外となります。

### ●学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険について

本学指定コースは、Aコース学生教育研究賠償責任保険（略称：学研賠）です。

国内外における正課、学校行事とその往復中で他人へのケガ及び他人の財物を破損したことにより被る法律上の損害賠償に備える保険です。

### 【加入手続】

随時受付けておりますが、年度途中に加入する場合でも保険料は1年間単位となります。

### 【保険期間】

4月1日（又は申込みを行った日の翌日）の午前0時から所定の卒業年次の3月31日午後12時まで（原則として卒業までの期間を一括して申し込むものとします）

休学期間中は保険適用外となり、休学期間中の保険料は手続きにより返金される可能性もありますので、休学開始日より1ヶ月前までには学務グループへ確認してください。

※休学により就学期間が延長されますので、その期間分の保険に再度加入をしてください。

### 【事故の通知及び保険金の請求について】

事故に遭われた場合は、速やかに学務グループへ連絡してください。

一定期間を過ぎると保険金を受け取れない場合があります。

【保険料（学研賠及び通学特約を含む）】

この保険は、日常生活における範囲においては、補償の対象外となるため、保険料も他の保険より割安となっています。検討の際はご注意ください。

保険期間	学研災+通学特約付 2,000万円コース	学研賠 Aコース	加入報告 手数料	合計金額
1年間	1,000円	340円	10円	1,350円
2年間	1,750円	680円	10円	2,440円
3年間	2,600円	1,020円	10円	3,630円
4年間	3,300円	1,360円	10円	4,670円

※ 加入する場合は、払込取扱票（学務にあります）へ必要事項を記入の上、最寄りの郵便局窓口で加入期間の合計金額をお支払いください。枠内に必ず**学籍番号**を記入してください。

【支払保険金の種類と金額】

1. 学生教育研究災害傷害保険

担保範囲	死亡保険金	後遺障害 保険金	医療保険金	入院加算金 (180日限度)
正課中, 学校行事中	2,000万円	120万円～ 3,000万円	治療日数 1 日以上が対象 3 千円～30 万円	1 日につき 4,000 円
上記以外で学校施設内にいる間	1,000万円	60万円～ 1,500万円	治療日数 14 日以上が対象 3 万円～30 万円	1 日につき 4,000 円
学校施設外で大学に届出た課外活動中	1,000万円	60万円～ 1,500万円	治療日数 14 日以上が対象 3 万円～30 万円	1 日につき 4,000 円
通 学 中	1,000万円	60万円～ 1,500万円	治療日数 4 日以上が対象 6 千円～30 万円	1 日につき 4,000 円
学校施設等相互間の移動中	1,000万円	60万円～ 1,500万円	治療日数 4 日以上が対象 6 千円～30 万円	1 日につき 4,000 円

※ 「治療日数」とは傷害を被り治療を開始した日から、平常の生活に従事することができる程度に治った日までの間の実治療日数（**実際に入院または通院した日数**）をいいます。

2. 学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険

対人賠償	} 1 事故 1 億円限度（対人・対物賠償合わせて） （*免責金額 0 円）
対物賠償	



## 14. 講義室・学生ラウンジ使用の手引

伊那キャンパスに在籍する学生が授業やゼミ以外で講義室を使用したい時は、授業に支障のない限り使用する事ができますが、この場合使用責任者は、次の事項を守り事前に許可を受けてください。

### (1) 講義室使用にあたっての注意事項

- ・使用責任者は、講義室使用許可願を使用予定の2日前までに学務グループに提出し許可を受けてください。
- ・個人学習的な利用は、警備上の問題からお断りします。(図書館をご利用ください。)
- ・備え付けの備品・器具等を汚損しないように留意してください。
- ・飲食は厳禁とします。
- ・使用後は、原状復帰し、授業に支障のないように整理してください。防犯上、窓は施錠し、ブラインドは開けたままとします。照明は消し、廊下の扉は閉めてください。
- ・使用は、長期休業中を除く平日のみの18時までとし、例外は個別に判断します。
- ・冬期間、講義室備え付けのエアコンの使用は、講義のみ学務グループでタイマー予約します。それ以外での使用については、学務グループに申し出てください。
- ・不要の電気使用(携帯電話の充電等)は慎んでください。

### (2) ラウンジの利用について

授業の空き時間を利用した自主学習等の用途で学生ラウンジを使用することができます。  
利用時間は平日のみの17時までとします。

#### ○1階 講義棟入口

窓側のカウンターには、スタンドチェアが設置されています。  
実習時、バスの待合いにもご利用ください。

#### ○2階 非常勤講師室横

学習用テーブル、展示スペースがあります。

他コースの学生との交流もできるコミュニケーションスペースとして、また、授業の空き時間を利用した自主学習等にもご利用ください。

# 15. 信州大学附属図書館農学部図書館利用の手引

## 農学部図書館ホームページ

<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/agriculture/>

開館カレンダー，利用方法の詳細，お知らせ等が確認できます。

## 開館時間

平日： 8：45～21：00（休業期間中は17：00まで）

土曜日： 11：00～18：00（休業期間中は休館。試験期間中は19：00まで開館。）

日曜日・祝日： 休館（ただし，試験期間中は11：00～19：00開館）

## 休館日

日曜日・祝日，一斉夏季休暇，年末・年始（12月28日～1月4日），

館長が必要と認めた日（事前にお知らせします）

## 入館にあたって

- 入館・退館には学生証が必要です。必ず学生証を持参してください。
- 閲覧室は静かに学習する場所です。密閉可能な容器の飲料が持ち込みできます。
- ホールではグループ学習や軽度の飲食ができます。マナーを守ってご利用ください。
- 図書・雑誌などを破損・汚損したり，無断で持ち出さないようにしてください。
- ごみはお持ち帰りください。館内にごみ箱はありません。

## 図書館施設

- (1) ホール： ホールには次のコーナーがあります。
  - 1) 新聞閲覧コーナー： 当日の新聞が閲覧できます。
  - 2) 広報誌，ニュース類コーナー： 大学，県，法人等の広報誌，ニュース類があります。
  - 3) 視聴覚コーナー： 視聴覚資料の視聴ができます。
  - 4) 情報検索コーナー： 総合情報センター教育用PC3台
- (2) 閲覧室： 閲覧室には次の資料・設備があります。
  - 1) 図書： 専門図書，一般教養図書
  - 2) 雑誌： 購入雑誌，寄贈雑誌
  - 3) 視聴覚資料
  - 4) 情報検索コーナー： パソコン2台，OPAC専用パソコン1台
  - 5) コピー機： コイン式コピー機1台
- (3) 2階書庫： 2階書庫には次の資料があります。出入の際は職員に声をかけてください。
  - 1) 各種統計，年鑑，年報
  - 2) 大学等（国公立大，短大，高専等）発行の雑誌など
  - 3) 都道府県等の地方自治体発行の雑誌など
  - 4) 農林水産省等の国の機関発行の雑誌など

## 図書・雑誌などの図書館資料の利用

### (1) 閲覧

図書館資料は自由に閲覧できます。利用した資料は必ず元の位置に戻してください。

### (2) 貸出

図書の貸出冊数・期間は、次のとおりです。

区 分	通 常		長期休業中	
学部生（2年～3年）	10冊	14日	10冊	休業中
学部生（4年）	10冊	30日	10冊	休業中
院生	10冊	30日	10冊	休業中
研究生・聴講生など	5冊	14日	5冊	休業中

参考図書（辞書・事典など）、雑誌、2階書庫の図書館資料は当日のみの貸出となります。

雑誌の最新号は貸出できません。

### (3) 返却

返却期限までに必ず返却してください。返却が遅れた場合は、貸出停止などの罰則があります。

図書館が閉まっているときは、入口の図書返却箱（ブックポスト）を利用してください。

図書館資料を紛失した場合は原則として現物で弁償していただきます。

### (4) 延長

返却期限内で、予約者がいなければ1回まで可能です。Web（MyLibrary）からも延長できます。

## 図書・雑誌の検索（<sup>オーバック</sup>OPAC）

<http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/opc/>

信州大学附属図書館で所蔵する図書や雑誌は、オンライン目録OPACで調べることができます。

## 予約・取寄

借りたい図書が貸出中の場合、または他学部図書館が所蔵している場合、OPAC画面から図書の予約・取寄ができます。（要ACSU-IDとパスワード）

## 無線LANの利用

自分のPCを無線LANに接続して利用できます。無線LANに接続するためのパスワードはカウンターにお尋ねください。（要ACSU-IDとパスワード）

## 他学部図書館の利用

学生証を持参してください。図書の貸出等ができます。ホームページ等で事前に貸出条件、開館時間等を確認してお出かけください。各館の図書は農学部図書館で返却できます。

## 農学部図書館に所蔵がない場合（図書館間相互利用）

他学部、他大学等から図書を借用すること（現物貸借）や文献のコピーを取り寄せること（文献複写）ができます。申込用紙あるいはWeb（要申請）にてお申し込みください。複写料金、送料がかかります。（他学部図書館所蔵図書の借用については、「予約・取寄」の項を参照してください。）

## 伊那市立図書館の図書・雑誌などの貸出・返却

伊那市立図書館の図書や雑誌などを、農学部図書館カウンターで貸出・返却できます。

## 16. 体育館使用の手引

### (1) 使用条件

- 1) 農学部が主催する行事等
- 2) 大学又は他部局が主催する行事等
- 3) 伊那キャンパスに在籍する学生の課外体育活動
- 4) 教職員の体育活動
- 5) その他の行事等で農学部長が認めるもの

### (2) 使用計画

- 1) 体育館を大学又は他部局が主催する行事等で使用する場合は、農学部が主催する行事等に支障をきたさない範囲において許可します。
- 2) 体育館を伊那キャンパスに在籍する学生の課外体育活動で使用する場合は、農学部、大学又は他部局が主催する行事等に支障をきたさない範囲において許可します。
- 3) 教職員が使用する場合は、伊那キャンパスに在籍する学生の課外体育活動ならびに1)、2)の行事等に支障をきたさない範囲において許可します。
- 4) 学外者の使用は、学内の使用計画等に支障のない場合に限り許可することができます。

### (3) 使用手続き

- 1) 時間内(8:30~17:00)の使用については、学務グループに、平日8:30~17:00の間に申し出て、体育館使用簿に必要事項を記入し、許可を受けて使用してください。
- 2) 時間外(17:00~21:00)の使用については、原則として農学部公認サークルのみが使用できます。スケジュールは定期的に開催される代表者会議において調整をするものとし、使用時には体育館使用簿に必要事項を記入し使用してください。
- 3) 休日(土曜、日曜、祝祭日を含む)に課外体育活動等で使用する場合は、使用日の3日前(休日を除く)までに体育館使用許可願を学務グループへ提出し、使用許可を受け、体育館使用簿に必要事項を記入して使用してください。但し、一斉夏季休暇、年末年始休暇の間は使用できません。

### (4) 使用にあたっての注意事項

- 1) 許可された者以外は使用しないでください。
- 2) 許可された目的及び時間以外に使用しないでください。
- 3) 床を傷つけ、又汚損する恐れのないよう体育館専用の運動靴を用意し用いてください。
- 4) 館内に無断で張り紙、掲示等しないでください。
- 5) 館内には危険物等の持ち込みはしないでください。
- 6) 館内の更衣室及びロッカーを長時間に渡り占有しないでください。
- 7) 夜間の使用では節電に留意してください。
- 8) 施設器具を滅失、破損又は汚損したときは速やかに学務グループに申し出て指示を受けてください。
- 9) 使用にあたっては、平日8:30~17:00の間に学務グループから鍵を受け取ってください。
- 10) 使用后、使用者は必ず整理・整頓及び清掃を行い、ゴミは持ち帰ってください。また、施錠を確認後、鍵を借りた使用者が必ず学務グループに返却してください。

# 17. 福利厚生施設利用の手引

伊那キャンパスには学生生活をより楽しくより豊かにし、食生活の便宜を図るための施設として福利厚生施設があります。

名 称 信州大学農学部J棟（購買・食堂・多目的ホール）

【1 階】 購買，食堂 【2 階】 多目的ホール，サイレントエリア

## （1）施設の開館期間，開館時間及び休館日

### 1) 開館期間及び開館時間

- ①前期（4月1日から9月30日まで） 8時45分から20時まで
- ②後期（10月1日から翌年3月31日まで） 8時45分から19時まで
- ③金曜日及び休日の前日は8時45分から18時まで

ただし、下記時間は団体利用に限る。

- ・前期 18時から20時まで，後期 18時から19時まで
- ・春期休業中 8時45分から10時まで，16時から19時まで
- ・夏季休業中 8時45分から10時まで，16時から20時まで

### 2) 休館日

土曜日，日曜日，国民の祝日，休日（一斉夏季休暇及び年末年始休暇を含む）

## （2）施設利用について

下記時間は施錠されているため、施設を利用する場合の責任者は、学務グループで予約貸出簿に記入をし、貸出当日に学務グループにて鍵を借りてください。原則として、同一団体が2日以上引き続き利用することはできません。

- ・前期 18時から20時まで，後期 18時から19時まで
- ・春期休業中 8時45分から10時まで，16時から19時まで
- ・夏季休業中 8時45分から10時まで，16時から20時まで

利用に際しては、次のことを心がけてください。

### 【1階2階共通】

- 1) 常に火気については十分注意し、清潔、整頓、美化を心掛けてください。
- 2) 使用時間を守り、他人の迷惑になる行為をしないでください。
- 3) 使用した設備、備品は直ちに清掃し、使用前の状態にしておいてください。管理運営責任者の許可なく、施設内の設備、備品の移動・持ち出しはしないでください。
- 4) 施設内での掲示は定められた場所以外にはしないでください。
- 5) 施設内での飲酒は定められた場所以外ではしないでください。

### 【2階】

- 1) 飲酒はできません。
- 2) 多目的ホールは、飲食（軽食）可能です。
- 3) サイレントエリアは、食事はできません。飲み物の持ち込みは可能です。
- 4) 学会、研究会等以外では給湯スペースは使用できません。
- 5) 利用後は施錠確認し、その日の内に借りた利用者が鍵を必ず管理棟東側ポストに返却してください。

※1階生協食堂を行事等で利用する場合は、事前に生協へ予約をしてから生協で鍵を借りてください。

## 18. 実習宿泊施設利用の手引

農学部には、次の宿泊施設があります。

- 1) 野辺山ステーション宿泊施設(農学部から車で100分)
- 2) 西駒ステーション宿泊施設(農学部から車で25分)
- 3) 手良沢山ステーション宿泊施設(農学部から車で30分)

上記宿泊施設の利用を希望する者は、総務グループ附属施設担当に申し込み手続きをします。

いずれの宿泊施設も、教育研究及び学生の実験実習を行うことを目的としていますので、施設を使用する者は、実験・実習及びこれに基づく業務等に支障をきたさないよう次の事項に従ってください。

### (1) 使用手続

- ア. 施設使用の許可を受けようとする者は事前に総務グループ附属施設担当で宿泊が可能かどうか確認をし、使用予定日7日前までに「宿泊施設使用申請書」を総務グループ附属施設担当に提出してください。
- イ. 使用許可を受けた者は、直ちに使用料を総務グループ附属施設担当に納入してください。

### (2) 宿泊使用期間・定員

宿泊施設名	使用期間	宿泊定員
野辺山ステーション宿泊施設	5月1日～10月31日	90名
	11月1日～4月30日	15名
西駒ステーション宿泊施設	4月1日～10月31日	30名
手良沢山ステーション宿泊施設	4月1日～10月31日	45名

### (3) 使用料

- ・本学のカリキュラムに基づく実験、実習及び演習のための宿泊 1泊 300円～400円
- ・教育研究活動のための宿泊 1泊 700円～900円
- ・その他の宿泊 1泊 900円～1,000円

詳細は総務グループ附属施設担当にお問い合わせください。

### (4) その他

いずれの施設も自炊です。また、石鹸・タオル・洗面用具・寝巻は、各自持参してください。その他の注意は、申し込み時に宿泊施設使用者心得を差し上げますので、確認してください。

## 19. 野外調査の届け出について

野外調査を実施する場合は、教員の引率の有無に関わらず必ず「調査計画書」を指導教員に提出し許可を得ると同時に、調査計画書を研究室の掲示板に掲示するようにしてください。

### (1) 野外調査実施時における届出の様式及び方法

教員が引率する場合、引率しない場合共に、以下の様式の調査計画書を提出する。

①調査計画書の記載事項：

「調査内容」「調査場所」「調査者」「調査日・宿泊場所」「調査行程(帰学予定時刻)」「交通手段」「連絡対応者」「その他」。なお、調査計画書の様式は別紙見本を参照すること。

②届出及び掲示の方法：

学生の場合は、調査計画書を指導教員に提出し許可を得ると同時に、調査計画書を研究室の掲示板に掲示する。教員引率の場合にも、同様に、調査計画書を研究室の掲示板に掲示する。

### (2) 調査時等の連絡の厳守

①調査中、指導教員及び学生間での連絡を密にすること。

②日帰りの場合、指導教員(または留守番学生等)は「出発時」「調査開始時」「調査終了時」「帰学時」に連絡を受けることとする。宿泊を伴う場合も同様に、途中での連絡を得て、調査行動を確認する。

### 届出の例

#### 調査計画書

記入者： 信大太郎

項目	事項	チェック欄
調査内容	旧山古志村池谷，大久保地区の営農再開に伴う土地利用調査及び地区区長等への聴き取り	
調査場所	長岡市山古志池谷及び大久保地区	
調査者	信大太郎，信大次郎，信大三郎，信大花子	
調査日	20XX年9月20日～23日	
宿泊場所	山田旅館(025-xxx-4444)	
調査行程(帰学予定時刻)	20日5:00出発、9:00山古志到着、9:30調査開始、18:00調査終了、19:00宿舎(山田旅館) 21、22、23日も同様、帰学予定時刻23日19:30	
交通手段	レンタカー	
連絡対応者	信大四郎(指導教員) 090(7777)xxxx	
その他		

※なお、フィールド作業については「安全の手引」を参照してください。

届出の様式

調査計画書

記入者：

項目	事項	チェック欄
調査内容		
調査場所		
調査者		
調査日 宿泊場所		
調査行程(帰 学予定時刻)		
交通手段		
連絡対応者		
その他		

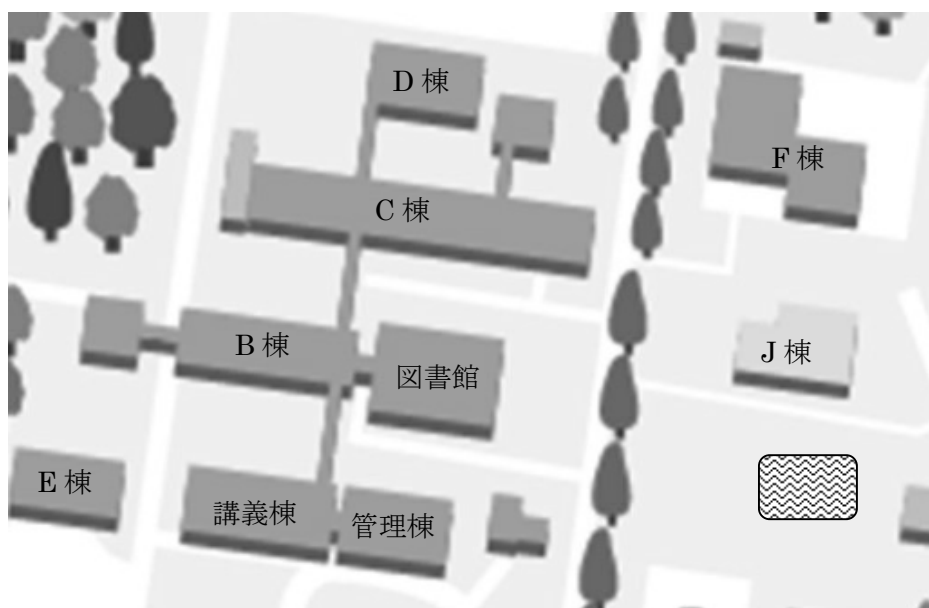


## 20. 伊那キャンパス構内における 火気使用についての申し合わせ

伊那キャンパス構内の屋外（宿舍区域は除く）における火気の使用（たき火、キャンプファイヤー、花火など）は厳禁とするが、次の事項が厳守される場合、バーベキューに限り食材の加熱加工に必要な最小限の火気の使用を認めるものとする。

1. 伊那キャンパスに所属する学生・教職員であること。
2. 定められた場所（1箇所のみ）での実施を厳守すること（下図参照）。
3. 実施代表者は教職員とし、教職員の責任のもとに行うこと。
4. バーベキューの実施は許可制とする。実施日の1週間前までに所定の申請書を提出し、事前に学生委員会の許可を得ること（申請書提出先：学務グループ）。なお土日祝祭日、休日の使用は認めない。
5. 実施する時間は代表者の判断で決定するものとするが、常識の範囲内であること。
6. 実施時には許可書を携行し、大学管理者の求めに応じ提示できるようにすること。
7. 実施場所の状況等によっては許可しない場合があるので、申請時に確認すること。
8. 代表者は、当日の天候（特に風・湿度）を勘案のうえ失火等の危険性を判断し、状況に応じて、中止する等必要な対応を取ること。
9. 実施にあたっては他者を不快にさせるような騒音を出さないなど、周辺への配慮を怠らないこと。
10. 万が一に備え直ちに消火できるように予め計画し、失火を招かないための準備をすること（バケツに水を汲んでおく、消火器を準備しておくなど）。
11. 上述のような準備をしたにもかかわらず誤って失火に至った場合は、代表者は参加者の身の安全を第一に考えるとともに、全員で協力し消火に努めること。ただし、手におえない状況であれば消防署への通報をためらわずに行うとともに、関係者（許可書に記載）へ連絡を取り、速やかに状況を報告すること。
12. 安全と環境に配慮し、後片付けを行うこと。
13. 代表者は、終了後必ず消火を確認すること。
14. 大学の行事に関するものについては、この申し合わせの限りではない。

※ バーベキュー指定場所は下図の  の部分とする



この申し合わせは、平成18年6月20日から施行する。

## 21. 緊急事態対応の手引

### 災害発生時の連絡先

避難場所は体育館です

### 【発生時の連絡】

火災等発見者は、直ちに消防署（119番）へ連絡するとともに、下記へ連絡すること。

#### 職員勤務時間内<8:30-17:15>

外線 0265-77-1303

内線 2203

#### 職員勤務時間外

信大災害・緊急ダイヤル 0263-37-3333

日本連合警備(株)伊那営業所 0265-78-6161

連絡の際は、

信州大学農学部ですが、〇〇で火災が発生し負傷者がでました。  
消防車・救急車の出動をお願いします。  
私は修士□年△△です。

### 公共機関等の連絡先

#### (1) 医療機関

伊那中央総合病院 (Tel 0265-72-3121)

昭和伊南総合病院 (Tel 0265-82-2121)

#### (2) 公共機関

伊那警察署 (Tel 0265-72-0110)

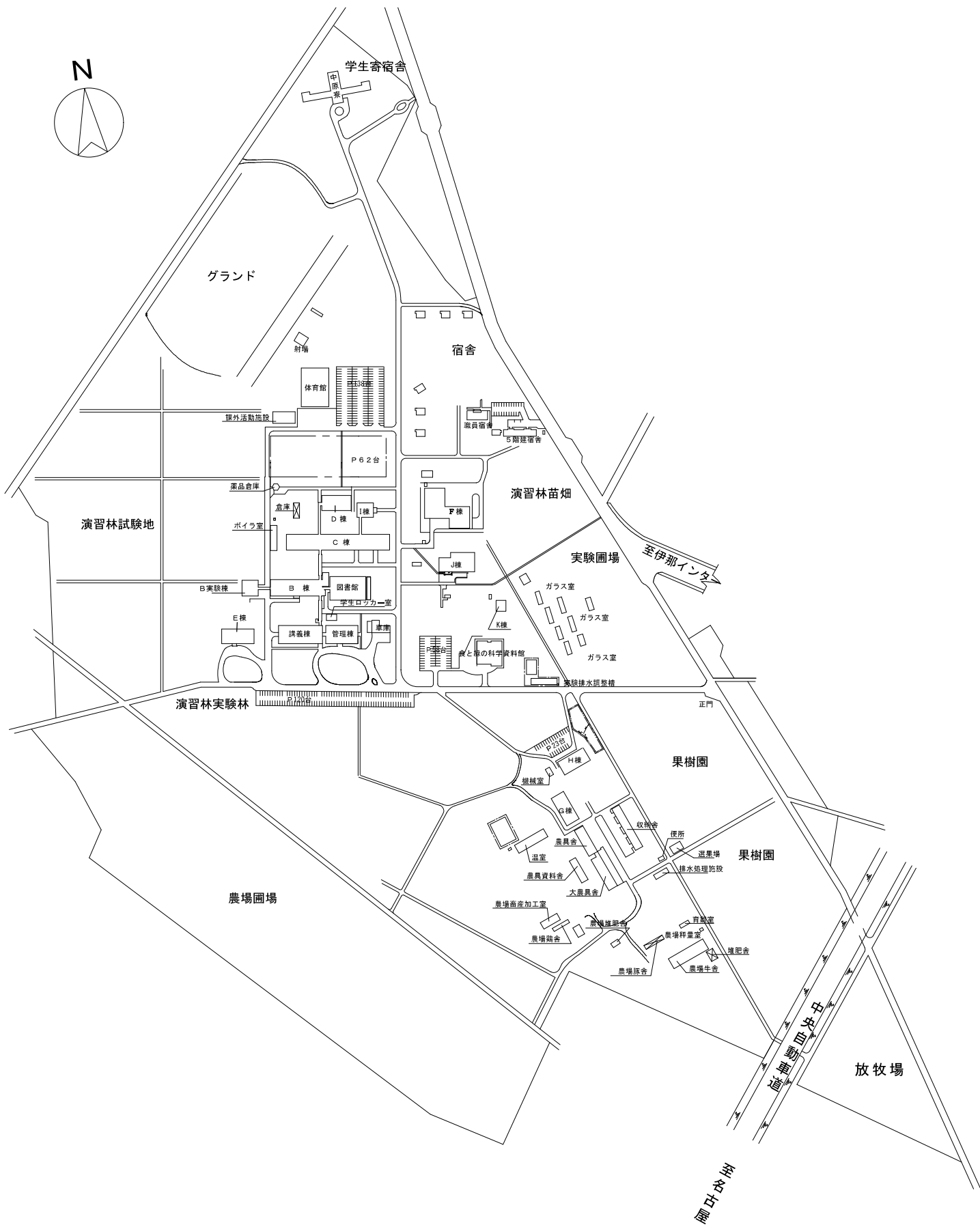
伊那消防署 (Tel 0265-72-0119)

備考1. 火災その他の場合における避難には、エレベーターを使用しないこと。

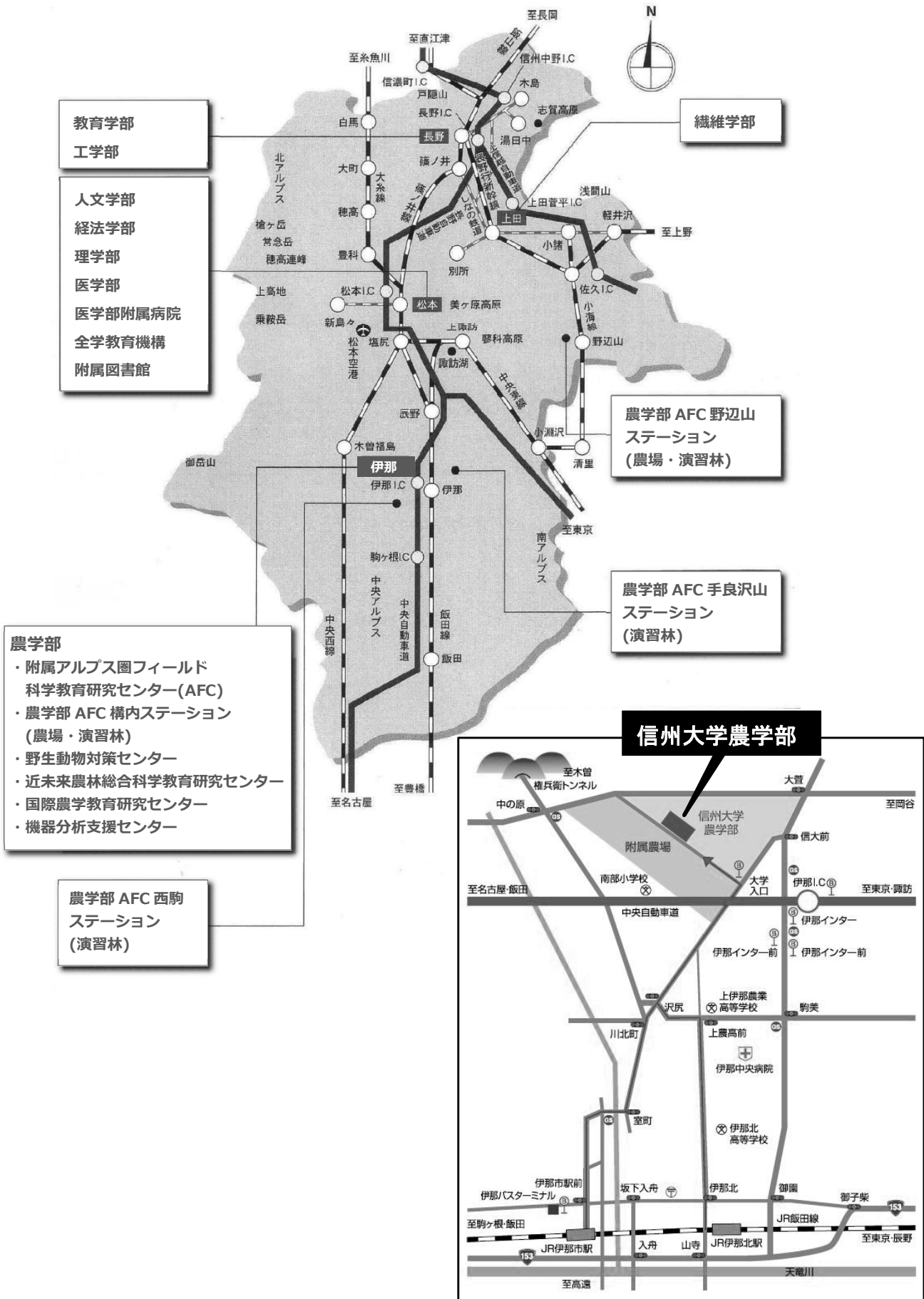
備考2. 防火シャッターは、内部に人のいない事を確認の上閉じること。

万が一、交通事故を起こした場合には、学務グループに申し出てください。  
Tel 0265-77-1354

## 22. 農学部配置図（構内全面禁煙）



# 23. 位置図



## 24. ACSU による出席状況確認

○ログイン

- ・ ACSU (<https://acsu.shinshu-u.ac.jp/ActiveCampus/index.html>) にログインします。
- ・ 出席確認システムのメニュー一覧から出席情報照会（学生）をクリックすることで、自身の出席情報を参照することが出来ます。

○出席情報照会（学生）

- ・ 学生用の出席情報照会には2種類あります。
  - ー [出席状況（月別）] は、指定した年月の1か月分の出席状況を表示します。
  - ー [出席状況（授業別）] は指定した授業の出席状況を表示します。
- ・ それぞれの名称タブをクリックすることで、表示形式を指定することが出来ます。

### 出席情報照会（学生）

出席状況(月別) 出席状況(授業別)

### 信州太郎さんの出席状況

月別にあなたの出席状況が確認できます。

授業月		2014年1月		検索		前月		翌月																											
授業名	学期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
電気数学演習Ⅱ	月2	前	休	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
微分積分学Ⅱ	火3	後	休	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
映像・人文学	水5	前	休	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
電気物理	金3	前	休	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
○→出席、×→欠席、/→休講																																			

### 一出席情報照会（月別）

- ・ [出席状況（月別）] のタブをクリックすると、以下の画面が表示されます。
- ・ 出席情報照会（月別）では、自分が履修している授業、あるいは過去に履修していた授業の出席状況を検索した年月ごとの一覧で確認することが出来ます。

### 出席情報照会（学生）

出席状況(月別) 出席状況(授業別)

### 信州太郎さんの出席状況

月別にあなたの出席状況が確認できます。

授業月		2014年1月		検索		前月		翌月																											
授業名	学期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
電気数学演習Ⅱ	月2	前	休	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
微分積分学Ⅱ	火3	後	休	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
映像・人文学	水5	前	休	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
電気物理	金3	前	休	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
○→出席、×→欠席、/→休講																																			

### 説明

項目	説明
検索月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検索したい年月を指定して、[検索]ボタンをクリックすると、指定した年月の出席状況が表示されます。</li> <li>・ 検索対象年度は、当該年度と当該年度から過去3年の計4年分を表示します。</li> </ul>
前月・翌月	[前月]をクリックすると、検索月に表示されている月の前月に移動します。 [翌月]をクリックすると、検索月に表示されている月の翌月に移動します。
授業名	履修している授業名が表示されます。
曜日・時限	履修している授業の曜日・時限が表示されます。
出席回数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席回数が表示されます。</li> <li>・ 実施した授業の実施回数が分母で、そのうち出席した回数が分子に表示されます。</li> </ul>
カレンダー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土曜日は青色、日曜日は赤色で表示します。</li> <li>・ 出席状況が以下の記号で表示されます。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 出席：○</li> <li>■ 欠席：×</li> <li>■ 休講：/（スラッシュ）</li> <li>■ データなし：—（ハイフン）</li> </ul> </li> </ul>

### 一出席情報照会 (授業別)

- ・ [出席状況 (授業別)] のタブをクリックすると、以下の画面が表示されます。
- ・ 出席情報照会 (授業別) では、年度を確定後、自分が履修している授業、あるいは過去に履修していた授業をセレクトボックスから選択します。
- ・ 「出席回数」、「出席率」、「欠席回数」といったより詳細な出席情報を確認することが出来ます。

### 出席情報照会 (学生)

出席状況(月別) **出席状況(授業別)**

---

授業別にあなたの出席状況が確認できます。

年度	2018	▶	年度確定	
授業	映像・人文学【前期Ⅰ(ホ-5)】	▶	授業確定	
	映像・人文学【前期Ⅱ(ホ-5)】	▶		
	微分積分学Ⅱ【後期Ⅰ(ホ-3)】	▶		
	電気回路【前期Ⅰ(ホ-2)】	▶		
	電気回路【前期Ⅱ(ホ-3)】	▶		

[授業確定]ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

### 出席情報照会 (学生)

出席状況(月別) **出席状況(授業別)**

---

授業別にあなたの出席状況が確認できます。

年度	2018	▶	年度確定	
授業	微分積分学Ⅱ【後期Ⅰ(ホ-3)】	▶	授業確定	

出席回数	出席率	欠席回数	欠席率	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
12/16	75%	4		○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○→出席、×→欠席、/→休講

項目	説明
年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検索したい年度を選択して、[年度確定]ボタンをクリックすると、指定した年度に履修している授業が表示されます。</li> <li>・ 検索対象年度は、当該年度と当該年度から過去3年の計4年分を表示します。 ※ただし、本システム導入前の出席情報は参照することが出来ません。過去の出席情報が参照できるようになるのは、2014年度以降になります。</li> <li>・ 指定した年度に履修している授業がセレクトボックスに表示されます。</li> </ul>
授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業を一つ選択して[授業確定]をクリックすると、選択した授業の出席状況が表示されます。</li> <li>・ 実施した授業の回数の合計が分母で、そのうち出席した回数が分子に表示されます。</li> </ul>
出席回数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施した授業の実施回数に対しての出席率が表示されます。</li> </ul>
出席率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 該当授業の実施回数に対しての出席率が表示されます。</li> </ul>
欠席回数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 該当授業の欠席回数が表示されます。</li> </ul>
出席状況リスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一番上段に授業回数、中段に授業の実施日、下段に出席状況が表示されます。</li> </ul> <p>                     ■ 出席 : ○                      ■ 欠席 : ×                      ■ 休講 : / (スラッシュ)                      ■ データなし : - (ハイフン)                 </p>

# 25. 信州大学大学院学則

(平成16年4月7日信州大学学則第2号)

目次

- 第1章 総則(第1条-第6条)
  - 第2章 収容定員(第7条)
  - 第3章 大学院の授業及び大学院における研究指導(第8条)
  - 第4章 研究科長及び運営組織(第9条-第11条)
  - 第5章 学年、学期及び休業日(第12条-第14条)
  - 第6章 標準修業年限及び在学期間(第15条・第16条)
  - 第7章 入学(第17条-第27条)
  - 第8章 教育課程(第27条の2-第39条)
  - 第9章 修了要件、学位授与等(第40条-第47条)
  - 第10章 休学、復学、転学、留学、退学及び除籍(第48条-第54条)
  - 第11章 賞罰(第55条・第56条)
  - 第12章 科目等履修生(第57条-第63条)
  - 第13章 研究生(第64条-第68条)
  - 第14章 聴講生(第69条-第74条)
  - 第15章 特別聴講学生及び特別研究生(第75条-第83条)
  - 第16章 外国人留学生(第84条-第87条)
  - 第17章 授業料、入学料、検定料及び寄宿料(第88条-第92条)
  - 第18章 特別の課程(第92条の2・第93条)
  - 第19章 補則(第94条)
- 附則

## 第1章 総則

### (目的)

第1条 信州大学大学院(以下「本大学院」という。)は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

2 本大学院のうち、学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とするものは、専門職大学院とする。

### (自己点検及び自己評価)

第2条 本大学院は、その教育研究水準の向上に資するため、本大学院の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 本大学院は、前項の点検及び評価の結果について、信州大学の職員以外の者による検証を行うものとする。

3 第1項の点検及び評価並びに前項の検証の実施に関する事項は、別に定める。

### (研究科)

第3条 本大学院に、次の研究科を置く。

- 人文科学研究科
- 教育学研究科
- 経済・社会政策科学研究科
- 総合理工学研究科
- 医学研究科
- 総合工学系研究科

2 第5条の教育学研究科高度教職実践専攻は、専門職大学院とする。

### (課程)

第4条 人文科学研究科、教育学研究科、経済・社会政策科学研究科及び総合理工学研究科に修士課程を置き、医学系研究科に修士課程及び博士課程を置き、総合工学系研究科に後期3年の課程のみの博士課程を置く。

2 医学系研究科の修士課程は、第5条に規定する医学系専攻及び疾患予防医科学系専攻の4年の博士課程並びに同条に規定する保健学専攻の前期2年の課程(以下「博士前期課程」という。)及び後期3年の課程(以下「博士後期課程」という。)に区分する博士課程とし、博士前期課程は、これを修士課程として取り扱うものとする。

3 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うものとする

4 博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

第4条の2 教育学研究科に、専門職学位課程を置く。

2 専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うものとする。

3 教育学研究科に置く専門職学位課程は、専ら教員養成のための教育を行うことを目的とする教職大学院の課程とする。

### (専攻)

第5条 本大学院の研究科に、次の専攻を置く。

- 人文科学研究科
  - 地域文化専攻
  - 言語文化専攻
- 教育学研究科
  - (修士課程)
    - 学校教育専攻
    - (専門職学位課程)
      - 高度教職実践専攻
  - 経済・社会政策科学研究科
    - 経済・社会政策科学専攻
    - イノベーション・マネジメント専攻

### 総合理工学研究科

理学専攻

工学専攻

繊維学専攻

農学専攻

生体医工学専攻

医学系研究科

(修士課程)

医学専攻

(博士課程)

医学系専攻

疾患予防医科学系専攻

保健学専攻

総合工学系研究科

生命機能・フアイバー工学専攻  
システム開発工学専攻  
物質創成科学専攻  
山岳地域環境科学専攻  
生物・食料科学専攻

**(組織の編制)**

第6条 第3条の研究科における教育研究に携わる組織は、教育研究に係る責任の所在が明確になるように、編制するものとする。  
2 前項の編制その他必要な事項は、別に定める。

**第2章 収容定員**

**(収容定員)**

第7条 収容定員は、別表第1のとおりとする。

**第3章 大学院の授業及び大学院における研究指導**

**(大学院の授業及び大学院における研究指導)**

第8条 本大学院の授業は、教授、准教授、講師又は助教が担当するものとする。  
2 本大学院における学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)は、教授が担当するものとし、研究科において必要と認めるときは、当該研究科の定めるところにより、准教授が担当し、又は講師若しくは助教に担当させ、若しくは分担させることができる。

**第4章 研究科長及び運営組織**

**(研究科長)**

第9条 本大学院の各研究科に研究科長を置き、次のとおり、信州大学学術研究院の学系長をもって充てる。

人文科学研究科長	人文科学系長
教育学研究科長	教育学系長
経済・社会政策科学研究科長	社会科学系長
総合理工学研究科長	理学系長、工学系長、農学系長及び繊維学系長の輪番
医学系研究科長	医学系長
総合工学系研究科長	理学系長、工学系長、農学系長及び繊維学系長の輪番

2 研究科長は、当該研究科に関する事項を掌理する。

**(教育研究評議会)**

第10条 本大学院の管理、運営その他本大学院における重要事項の審議は、国立大学法人信州大学教育研究評議会(以下「教育研究評議会」という。)において行う。

**(大学院研究科委員会)**

第11条 各研究科に、大学院研究科委員会(以下「研究科委員会」という。)を置く。

2 研究科委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べざるものとする。

- (1) 学生の入学、課程の修正
- (2) 学位の授与
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。
- 3 研究科委員会は、前項に規定するもののほか、学長及び研究科長その他の研究科委員会が置かれる組織の長(以下この項において「学長等」という。)が掌る教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 4 研究科委員会に必要事項は、別に定める。

**第5章 学年、学期及び休業日**

**(学年)**

第12条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

**(学期)**

第13条 学年を次の2学期に分ける。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

2 前項に規定する前学期の終期及び後学期の始期は、各研究科の事情により、学長が変更することができる。

**(学期の分割)**

第13条の2 前条に規定する前学期及び後学期の期間は、各研究科の事情により、当該各期間を前半期と後半期に分けることができる。

**(休業日)**

第14条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 土曜日
- (3) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (4) 春季休業
- (5) 夏季休業
- (6) 冬季休業
- 2 前項第4号から第6号までの期間は、学長が別に定める。
- 3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

**第6章 標準修業年限及び在学期間**

**(標準修業年限)**

- 第15条 修士課程、博士前期課程及び教職大学院の課程の標準修業年限は、2年とする。  
2 前項の規定にかかわらず、修士課程及び博士前期課程において、主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合であつて、教育研究上の必要があり、かつ、昼間と併せて夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育上支障を生じないときは、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、標準修業年限を1年以上2年未満の期間とすることができる。
- 3 医学系研究科博士課程(博士前期課程及び博士後期課程を除く。以下同じ。)の標準修業年限は、4年とする。
- 4 博士後期課程及び総合工学系研究科博士課程の標準修業年限は、3年とする。
- (在学期間)  
第16条 修士課程、博士前期課程及び教職大学院の学生は4年、医学系研究科博士課程の学生は8年、博士後期課程、総合工学系研究科博士課程の学生は6年を超えて在学することができない。  
2 前項の規定にかかわらず、前条第2項の学生は標準修業年限の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。  
3 第1項の規定にかかわらず、第24条又は第25条の規定により入学した学生は、第27条により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

**第7章 入学**

**(入学の時期)**

第17条 入学の時期は、学年又は学期の始めとする。



#### (入学資格)

第18条 修士課程、博士前期課程及び専門職学位課程の入学資格者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学の他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者とされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- (10) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者
- (11) 大学に3年以上在学した者であって、本大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認められたもの
- (12) 外国において学校教育における15年の課程を修了した者であって、本大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認められた者
- (13) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者であって、本大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認められた者

第19条 医学系研究科博士課程の入学資格者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 大学における医学、歯学、薬学(修業年限が6年のものに限る。)又は獣医学を履修する課程を卒業した者
- (2) 外国において学校教育における18年の課程を修了し、その最終の課程が医学、歯学、薬学又は獣医学であった者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了し、その最終の課程が医学、歯学、薬学又は獣医学であった者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育制度において位置付けられたとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、その最終の課程が医学、歯学、薬学又は獣医学であった者

(4) 2 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が5年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与され、その最終の課程が医学、歯学、薬学又は獣医学であった者

- (5) 文部科学大臣の指定した者(昭和30年文部省告示第39号)
- (6) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者とされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの
- (7) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学における医学、歯学、薬学(修業年限が6年のものに限る。)又は獣医学の課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者
- (8) 大学における医学、歯学、薬学(修業年限が6年のものに限る。)又は獣医学の課程に4年以上在学した者であって、本大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認められたもの
- (9) 外国において学校教育における16年の課程を修了し、その最終の課程が医学、歯学、薬学又は獣医学であった者で、本大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認められたもの
- (10) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了し、その最終の課程が医学、歯学、薬学又は獣医学であった者であって、本大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認められたもの
- (11) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、その最終の課程が医学、歯学、薬学又は獣医学であった者であって、本大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認められたもの

第19条の2 医学系研究科博士後期課程の入学資格者は、看護師、助産師、保健師、臨床検査技師、理学療法士又は作業療法士等の免許を有し、かつ、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和51年法律第72号)第11条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学(以下「国際連合大学」という。)の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号。以下同じ。)第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者(平成元年文部省告示第118号)
- (8) 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者

第20条 総合工学系研究科博士課程の入学資格者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者(平成元年文部省告示第118号)
- (8) 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したものである
- (入学の出願)**
- 第21条 本大学院への入学を志願する者は、所定の期日までに入学願書に所定の検定料及び別に定める書類を添えて願い出なければならぬ。
- (入学者の決定)**
- 第22条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。
- (入学手続及び入学許可)**
- 第23条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに別に定める書類を提出するとともに、所定の入学料を納付しなければならない。
- 2 学長は、前項の入学手続を完了した者(入学料の免除又は徴収猶予を申請している者を含む。)に入学を許可する。

第23条の2 本大学院の修士課程、博士前期課程又は教職大学院の課程を修了し、引き続き博士課程(博士前期課程を除く。)に進学を志願する者については、選考の上、進学を許可する。

**(編入学及び再入学)**

第24条 大学院を修了した者又は退学した者で、本大学院への入学を志願する者がある場合は、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

**(転入学)**

第25条 他の大学院に在学している者で、本大学院への入学を志願する者がある場合は、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

2 前項に定めるもののほか、我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程に在学している者及び国際連合大学の課程に在学している者で、本大学院への入学を志願する者がある場合は、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

**(研究科間の転科等)**

第26条 修士課程、博士前期課程又は教職大学院の課程の学生で、他の研究科の修士課程、博士前期課程又は教職大学院の課程に転科を志願する者がある場合は、選考の上、相当年次に転科を許可することができる。

2 転専攻を志願する者がある場合は、選考の上、これを許可することができる。

**(編入学、再入学、転入学等の取扱い)**

第27条 前3条の規定により、入学又は転科等を許可された者の既に履修した授業科目及び修得した単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、当該研究科の研究科委員会の議を経て、研究科長が定める。

## 第8章 教育課程 (教育課程の編成方針)

第27条の2 本大学院は、本大学院、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、本大学院は、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮するものとする。  
**(博士課程学位プログラム)**

第27条の3 本大学院は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、修士課程と博士課程を一貫して教育するプログラム(以下「博士課程学位プログラム」という。)として、次の各号に掲げるプログラムを編成する。

- (1) ファイバーネットワークを先導するグローバルリーダーの養成プログラム
  - (2) サステイナブルソリューションサイエティグローバル人材養成プログラム
- 2 博士課程学位プログラムに關し必要な事項は、別に定める。

### (教育方法)

第28条 本大学院の各研究科(教育学研究科高度教職実践専攻を除く。)の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行う。

2 教育学研究科高度教職実践専攻の教育は、授業科目の授業によって行う。

### (授業科目、単位数及び履修方法)

第29条 授業科目、その単位数及び履修方法については、各研究科において定める。

### (授業の方法)

第30条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 研究科は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 研究科は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

4 研究科は、文部科学大臣が別に定めるところにより、第1項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

### (単位の計算方法)

第31条 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準によるものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とすることができる。

2 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、前項各号に規定する基準により、別に定める時間の授業をもって1単位とする。

3 前2項の規定にかかわらず、学位論文の作成に關する特別研究等の授業科目を設定する場合において、これらの学修の成果を評価して単位を与えることが適切と認められるときは、各研究科において単位数を定めることができる。

### (単位の授与)

第32条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を授与する。ただし、前条第3項に規定する授業科目については、適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えることができる。  
**(成績評価基準等の明示等)**

第32条の2 本大学院は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに1年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本大学院は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行うものとする。

#### (成績の評判)

第 33 条 授業科目の試験の成績は、秀、優、良、可及び不可の 5 種の評語をもって表し、秀、優、良及び可を合格とする。ただし、必要と認める場合は、合格及び不合格の評語を用いることができる。

#### (他の研究科の授業科目の履修等)

第 34 条 研究科において教育上有益と認めるときは、学生が他の研究科の授業科目を履修し、又は必要な研究指導を受けることを認めることができる。

2 前項に定める他の研究科における授業科目の履修等に関し必要な事項は、各研究科において定める。

#### (他の大学院等における授業科目の履修)

第 35 条 研究科(教育学研究科高度教職実践専攻を除く。以下この条において同じ。)において教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、学生が当該大学院の授業科目を履修することを認めることができる。

2 前項の規定により他の大学院において履修した授業科目について修得した単位は、10 単位を超えない範囲で、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3 前項の規定は、研究科において教育上有益と認めるときは、第 48 条第 1 項に規定する休学により学生が外国の大学院(これに相当する教育研究機関を含む。以下「外国の大学院等」という。)において履修した授業科目について修得した単位について準用する。

4 第 2 項の規定は、研究科において教育上有益と認めるときは、学生が外国の大学院等が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合、学生が外国の大学院等の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合及び国際連合大学の教育課程における授業科目を履修する場合の授業科目について修得した単位について準用する。

5 前 3 項及び第 32 条第 2 項の規定により本大学院において修得した単位は、合わせて 10 単位を超えないものとする。

6 第 1 項の規定により他の大学院において授業科目を履修した期間は、本大学院の在学期間に算入する。  
7 他の大学院及び外国の大学院等における授業科目の履修に関し必要な事項は、各研究科において定める。

#### 第 35 条の 2 及び第 35 条の 3 削除

#### (他大学院等における研究指導)

第 36 条 研究科(教育学研究科高度教職実践専攻を除く。以下この条において同じ。)において教育上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等(以下「他大学院等」という。)との協議に基づき、学生が他大学院等において必要な研究指導を受けることができる。この場合において、国立及び公立以外の研究所等において必要な研究指導を受けることを認めるときは、教育研究評議会の議を経るものとする。

2 前項の規定により他大学院等における研究指導を修士課程又は博士前期課程の学生について認めるときには、当該研究指導を受ける期間は、1 年を超えないものとする。

3 第 1 項の規定により他大学院等において必要な研究指導を受けた期間は、本大学院の在学期間に算入する。

4 他大学院等における研究指導に関し必要な事項は、各研究科において定める。

#### (入学前の既修得単位の取扱い)

第 37 条 研究科(教育学研究科高度教職実践専攻を除く。)において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に大学院(外国の大学院及び国際連合大学を含む。)において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により修得したものとみなす単位数は、編入学等の場合を除き、本大学院において修得した単位以外のものについては、10 単位を超えないものとする。

3 入学前の既修得単位の取扱いに関し必要な事項は、各研究科において定める。

#### 第 37 条の 2 から第 37 条の 6 まで 削除

#### (長期にわたる教育課程の履修)

第 38 条 本大学院は、各研究科の定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第 15 条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、第 16 条に定める在学期間を超えることはできない。

#### (教育課程の計画的特別履修)

第 39 条の 2 各研究科(修士課程又は博士前期課程を置く研究科に限る。)は、本大学院と外国の大学院等との間において締結した交流協定(研究科間交流協定及びこれに準ずるものを含む。以下「交流協定」という。)に基づき留学により、第 15 条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを修士課程又は博士前期課程の学生(標準修業年限の最終年度の学生及び前条による長期にわたる教育課程の履修を認められている学生を除く。)が希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、3 年を超えることはできない。

#### (教育方法の特例)

第 39 条 教育上特別の必要があると認められる場合には、当該研究科において定めるところにより、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

#### 第 9 章 修了要件、学位授与等

##### (修士課程又は博士前期課程の修了要件)

第 40 条 修士課程又は博士前期課程の修了の要件は、当該課程に 2 年以上(第 15 条第 2 項にあっては 1 年以上)在学し、30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程又は博士前期課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた業績を上げたことを認めるときは、当該課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。

##### (博士課程(博士前期課程を除く。))の修了要件)

第 41 条 医学系研究科博士課程の修了の要件は、当該課程に 4 年以上在学し、30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた研究業績を上げたことを認めるときは、当該課程に 3 年以上在学すれば足りるものとする。

第 42 条 博士後期課程の修了の要件は、当該課程に 3 年以上在学し、14 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた研究業績を上げたことを認めるときは、当該課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。

2 総合工学系研究科博士課程の修了の要件は、当該課程に 3 年以上在学し、10 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた研究業績を上げたことを認めるときは、当該課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。

3 前 2 項の規定にかかわらず、標準修業年限を 1 年以上 2 年未満とした修士課程又は博士前期課程を修了した者及び第 40 条第 1 項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程又は博士前期課程を修了した者(大学院設置基準第 16 条ただし書の規定による在学期間をもって修士課程又は博士前期課程を修了した者を含む。)で、当該研究科が優れた研究業績を上げたことを認めるときは、当該課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。

該課程に修士課程又は博士前期課程における在学期間(2年を限度とする。)を含めて3年以上在学すれば足りるものとする。

- 4 前3項の規定にかかわらず、修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は第20条第2号から第6号までの規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、当該研究科が履いた研究業績を上げた者と認める者の在学期間に関しは、当該課程に1年(標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程又は博士前期課程を修了した者及び標準修業年限を1年以上2年未満とした専門職学位課程を修了した者)にあっては、3年から当該1年以上2年未満の期間を減じた期間とし、第40条ただし書の規定による在学期間をもって修士課程又は博士前期課程を修了した者(大学院設置基準第16条ただし書の規定による在学期間)をもって修士課程又は博士前期課程を修了した者を含む。)にあっては、3年から当該課程における在学期間(2年を限度とする。)を減じた期間とする。)以上在学すれば足りるものとする。

#### (専門職学位課程の修了要件等)

- 第42条の2 教職大学院の課程の修了の要件は、当該課程に2年以上在学し、45単位以上(高度の専門的な能力及び履いた実質を有する教員に係る実践的な能力を培うことを目的として小学校等その他の関係機関で行う実習に係る10単位以上を含む。)を修得することとする。

#### 第42条の3 削除

#### (学位論文の提出及び審査並びに最終試験)

- 第43条 各研究科(教育学研究科高度教職実践専攻を除く。以下この条において同じ。)の研究科委員会は、学位論文の審査、最終試験等を行うため、当該研究科委員会から選出する2人以上の教授(当該研究科委員会において必要と認めるときは、准教授をもって代えることができる。)及び研究指導を担当した教授、准教授、講師又は助教をもって組織する審査委員会を設ける。

- 2 研究科において必要と認めるときは、前項に定める審査委員会に研究指導を担当した講師又は助教を加えることができる。

- 3 最終試験は、研究科所定の単位を修得した者で、学位論文の審査を終えた者について、学位論文を中心として、これに関連ある授業科目について行うものとする。

- 4 学位論文及び最終試験の合格又は不合格は、審査委員会の報告に基づいて研究科委員会において審査し、決定する。

#### (課程修了の認定)

- 第44条 前条の審査を経て、学長が課程修了の認定を行う。

- 第44条の2 教育学研究科高度教職実践専攻にあっては、第42条の2の要件を満たした者について、学長が課程修了の認定を行う。

#### 第44条の3 削除

#### (学位の授与)

- 第45条 本大学院の課程を修了した者に対し、その研究科の課程に応じ修士若しくは博士の学位又は専門職学位を授与する。

- 2 前項に定めるもののほか、博士の学位は、本大学院に博士論文の審査を申請し、その審査に合格し、かつ、本大学院の博士課程(博士前期課程を除く。)を修了した者と同等以上の学力を有すると確認された者に授与することができる。

#### (学位規程)

- 第46条 学位に関し必要な事項は、信州大学学位規程(平成16年信州大学規程第19号)の定めるところによる。

#### (教育職員免許状授与の所要資格)

- 第47条 教育職員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)に定める所要の単位を修得しなければならない。

- 2 本大学院において、教育職員免許法に規定する所定の単位を修得した者が取得できる教育職員免許状の種類は、別表第2に掲げるとおりとする。

## 第10章 休学、復学、転学、留学、退学及び除籍

### (休学)

- 第48条 疾病その他の理由により引き続き3年以上休学することができない者は、医師の診断書又は理由書を添えて学長に願ひ出て、その許可を得て休学することができる。

- 2 休学期間は、引き続き1年を超えないことができる。ただし、特別の事情がある場合には、1年を超えて許可することができる。

- 3 休学期間は通算して、修士課程、博士前期課程及び教職大学院の課程にあっては2年、医学系研究科博士課程にあっては4年、博士後期課程及び総合工学系研究科博士課程にあっては3年を超えることができない。

### (休学期間の取扱い)

- 第49条 前条に定める休学期間は、第16条の在学期間に算入しない。

### (復学)

- 第50条 休学期間が満了した学生は、復学しなければならない。

- 2 休学期間にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

- 3 疾病により休学した者が復学を願ひ出るときは、医師の診断書を添付しなければならない。

### (転学)

- 第51条 他の大学院へ転学しようとするときは、所定の手続により願ひ出て、学長の許可を受けなければならない。

### (留学)

- 第52条 研究科において教育上有益と認めるときは、外国の大学院等との協議に基づき、学生が当該外国の大学院等に留学することを認めることができる。

- 2 第35条第2項及び第5項並びに第36条の規定は、前項の規定により外国の大学院等へ留学する場合に準用する。

- 3 留学に関し必要な事項は、各研究科において定める。

### (退学)

- 第53条 退学しようとする者は、理由を付して所定の手続により願ひ出て、学長の許可を受けなければならない。

### (除籍)

- 第54条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

- (1) 授業料の納付期限を経過し、督促してもなお納付しない者

- (2) 疾病その他の理由により成業の見込みがないと認められる者

- (3) 第16条に定める在学期間を超えて、なお所定の課程を修了できない者

- (4) 第48条第3項に定める休学期間を超えて、なお就学できない者

- (5) 入学金の免除又は徴収猶予を申請した者のうち、免除若しくは徴収猶予が許可されなかった者又はその一部の免除を許可された者で、その納付すべき入学金を所定の期日までに納付しないもの

- (6) 入学金の徴収猶予を許可された者で、その納付すべき入学金を所定の期日までに納付しないもの

## 第11章 賞罰

### (表彰)

- 第55条 学生として表彰に値する行為があった者は、研究科長の推薦により、学長が表彰することができらる。

### (懲戒)

- 第56条 本大学院の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、研究科長の申請により教育研究評議会の議を経て、学長が懲戒を行う。

- 2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

- 3 学生の懲戒に係る手続等に関し必要な事項は、別に定める。

## 第 12 章 科目等履修生

### (科目等履修生)

第 57 条 本大学院の学生以外の者で、本大学院が開設する一又は複数の授業科目を履修し、単位を取得しようとする者がある場合は、選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

2 科目等履修生の入学の時期は、原則として毎学期の始めとする。

第 58 条 科目等履修生として入学を志願する者は、願書に添えて検定料を納付しなければならない。

第 59 条 科目等履修生として選考に合格し、入学料を納めた者に対し、入学を許可する。

第 60 条 科目等履修生は、履修しようとする授業科目の単位数に応じた額の授業料を入学と同時に納めなければならない。

第 61 条 科目等履修生が履修した授業科目については、試験の上、単位を与える。

第 62 条 科目等履修生には、その履修した授業科目について、別に定めるところにより、単位修得証明書を交付することができる。

第 63 条 本章に定めるもののほか、科目等履修生については、本大学院の学生に関する規定を準用する。

## 第 13 章 研究生

### (研究生)

第 64 条 本大学院において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、当該研究科の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

2 在学期間は、2 年以内とし、さらに研究を続けようとする場合には、延期を願い出て許可を受けなければならない。

第 65 条 研究生として入学を志願する者は、必要書類を提出するとともに、検定料を納めなければならない。

第 66 条 研究生として選考に合格し、入学料を納めた者に対し、入学を許可する。

第 67 条 研究生は、所定の授業料を別に定めるところにより納めなければならない。

第 68 条 本章に定めるもののほか、研究生については、本大学院の学生に関する規定を準用する。

## 第 14 章 聴講生

### (聴講生)

第 69 条 本大学院において特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、当該研究科の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、聴講生として入学を許可することができる。

2 聴講生の入学の時期は、原則として毎学期の始めとする。

第 70 条 聴講生として入学を志願する者は、必要書類を提出するとともに、検定料を納めなければならない。

第 71 条 聴講生として選考に合格し、入学料を納めた者に対し、入学を許可する。

第 72 条 聴講生は、履修しようとする授業科目の単位数に応じた額の授業料を入学と同時に納めなければならない。

第 73 条 聴講生が聴講した授業科目については、別に定めるところにより、聴講証明書を交付することがある。

第 74 条 本章に定めるもののほか、聴講生については、本大学院の学生に関する規定を準用する。

## 第 15 章 特別聴講学生及び特別研究学生

### (特別聴講学生)

第 75 条 他の大学院又は外国の大学院若しくは国際連合大学の学生で、本大学院において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該大学院等との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することができる。

### (特別研究学生)

第 76 条 他の大学院又は外国の大学院若しくは国際連合大学の学生で、本大学院において研究指導を受けることを志願する者があるときは、当該大学院等との協議に基づき、特別研究学生として入学を許可することができる。

### (特別聴講学生及び特別研究学生の入学の時期)

第 77 条 特別聴講学生及び特別研究学生の入学の時期は、原則として毎学期の始めとする。

2 前項の規定にかかわらず、当該学生が外国の大学院及び国際連合大学に在学中の学生で、特別の事情がある場合の受入れ時期は、各研究科においてその都度定めることができる。

### (特別聴講学生及び特別研究学生の検定料及び入学料)

第 78 条 特別聴講学生及び特別研究学生の検定料及び入学料は、徴収しない。

### (特別聴講学生及び特別研究学生の授業料)

第 79 条 特別聴講学生の授業料の額は、聴講生の額と同額とし、履修しようとする授業科目の単位数に応じた額を入学と同時に納めなければならない。

2 特別研究学生の授業料の額は、研究生の額と同額とし、別に定めるところにより納めなければならない。

第 80 条 前条第 1 項の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する者を特別聴講学生として受入れる場合の授業料は、徴収しない。

(1) 国立大学(国立大学法人法(平成 15 年法律第 112 号)に基づき設置される大学をいう。以下同じ。)

(2) 大学院の学生

(3) 大学間相互単位互換協定(授業料の相互不徴収が規定されているものに限る。)に基づき受け入れる公立又は私立の大学の大学院の学生

(4) 研究科間相互単位互換協定(授業料の相互不徴収について、あらかじめ教育研究評議会の議を経て学長が認めたものに限る。)に基づき受け入れる公立又は私立の大学院の学生

第 81 条 第 79 条第 2 項の規定にかかわらず、次の一に該当する者を特別研究学生として受け入れる場合の授業料は、徴収しない。

(1) 国立大学の大学院の学生

(2) 大学間特別研究学生交流協定(授業料の相互不徴収が規定されているものに限る。)に基づき受け入れる公立又は私立の大学の大学院の学生

(3) 研究科間特別研究学生交流協定(授業料の相互不徴収について、あらかじめ教育研究評議会の議を経て学長が認めたものに限る。)に基づき受け入れる公立又は私立の大学院の学生

### (特別聴講学生及び特別研究学生への規定の準用)

第 82 条 本章に定めるもののほか、特別聴講学生及び特別研究学生については、本大学院の学生に関する規定を準用する。

### (特別聴講学生及び特別研究学生に関する細目)

第 83 条 特別聴講学生及び特別研究学生に關し必要な事項は、各研究科において定める。

## 第 16 章 外国人留学生

### (外国人留学生)

第 84 条 外国人で、我が国において教育を受ける目的をもって入国し、本大学院に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

第 85 条 削除

### (協定留学生の授業料等の不徴収)

第 86 条 交流協定(授業料等の相互不徴収が規定されているものに限る。)に基づく外国人留学生に係る授業料、入学料及び検定料は、徴収しない。

### (外国人留学生への規定の適用)

第 87 条 本章に定めるもののほか、外国人留学生については、本大学院の学生の規定を適用する。

## 第 17 章 授業料、入学料、検定料及び寄宿料

#### (授業料等)

第88条 授業料、入学科、検定料及び寄宿料の額並びに徴収方法は、別に定める。

#### (退学等の場合の授業料)

第89条 退学若しくは転学する者又は退学を命ぜられた者は、その期の授業料を納付しなければならぬ。

2 停学を命ぜられた者は、その期間中の授業料を納付しなければならぬ。

3 授業料、入学科、検定料及び寄宿料の徴収に關し必要な事項は、別に定める。

#### (入学科、授業料及び寄宿料の免除及び徴収猶予)

第90条 経済的理由によつて納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合又はその他やむを得ない事情があるとして認められる場合は、入学科、授業料及び寄宿料の全部若しくは一部を免除し、又は徴収を猶予することがある。

2 前項に定めるもののほか、学業及び人物共に特に優秀と認められる場合は、授業料の全部若しくは一部を免除することがある。

3 入学科、授業料及び寄宿料の免除及び徴収の猶予に關し必要な事項は、別に定める。

#### (既納の授業料等)

第91条 納付した授業料、入学科、検定料及び寄宿料は、返還しない。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する場合には、納付した者の申出により、当該各号に定める額を返還する。

(1) 入学を許可されたとき納付した授業料であつて、3月31日までに入学を辞退した場合における当該授業料相当額

(2) 前期分授業料徴収の際、後期分授業料を併せて納付した者が、後期分授業料の徴収時期前に休学又は退学した場合における後期分授業料相当額

(3) 前期分授業料徴収の際、後期分授業料を併せて納付した者が、前条第2項の規定に基づき後期分授業料の全部を免除された場合における当該免除された後期分授業料相当額

#### (科目等履修生、研究生等の授業料等)

第92条 科目等履修生、研究生及び聴講生の検定料、入学科及び授業料の額は、別に定める額とする。

### 第18章 特別の課程

#### (特別の課程)

第92条の2 本大学院は、本大学院の学生以外の者を対象とした特別の課程(以下「特別の課程」という。)を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

2 特別の課程に關し必要な事項は、別に定める。

第93条 削除

### 第19章 補則

#### (規程等への委任)

第94条 この学則に定めるもののほか、本大学院の組織、管理及び運営の細目その他本大学院に關し必要な事項は、別に定める。

#### 附 則

1 この学則は、平成16年4月7日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

2 医学研究科医学系専攻及び加齢適応医科学系専攻の平成16年度及び平成17年度における収容定員は、別表第1収容定員表の規定にかかわらず、附則表第1のとおりとする。

3 工学系研究科博士後期課程生物機能工学専攻の平成16年度における収容定員は、別表第1収容定員表の規定にかかわらず、附則表第2のとおりとする。

4 廃止前の国立学校設置法(昭和24年法律第150号)に基づき設置された信州大学(以下「旧大学」という。)の信州大学学則等を廃止する規程(平成16年信州大学規程第437号)に基づき廃止する信州大学大

学院学則(平成6年信州大学規程第260号。以下「旧大学院学則」という。)の規定により、旧大学の大学院(以下「旧大学院」という。)に入学した学生が在学しなくなる日までの間、存続するとされた旧大学院の専攻に關する旧大学院学則の規定は、当該学生が国立大学法(平成15年法律第112号)に基づき国立大学法(信州大学が設置する信州大学の大学院(以下「新大学院」という。))に在学しなくなる日までの間、平成16年4月1日以後も、なおその効力を有する。

5 旧大学院学則の規定により、旧大学院に入学した学生が取得できる教育職員免許状の種類に關する旧大学院学則の規定は、別表第2教育職員免許状の種類の規定にかかわらず、当該学生が新大学院に在学しなくなる日までの間、平成16年4月1日以後も、当該学生に対して、なおその効力を有する。

#### 附則別表第1(附則第2項関係)

研究科名	専攻名	収容		定員
		平成16年度	平成17年度	
医学研究科医学系専攻	加齢適応医科学系専攻	96	144	
		28	42	

#### 附則別表第2(附則第3項関係)

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成16年度	平成17年度
工学系研究科生物機能工学専攻		38	

附 則(平成16年4月22日平成16年度学則第2号)

この学則は、平成16年4月22日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則(平成16年9月16日平成16年度学則第3号)

この学則は、平成16年9月16日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則(平成17年3月17日平成16年度学則第5号)

1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。

2 平成17年3月31日に工学系研究科博士前期課程に在学する者については、この学則による改正後の第23条の2を、同条中「修士課程」を「修士課程(博士前期課程を含む。)」と読み替えて適用するものとする。

3 平成17年3月31日に置かれている工学系研究科地球環境システム科学専攻、生物機能工学専攻、材料工学専攻及びシステム開発工学専攻は、この学則による改正後の規定にかかわらず、平成17年3月31日に当該専攻に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。この場合において、当該専攻の平成17年度及び平成18年度における収容定員は、附則別表第1のとおりとする。

#### 附則別表第1(附則第3項関係)

研究科名	専攻名	収容		定員
		平成17年度	平成18年度	
工学系研究科地球環境システム科学専攻	地球環境システム科学専攻	12	6	
	生物機能工学専攻	26	13	
	材料工学専攻	18	9	
	システム開発工学専攻	20	10	

- 4 総合工学系研究科生命機能・フアイバー工学専攻、システム開発工学専攻、物質創成科学専攻、山岳地域環境科学専攻及び生物・食料科学専攻の平成17年度及び平成18年度における収容定員は、別表第1収容定員表の規定にかかわらず、附則別表第2のとおりとする。

附則別表第2 (附則第4項関係)

研究科名	専攻名	収容 定員	
		平成17年度	平成18年度
総合工学系研究科	生命機能・フアイバー工学専攻	15	30
	システム開発工学専攻	12	24
	物質創成科学専攻	7	14
	山岳地域環境科学専攻	8	16
	生物・食料科学専攻	7	14

- 5 法曹法務研究科法曹法務専攻の平成17年度及び平成18年度における収容定員は、別表第1収容定員表の規定にかかわらず、附則別表第3のとおりとする。

附則別表第3 (附則第5項関係)

研究科名	専攻名	収容 定員	
		平成17年度	平成18年度
法曹法務研究科	法曹法務専攻	40	80

附 則(平成17年6月16日平成17年度学則第1号)

この学則は、平成17年6月16日から施行する。

附 則(平成18年2月16日平成17年度学則第3号)

この学則は、平成18年2月16日から施行する。

附 則(平成18年3月16日平成17年度学則第5号)

この学則は、平成18年3月16日から施行する。

附 則(平成18年12月21日平成18年度学則第4号)

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成19年2月22日平成18年度学則第5号)

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

- 2 医学系研究科保健学専攻の平成19年度における収容定員は、別表第1収容定員表の規定にかかわらず、附則別表のとおりとする。

附則別表(附則第2項関係)

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成19年度	
医学系研究科	保健学専攻	14	

附 則(平成19年12月26日平成19年度学則第3号)

この学則は、平成19年12月26日から施行する。

附 則(平成20年3月19日平成19年度学則第6号)

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。  
2 平成20年3月31日に在学する者については、この学則による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成21年3月19日平成20年度学則第3号)

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。  
2 平成21年3月31日に在学する者については、この学則による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。  
3 平成21年3月31日に置かれている医学系研究科保健学専攻は、この学則による改正後の規定にかかわらず、同日に当該専攻に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。この場合において、当該専攻の平成21年度における収容定員は、附則別表第1のとおりとする。

附則別表第1 (附則第3項関係)

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成21年度	
医学系研究科	保健学専攻	14	

- 4 医学系研究科医学系専攻の平成21年度から平成23年度までにおける収容定員は、別表第1収容定員表の規定にかかわらず、附則別表第2のとおりとする。

附則別表第2 (附則第4項関係)

研究科名	専攻名	収容定員		
		平成21年度	平成22年度	平成23年度
医学系研究科	医学系専攻	188	184	180

- 5 医学系研究科保健学専攻の平成21年度及び平成22年度における収容定員は、別表第1収容定員表の規定にかかわらず、附則別表第3のとおりとする。

附則別表第3 (附則第5項関係)

研究科名	専攻名	収容定員		
		平成21年度	平成22年度	平成23年度
医学系研究科	保健学専攻	14	4	8

附 則(平成21年5月21日平成21年度学則第2号)

この学則は、平成21年5月21日から施行する。

附 則(平成22年3月26日平成21年度学則第4号)

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。  
2 平成22年3月31日に農学研究科に在学する者が取得できる教育職員免許状の種類は、この学則による改正後の別表第2教育職員免許状の種類の規定にかかわらず、なお従前の例による。  
3 工学系研究科機械システム工学専攻、電気電子工学専攻、社会開発工学専攻、物質工学専攻、情報工学専攻、環境機能工学専攻、素材開発工学専攻、機能機械工学専攻及び精密素材工学専攻の平成22年度における収容定員は、別表第1収容定員表の規定にかかわらず、附則別表第1のとおりとする。  
4 法曹法務研究科法曹法務専攻の平成22年度及び平成23年度における収容定員は、別表第1収容定員表の規定にかかわらず、附則別表第2のとおりとする。

附則別表第1 (附則第3項関係)

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成22年度	平成23年度
工学系研究科	機械システム工学専攻	59	81
	電気電子工学専攻	76	51
	社会開発工学専攻	85	35
	物質工学専攻	36	41
	情報工学専攻		35
	環境機能工学専攻		
	素材開発化学専攻		
	機能機械学専攻		
	精密素材工学専攻		

附則別表第2 (附則第4項関係)

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成22年度	平成23年度
法曹法学研究科	法曹法学専攻	98	76

附 則 (平成22年10月21日平成22年度学則第1号)

この学則は、平成22年10月21日から施行する。

附 則 (平成23年3月17日平成22年度学則第3号)

1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。

2 平成23年3月31日に工学系研究科機械システム工学専攻に在学する者が取得できる教育職員免許状の種類は、この学則による改正後の別表第2教育職員免許状の種類ににかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成24年3月29日平成23年度学則第2号)

1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。

2 平成24年3月31日に置かれている工学系研究科は、この学則による改正後の規定にかかわらず、同日に当該研究科に在学する者が当該研究科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。この場合ににおいて、当該研究科の平成24年度における収容定員は、附則別表1のとおりとし、当該研究科に在学する学生が取得できる教育職員免許状の種類は、なお従前の例による。

附則別表第1 (附則第2項関係)

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成24年度	平成25年度
工学系研究科	数理・自然情報科学専攻	16	26
	物質基礎科学専攻	28	32
	地球生物圏科学専攻	45	40
	機械システム工学専攻		
	電気電子工学専攻		
	社会開発工学専攻		

物質工学専攻	30
情報工学専攻	45
環境機能工学専攻	20
応用生物科学専攻	21
繊維システム工学専攻	21
素材開発化学専攻	23
機能機械学専攻	20
精密素材工学専攻	23
機能高分子学専攻	21
感性工学専攻	432
計	

3 理工学系研究科の平成24年度における収容定員は、この学則による改正後の別表第1の規定にかかわらず、附則別表第2のとおりとする。

附則別表第2 (附則第3項関係)

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成24年度	平成25年度
理工学系研究科	数理・自然情報科学専攻	16	26
	物質基礎科学専攻	28	32
	地球生物圏科学専攻	45	12
	機械システム工学専攻	30	30
	電気電子工学専攻	45	20
	土木工学専攻	34	28
	建築学専攻	64	24
	物質工学専攻		
	情報工学専攻		
	環境機能工学専攻		
	繊維・感性工学専攻		
	機械・ロボット学専攻		
	化学・材料専攻		
	応用生物科学専攻		
	計	434	

4 医学系研究科医科学専攻の平成24年度における収容定員は、この学則による改正後の別表第1の規定にかかわらず、附則別表第3のとおりとする。

附則別表第3 (附則第4項関係)

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成24年度	平成25年度
医学系研究科	医科学専攻	32	

5 平成24年3月31日に置かれている医学系研究科医科学専攻、臓器移植細胞工学医科学系専攻及び加齢適応医科学系専攻は、この学則による改正後の規定にかかわらず、同日に当該専攻に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。この場合ににおいて、当該専攻の平成24年度から平成26年度における収容定員は、附則別表第4のとおりとする。



附則別表第4 (附則第5項関係)

研究科名	専攻名	収容定員		
		平成24年度	平成25年度	平成26年度
医学系研究科 医学系専攻 臓器移植細胞工学医学系専攻 加齢適応医学系専攻	医学系専攻	132	88	44
	臓器移植細胞工学医学系専攻	42	28	14
	加齢適応医学系専攻	42	28	14

6 医学系研究科医学系専攻及び疾患予防医学系専攻の平成24年度から平成26年度までにおける収容定員は、この学則による改正後の別表第1収容定員表の規定にかかわらず、附則別表第5のとおりとする。

附則別表第5 (附則第6項関係)

研究科名	専攻名	収容定員		
		平成24年度	平成25年度	平成26年度
医学系研究科 医学系専攻 疾患予防医学系専攻	医学系専攻	40	80	120
	疾患予防医学系専攻	8	16	24

附 則(平成24年4月19日平成24年度学則第1号)

この学則は、平成24年4月19日から施行する。

附 則(平成24年12月20日平成24年度学則第2号)

この学則は、平成24年12月20日から施行する。ただし、この学則による改正後の第38条の2及び第86条の規定については、平成25年2月2日から施行する。

附 則(平成25年2月2日平成24年度学則第4号)

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則(平成25年3月15日平成24年度学則第5号)

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月28日平成25年度学則第5号)

この学則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成27年3月27日平成26年度学則第5号)

1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。  
2 法曹法務研究科法曹法務専攻の平成28年度における収容定員は、この学則による改正後の別表第1の規定にかかわらず、附則別表のとおりとする。

附則別表 (附則第2項関係)

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成28年度	平成29年度
法曹法務研究科 法曹法務専攻	法曹法務専攻	18	

附 則(平成28年3月30日平成27年度学則第4号)

1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。  
2 平成28年3月31日に置かれている教育学研究科学校教育専攻の学校教育学専攻及び臨床心理学専攻は、この学則による改正後の規定に関わらず、同日に当該専攻に在学する者が在学しなくなるまでの間、

存続するものとする。この場合において、当該専攻の平成28年度における収容定員は、附則別表第1のとおりとし、当該専攻に在学する学生が取得できる教育職員免許状の種類は、なお従前の例による。

3 平成28年3月31日に置かれている教育学研究科教科教育専攻は、この学則による改正後の規定にかかわらず、同日に当該専攻に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。この場合において、当該専攻の平成28年度における収容定員は、附則別表第2のとおりとし、当該専攻に在学する学生が取得できる教育職員免許状の種類は、なお従前の例による。

4 教育学研究科学校教育専攻及び高度教職実践専攻の平成28年度における収容定員は、この学則による改正後の別表第1収容定員表の規定にかかわらず、附則別表第3のとおりとする。

5 平成28年3月31日に置かれている理工学系研究科は、この学則による改正後の規定にかかわらず、同日に当該研究科に在学する者が当該研究科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。この場合において、当該研究科の平成28年度における収容定員は、附則別表第5のとおりとし、当該研究科に在学する学生が取得できる教育職員免許状の種類は、なお従前の例による。

6 平成28年3月31日に置かれている農学研究科は、この学則による改正後の規定にかかわらず、同日に当該研究科に在学する者が当該研究科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。この場合において、当該研究科の平成28年度における収容定員は、附則別表第5のとおりとし、当該研究科に在学する学生が取得できる教育職員免許状の種類は、なお従前の例による。

7 総合理工学研究科の平成28年度における収容定員は、この学則による改正後の別表第1の規定にかかわらず、附則別表第6のとおりとする。

附則別表第1(附則第2項関係)

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成28年度	平成29年度
教育学研究科 学校教育専攻	学校教育専攻	5	
	臨床心理学専攻	3	

附則別表第2(附則第3項関係)

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成28年度	平成29年度
教育学研究科 教科教育専攻	国語教育専攻	3	
	社会科教育専攻	4	
	数学教育専攻	3	
	理科教育専攻	4	
	音楽教育専攻	3	
	美術教育専攻	3	
	保健体育専攻	3	
	技術教育専攻	3	
	家政教育専攻	3	
	英語教育専攻	3	

附則別表第3(附則第4項関係)

研究科名	専攻名	収容定員

	平成28年度
教育学研究科 学校教育専攻	20
高度教職実践専攻	20

附則別表第4(附則第5項関係)

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成28年度	平成29年度
理工学系研究科	数理・自然情報科学専攻	16	
	物質基礎科学専攻	26	
	地球生物圏科学専攻	28	
	機械システム工学専攻	32	
	電気電子工学専攻	45	
	土木工学専攻	12	
	建築学専攻	30	
	物質工学専攻	30	
	情報工学専攻	45	
	環境機能工学専攻	20	
	繊維・感性工学専攻	34	
	機械・ロボット学専攻	28	
	化学・材料専攻	64	
	応用生物科学専攻	24	

附則別表第5(附則第6項関係)

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成28年度	平成29年度
農学研究科	食料生産科学専攻	20	
	森林科学専攻	17	
	応用生命科学専攻	16	
	機能性食料開発学専攻	16	

附則別表第6(附則第7項関係)

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成28年度	平成29年度
総合理工学研究科	理学専攻	75	
	工学専攻	240	
	繊維学専攻	160	
	農学専攻	65	
	生命医工学専攻	35	

附則(平成28年6月22日平成28年度学則第1号)  
この学則は、平成28年6月22日から施行する

附則

この学則は、平成29年4月1日から施行する。

別表第1(第7条関係)

収容定員表

研究科名	専攻名等	修士課程及び博士前期課程		博士課程(博士前期課程を 除く。)		専門職学位課程	
		収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員
人文科学研究科	地域文化専攻	10	5				
	言語文化専攻	10	5				
教育学研究科	計	20	10				
	学校教育専攻	40	20				
	高度教職実践専攻					40	20
	計	40	20			40	20
経済・社会政策科学専攻 学研究所	経済・社会政策科学専攻	12	6				
	イノベーション・マネジ メント専攻	20	10				
	計	32	16				
	理学専攻	150	75				
	工学専攻	480	240				
総合理工学研究科	繊維学専攻	320	160				
	農学専攻	130	65				
	生命医工学専攻	70	35				
	計	1,150	575				
医学系研究科	医学専攻	24	12				
	医学系専攻			160	40		
	疾患予防医学系専攻						
	保健学専攻	28	14	32	8		
総合理工学研究科	計	52	26	204	52		
	生命機能・フアイバー工 学専攻			48	15		
	システム開発工学専攻			36	12		
	物質創成科学専攻			21	7		
総合理工学研究科	山岳地域環境科学専攻			24	8		
	生物・食料科学専攻			21	7		
	計			147	49		
	合計	1,294	647	351	101	40	20

別表第2(第47条関係)

教育職員免許状の種類		専攻名等	教育職員免許状の種類	免許教科又は特別支援教育領域
研究科名	地域文化専攻	哲学分野	中学校教諭専修免許状	社会
		史学分野	高等学校教諭専修免許状	公民
人文科学研究科	言語文化専攻	国語コース	中学校教諭専修免許状	地理歴史
		英語コース	高等学校教諭専修免許状	国語
		ドイツ語コース	中学校教諭専修免許状	英語
			高等学校教諭専修免許状	英語
			中学校教諭専修免許状	ドイツ語
			高等学校教諭専修免許状	ドイツ語
教育学研究科	学校教育専攻		幼稚園教諭専修免許状	
			小学校教諭専修免許状	
			中学校教諭専修免許状	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術, 家庭, 英語
			高等学校教諭専修免許状	国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 家庭, 英語
			特別支援学校教諭専修免許状	知的障害者, 肢体不自由者, 障害者
	高度教職実践専攻		幼稚園教諭専修免許状	
			小学校教諭専修免許状	
			中学校教諭専修免許状	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術, 家庭, 英語
			高等学校教諭専修免許状	国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 家庭, 英語
			中学校教諭専修免許状	数学, 理科
総合理工学研究科	理学専攻		高等学校教諭専修免許状	数学, 理科
			中学校教諭専修免許状	理科
	工学専攻		高等学校教諭専修免許状	理科, 情報, 工業
			中学校教諭専修免許状	理科
	繊維学専攻		高等学校教諭専修免許状	理科
			中学校教諭専修免許状	理科, 工業
			高等学校教諭専修免許状	理科, 工業
生命科学専攻		中学校教諭専修免許状	理科, 農業	
		高等学校教諭専修免許状	理科	
		高等学校教諭専修免許状	理科	

## 26. 信州大学学位規程

(平成16年4月1日信州大学規程第19号)

(趣旨)

第1条 この規程は、学位規則(昭和28年文部省令第9号。以下「省令」という。)第13条並びに信州大学学位(平成16年信州大学学位規則第1号。以下「学位規則」という。)第55条及び信州大学大学院学位(平成16年信州大学大学院学位規則第2号。以下「大学院学位規則」という。)第46条の規定に基づき、信州大学(以下「本学」という。)において授与する学位に關し必要な事項を定めるものとする。

(学位の種類等)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士の学位並びに専門職学位とする。

2 学位を授与するに当たっては、専攻分野の名称を別表のとおり付記するものとする。

3 専攻分野の名称に追加、変更等を行う必要がある場合は、学長に協議するものとする。

(学位授与の要件)

第3条 学士の学位の授与は、学位規則により、本学を卒業した者に対し行うものとする。

第4条 修士の学位の授与は、大学院学位規則により、本学大学院の修士課程を修了した者に対し行うものとする。

第5条 博士の学位の授与は、大学院学位規則により、本学大学院の博士課程を修了した者に対し行うものとする。

2 前項に規定するもののほか、本学に博士の学位の授与に係る論文(以下「博士論文」という。)を提出して、その審査に合格し、かつ、学力試験により本学大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを認められた者に対し、博士の学位の授与を行うことができる。

第5条の2 専門職学位の授与は、大学院学位規則の規定により、本学大学院の教育学研究科専門職学位課程を修了した者に対し行うものとする。

(課程による者の学位論文)

第6条 第4条及び第5条第1項の規定により学位論文(大学院学位規則第40条に規定する特定の課題についての研究の成果を含む。以下同じ。)の審査を申請する者は、申請書に学位論文及び参考論文のあるときは当該参考論文を添え、所屬する課程の研究科長を経て学長に提出するものとする。

(課程を経ない者の学位授与の申請)

第7条 第5条第2項の規定により学位を申請する者は、申請書に学位論文、学位論文の要旨、参考論文のあるときは当該参考論文、履歴書及び所定の論文審査手数料を添えて当該研究科長を経て、学長に提出するものとする。

2 申請の受理は、当該研究科委員会の議を経て、学長が決定する。

3 本学大学院の博士課程において、所定の単位を修得して退学した者が、退学後1年以内に博士論文を提出した場合は、論文審査手数料を免除する。

(学位論文)

第8条 学位論文は、自著1編(3通)とする。

第9条 受理した学位論文等の申請書類及び論文審査手数料は、いかなる事由があっても返還しない。

第10条 学長は、申請を受理したときは、その学位の種類に於いて当該研究科委員会に学位論文の審査を付託する。

(学位論文の審査及び試験)

第11条 研究科委員会は、前条により学位論文の審査を付託されたときは、大学院学位規則第43条第1項に規定

する審査委員会において、学位論文の審査、最終試験又は学力試験を行う。

2 前項の学位論文の審査に当たっては、研究科委員会が必要と認められた場合、他の研究科、他の大学院又は研究所等の教員等の協力を得ることができる。

第12条 学位論文審査に關し必要があるときは、学位論文の提出者に対して当該学位論文の副本、歌本、模型又は標本その他の提出を求めることができる。

第13条 修士の学位の授与に係る論文(大学院学位規則第40条に規定する特定の課題についての研究の成果を含む。以下「修士論文」という。)の審査は、当該修士論文提出後3月以内に終了するものとする。

2 博士論文の審査は、当該博士論文提出後1年以内に終了するものとする。

第14条 第11条第1項の最終試験は、学位論文に關係ある科目について口頭又は筆答により行うものとする。

2 第5条第2項による者は、学位論文の審査のほか、外国語及びその専攻科目について本学大学院の博士課程の修了者と同等以上の学力を有することを認めるための試験を行うものとする。

3 前項の試験は、口頭又は筆答により行い、外国語については、原則として医学系研究科は2外国語を、総合工学系研究科は1外国語を課するものとする。

4 本学大学院の博士課程において、所定の年限以上在学し、所定の単位を修得し退学した者が、当該研究科が定める退学後所定の年限以内に第5条第2項の規定による学位を申請するときは、第2項の試験を免除することができる。

(課程の修了及び学位論文の審査の議決)

第15条 研究科委員会は、審査委員会の報告に基づいて第4条及び第5条第1項によるものについては、課程の修了の可否、第5条第2項によるものについては、その論文の審査及び学力試験の可否について議決をする。

2 教育学研究科委員会は、第5条の2によるものについて、教育学研究科専門職学位課程の修了の可否について議決する。

3 前2項の議決は、研究科委員の3分の2以上出席した研究科委員会において、出席委員の3分の2以上の賛成を得なければならない。ただし、研究科委員会が特に必要と認めるときは、研究科委員の総数から休職中の委員を除くなど、別段の定めをすることができる。

(学長への報告)

第16条 研究科委員会が前条の議決をしたときは、研究科長は、速やかに文書により学長に報告しなければならない。

(学位記の授与)

第17条 学長は、第3条によるものについては、学位記を授与するものとする。

2 学長は、前条の報告に基づいて第4条、第5条第1項及び第5条の2によるものについては、課程の修了を、第5条第2項によるものについては、学位授与を決定し、学位記を授与するものとする。

(博士論文要旨等の公表)

第18条 本学は、博士の学位を授与したときは、博士の学位を授与した日から3月以内に、その博士論文の内容の要旨及び博士論文審査の結果の要旨を信州大学機関リポジトリに登録し、公表するものとする。

(博士論文の公表)

第19条 博士の学位を授与された者は、博士の学位を授与された日から1年以内に、その博士論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表しているときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、当該博士論文を審査した研究科の長の承認を受けて、博士論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本学はその博士論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 前2項の規定により、博士論文を公表する場合は、当該博士論文に「信州大学審査学位論文」又は「Doctora

1. Dissertation (Shinshu University)」と明記しなければならない。

4 前項までに規定する博士論文の公表については、当該博士論文を信州大学機関リポジトリに登録して行うものとする。

(学位の名称の使用)

第20条 学位を授与された者は、学位の名称を用いるときは、学位に本学名を付記するものとする。

(学位記の様式)

第21条 学位記の様式は、別記様式1, 2, 3, 4, 5及び6のとおりとする。

(学位授与の取消)

第22条 修士若しくは博士の学位又は専門職学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があったとき又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、研究科委員会の議を経て学位の授与を取り消すことがある。

2 前項の議決については、第15条の議決の場合と同様に行うものとする。

(学位授与の報告)

第23条 学長は、博士の学位を授与したときは、省令第12条の定めるところにより、文部科学大臣に報告するものとする。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 (略)

附 則

1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。

2 平成30年3月31日に医学系研究科(博士課程及び博士後期課程)及び総合工学系研究科に在学している者にかかると第5条第1項により授与する博士の学位については、この規程による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3 平成31年3月31日までの間における第5条第2項により授与する博士の学位(博士(工学)を除く。)の取扱い又は医学系研究科(博士課程及び博士後期課程)若しくは総合工学系研究科において所定の単位を修得して退学し、かつ退学後1年以内に博士論文を提出した者については、この規程による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

4 第5条第2項により授与する博士の学位のうち、博士(工学)については、総合理工学研究科において同条第1項による博士(工学)の学位が授与された後において取り扱うものとする。

別表(第2条関係)

学部	学科・課程	学位の種類及び専攻分野の名称
人文学部	人文学科	学士(文学)
教育学部	学校教育教員養成課程	学士(教育学)
経法学部	応用経済学科	学士(経済学)
	総合法律学科	学士(法学)
理学部	数学科	学士(理学)
	理学科	学士(医学)
医学部	保健学科	学士(看護学)

	物質化学科	学士(保健学)
工学部	電子情報システム工学科	学士(工学)
	水環境・土木工学科	
	機械システム工学科	
農学部	建築学科	学士(農学)
	農学生命科学科	
繊維学部	先進繊維・感性工学科	学士(工学)
	機械・ロボット学科	
	化学・材料学科	
	応用生物科学科	学士(農学)

修士の学位

研究科名	専攻名等	課程	学位の種類及び専攻分野の名称
人文学部研究科	地域文化専攻	修士課程	修士(文学)
	言語文化専攻		
教育学研究科	学校教育専攻	修士課程	修士(教育学)
経済・社会政策科学研究科	経済・社会政策科学専攻	修士課程	修士(経済学)
	イノベーション・マネジメント専攻	修士課程	修士(マネジメント)
	理学専攻	修士課程	修士(理学)
	工学専攻	修士課程	修士(工学)
総合理工学研究科	繊維学専攻	修士課程	修士(工学)
	農学専攻	修士課程	修士(農学)
	生命医工学専攻	修士課程	修士(農学)
医学系研究科	医学系専攻	修士課程	修士(医学)
	保健学専攻	修士課程	修士(看護学)
		修士課程	修士(保健学)

博士の学位(第5条第1項によるもの)

研究科名	専攻名等	課程	学位の種類及び専攻分野の名称
総合理工学研究科	医学系専攻	博士課程	博士(医学)
		博士課程	博士(保健学)
総合理工学研究科	総合理工学専攻	博士課程	博士(学術)
		博士課程	博士(理学)
		博士課程	博士(工学)
		博士課程	博士(農学)
総合理工学研究科	生命医工学専攻	博士課程	博士(医学)
		博士課程	博士(医工学)

博士の学位(第5条第2項によるもの)

研究科名	学位の種類及び専攻分野の名称
総合理工学研究科	博士(医学)
	博士(保健学)
	博士(学術)
	博士(理学)
	博士(工学)
	博士(農学)
博士(医工学)	

専門職の学位

研究科名	専攻名等	課程	学位の種類及び専攻分野の名称
教育学研究科	高度教職実践専攻	専門職学位課程	教職修士(専門職)

別記様式1 (学士の場合)

○第 号 卒業証書・学位記 氏 名 年 月 日 名 日生

本学〇〇学部 (〇〇学科) 所定の課程を修めて本学を卒業したことを認め学士 (〇〇) の学位を授与する

[学部印] 信州大学〇〇学部 長 氏 名 [印]

[大学印] 信州大学 長 氏 名 [印]

別記様式2 (大学院の修士課程を修了した場合)

第 号 学 位 記 氏 名 年 月 日 名 日生

本学大学院〇〇研究科〇〇専攻の修士課程を修了したので修士(〇〇)の学位を授与する

信州大学 [印]

別記様式3 (大学院の博士課程を修了した場合)

第 号 学 位 記 氏 名 年 月 日 名 日生

本学大学院〇〇研究科〇〇専攻の博士課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したので博士 (〇〇) の学位を授与する

信州大学 [印]

別記様式4 (論文提出による場合)

第 号 学 位 記 氏 名 年 月 日 名 日生

本学に学位論文を提出し所定の審査及び試験に合格したので博士 (〇〇) の学位を授与する

信州大学 [印]

別記様式5 (大学院の専門職学位課程を修了した場合)

第 号 学 位 記 氏 名 年 月 日 名 日生

本学大学院〇〇研究科〇〇専攻の専門職学位課程を修了したので〇〇 (専門職) の学位を授与する

年 月 日 信州大学 [印]

別記様式6 (大学院の博士課程 (大学院学則第27条の3第1項に定める博士課程学位プログラム) を修了した場合)

第 号 学 位 記 氏 名 年 月 日 名 日生

△△△△△を修了し、本学大学院〇〇研究科〇〇専攻の博士課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したので博士 (〇〇) の学位を授与する

年 月 日 信州大学 [印]

※△△△△△は、博士課程学位プログラムの名称

## 27. 信州大学大学院総合理工学研究科規程

(平成 28 年 2 月 18 日 信州大学規程第 268 号)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、信州大学大学院学則(平成 16 年信州大学学則第 2 号。以下「大学院学則」という。 )及び信州大学学位規程(平成 16 年信州大学規程第 19 号)に定めるもののほか、信州大学大学院総合理工学研究科(以下「研究科」という。 )に関し必要な事項を定める。

(目的)

第 1 条の 2 研究科における人材養成に関する目的、教育・研究上の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 人材養成に関する目的

研究科は、教育・研究の理念に基づき、理学、工学、繊維学、農学並びに生命工医学の 5 専攻の専門研究分野の高度専門技術者と研究者を養成することを目的とする。幅広い学問分野を含む利点を生かして、学際領域を開拓する進取の気性に富んだ人材を育成し、広い視野と高い課題解決能力をもつ高度専門職業人の養成を目的とする。また、教育・研究の目標に掲げた、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者及び環境と調和した社会を支える高度で知的な養育のある人材を養成することを目的とする。

(2) 教育・研究上の目的

研究科は、信州の豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた大学院として、教育・研究の目標等に基づき、理学、工学、繊維学、農学並びに生命工医学の各分野において、社会に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。また、先鋭領域融合研究群の 5 つの研究所と連携して最先端領域の研究を推進する。これにより、高度な専門的知識と実践的技術力を持つとともに、それをさまざまな課題解決に柔軟に応用できる高度専門職業人を育成することを教育・研究上の目的とする。

2 理学専攻における人材養成に関する目的、教育・研究上の目的は、以下の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 先端科学技術を開拓できる独創的研究能力及び国際社会において持続的発展の可能な社会をリードできる高度な研究能力を有する環境マインドをもった先導的な人材の育成を目指す。
- (2) 自然界や社会における現象や構造の解明を目的として、数学、物理学、化学、生物学、地学等の基礎科学をふまえて多様な分野の基礎研究を行う。
- (3) 常識にとらわれない批判的思考力や発表の表現力を培う教育方針をとり、さまざまな課題に対処できる研究者、高度専門職業人等の養成を目標としている。
- (4) 知的好奇心と探究心に基づき独創的研究をおこない、人類社会の持続的発展に寄与する人材を育成することを目指す。

3 工学専攻における人材養成に関する目的、教育・研究上の目的は、以下の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 幅広い見識と健全な倫理観を持ち、国際的及び工学的な立場から社会の発展に寄与する精神と行動力を育成する。
  - (2) 幅広い知識及び深い専門知識に基づいて自主的に学習できる能力及び応用能力を育成する。
  - (3) 基礎理論に基づいて工学の及び学際的な観点から問題点や課題を発見することができ、筋道を立てて解決できる能力を育成する。
  - (4) 技術者・研究者として自らの思考・判断を説明するためのプレゼンテーション能力を有し、専門知識に基づいた発展的な議論を国際的に展開できる能力を育成する。
  - (5) 自然環境に配慮した環境マインドを習得し、環境調和社会を目指した工学的な取り組みを継続的に行う行動力を育成する。
- 4 繊維学専攻における人材養成に関する目的、教育・研究上の目的は、以下の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 衣・食・住の要である「繊維」に根ざした伝統的な科学技術を背景として、新しい文化の創造と高度な科学技術時代に対応できる国際感覚をもった技術者を養成する。
- (2) 「繊維・ファイバー工学」分野の学際的領域で先端科学技術を開拓する研究能力を有した人材を養成する。
- (3) 具体的に身につけさせる能力  
イ 優れた人格の形成：豊かな人間性、社会に対する貢献と責任意識、高い倫理観  
ロ 進展する科学技術と社会の変化に対応しうる能力、未来創造能力

ハ 普通的基础学力、課題設定・探求能力、学際・業際領域を開く創造的能力、自己啓発能力、チャレンジ精神、起業家精神(ベンチャー精神)

ニ 基礎学力に裏付けされた専門性：専門的能力、実践的能力、経営・企画等能力(マネジメント能力)

ホ 国際性：自国文化・異文化理解力、外国語能力と個性豊かな表現力

ヘ 情報処理能力

(4) 資源、エネルギー、環境とリサイクル、安全で豊かな文化生活、情報・通信、医療・健康・福祉等に関する学際的先端領域を開拓するために以下の目的を設定する。

ロ 国際的、学際的工学系新領域の開拓

イ 新ライフスタイルを生み出す文化創造科学技術の創成

ハ フロントエリア繊維総合技術科学の国際的中核研究拠点(COE)の形成

ホ 産官学連携協力による新産業の創出

ニ 地域産業の振興への貢献

5 農学専攻における人材養成に関する目的、教育・研究上の目的は、以下の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 自然環境と調和のとれた持続可能な地域社会の発展に資する教育・研究を教授し、開発能力と高い倫理性並びに豊かな教養と個性を兼ね備えた人材を育成する。
- (2) 自然環境と共生し得る農学の学際的先端領域を開拓する。
- (3) 実践的技術力及び創造性豊かな研究開発能力を備えた人材を養成する。
- (4) 社会人及び外国人留学生を積極的に受け入れ、高度の学術、技術を修得させ、国内外の社会の発展に寄与する。
- (5) 地域社会と連携を進め、産業の発展に貢献する。

6 生命工医学専攻における人材養成に関する目的、教育・研究上の目的は、以下の各号に掲げるとおりとする。

(1) 健康・福祉・医療・創薬分野の現実課題を系統的に解決できる高度な専門技術者を育成する。

(2) 医学・理学・工学・繊維学・農学分野の基礎知識に加えて健康・福祉・医療・創薬領域の専門知識とそれらに支えられた総合的課題解決能力を育成する。

(3) 医療・健康と連携した生体工学・生命工学分野の教育研究を行うことにより、医療関連分野の発展に貢献することを目指す。

(課程、専攻及び分野)

第 2 条 研究科の課程は修士課程とし、研究科の専攻及び分野は、別表第 1 に掲げるとおりとする。(博士課程学位プログラム)

第 3 条 研究科の繊維学専攻及び生命工医学専攻に、大学院学則第 27 条の 3 第 1 項第 1 号に定めるファイバーナレッジを先導するグローバルリーダーの養成プログラムを実施するために必要な履修コースを置く。

2 前項の履修コースに関し必要な事項は、別に定める。

第 3 条の 2 研究科の全ての専攻に、大学院学則第 27 条の 3 第 1 項第 2 号に定めるサステイナブルンサイエティグローバル人材養成プログラムを実施するために必要な履修コースを置く。

2 前項の履修コースに関し必要な事項は、別に定める。

第 4 条 研究科の農学専攻及び生命医工学専攻に、地域共生マネジメントプログラムを実施するために必要な履修コースを置く。

2 前項の履修コースの標準修業年限は、大学院学則第 15 条第 2 項の規定に基づき、1 年間とする。

3 第 1 項の履修コースに関し必要な事項は、別に定める。

(山岳科学教育プログラム)

第 4 条の 2 研究科の理学専攻、工学専攻、繊維学専攻及び農学専攻に、山岳科学教育プログラムを実施するために必要な履修コースを置く。

2 前項の履修コースに関し必要な事項は、別に定める。

(コース)

第 5 条 研究科に、以下の履修コースを置く。

繊維学専攻、生命医工学専攻 繊維・ファイバー工学コース

(研究科長、副研究科長、専攻長及び分野長)

第 6 条 研究科に研究科長を置き、理学系長、工学系長、農学系長又は繊維学系長をもって充てる。

- 2 研究科に研究科長を補佐するため副研究科長を置き、理学系長、工学系長、農学系長及び組織学系長のうち、研究科長以外の学系長及び生命工学専攻長をもって充てる。
  - 3 専攻及び分野に長を置くことができる。
  - 4 前3項に関し必要な事項は、別に定める。
- (研究科委員会)
- 2 研究科に研究科長、大学院学則第11条第1項の定めるところにより、研究科長、副研究科長及び研究科に属する教授で構成する信州大学大学院総合理工学研究科委員会(以下「研究科委員会」という。)を置く。
  - 2 研究科委員会に関し必要な事項は、別に定める。
- (教員組織)
- 第8条 研究科の教員組織は、研究科委員会の議を経て別に定める。
  - 第9条 研究科の授業科目及び単位数は、別表第2に掲げるとおりとする。
- (単位の計算方法)
- 第10条 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、その授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によるものとする。
    - (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
    - (2) 演習については、15時間から30時間までの範囲の時間の授業をもって1単位とする。
    - (3) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の時間の授業をもって1単位とする。
  - 2 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、前項各号に規定する基準により算出した時間の授業をもって1単位とする。
  - 3 前2項の規定にかかわらず、特別研究については、これに必要な学修等の成果を考慮して、単位数を定める。
- (履修方法等)
- 第11条 研究科の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)によって行う。
  - 2 学生は、授業科目を履修し、30単位以上を修得するものとし、履修方法は別に定める。
  - 3 学生は、大学院学則第8条第2項に定める研究指導を担当する教授、准教授、講師又は助教(以下「指導教員」という。)が特に必要と認めるときは、理学部、医学部、工学部、農学部又は組織学部との授業科目を履修することができる。ただし、その単位は、前項に規定する単位に算入しないものとする。
- (他の研究科の授業科目の履修等)
- 第12条 学生が大学院学則第34条第1項の定めるところにより、信州大学大学院の他の研究科において授業科目の履修を希望し、又は特定の課題について必要な研究指導を受けるときは、指導教員を経て研究科長に願い出て、許可を受けるとする。
  - 第13条 学生が大学院及び外国の大学院等の授業科目の履修を希望するときは、他の大学院の履修を希望するときは、指導教員を経て研究科長に願い出て、許可を受けるとする。
  - 2 前条及び前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、合わせて10単位を超えない範囲で、研究科において修得したものと取り扱う。
  - 3 前項の規定は、学生が大学院学則第35条第3項の規定に基づき、休学により外国の大学院(これに相当する教育研究機関を含む。以下「外国の大学院等」という。)において履修した授業科目について修得した単位について準用する。
- (他の大学院等における研究指導)
- 第14条 学生が大学院学則第36条第1項の規定に基づき、他の大学院又は研究所等において特定の課題について必要な研究指導を受けるときは、指導教員を経て研究科長に願い出て、許可を受けるとする。
  - 2 前項の研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。
- (入学前の既修得単位の取扱い)
- 第15条 大学院学則第37条の規定により修得したものとみなす単位については、研究科委員会の定めるところにより、これを行う。

- 2 前項の規定により修得したものとみなす単位は、編入学等の場合を除き、研究科において修得した単位以外のものについて、10単位までとする。
  - 3 第1項の規定により単位を受けようとする者は、所定の様式により、研究科長に願い出なければならぬ。
- (長期にわたる教育課程の履修)
- 第16条 大学院学則第38条に規定する学生が職業を有している等の事情による長期にわたる教育課程の履修については、研究科委員会において定める。
  - 第17条 学位論文(大学院学則第40条に規定する特定の課題についての研究の成果を含む。)の提出等に関し必要な事項は、別に定める。
  - 第18条 研究科を修了した者には、修士の学位を授与する。
    - 2 修士に付する専攻分野の名称は、信州大学学位規程第2条第2項に定めるとおりとする。
  - (入学者の選抜)
    - 第19条 入学志願者に対しては、学力試験を行い、これに出身大学長等の提出する成績証明書の成績等を総合し、選考の上、入学の許可を学長に申請する。
      - 2 前項の実施方法等については、別に定める。
    - (留学)
      - 第20条 学生が大学院学則第52条第1項の規定に基づき、外国の大学院等へ留学する場合の取扱いについては、第13条第1項及び第2項並びに第14条の規定を準用する。
      - 2 学生が大学院学則第52条第1項の規定に基づき、外国の大学院等へ留学する場合の留学期間は、1年を超えないものとする。ただし、本学と外国の大学院等との間におけるダブル・ディグリー等(ダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリーその他これらに準ずるものをいう。)に関する協定に基づき留学する場合は、この限りではない。
      - 3 前項に規定する留学期間は、在学期間に算入することができる。
    - (教育方法の特例)
      - 第21条 研究科において必要と認めるときは、授業及び研究指導を夜間その他特定の時間又は時期に行うことができる。
      - 2 前項に規定するもののほか、教育方法の特例に関する事項は、別に定める。
    - (科目等履修生)
      - 第22条 大学院学則第57条に定める科目等履修生の取扱いに関しては、別に定める。(研究生)
      - 第23条 大学院学則第64条に定める研究生の取扱いに関しては、別に定める。(聴講生)
      - 第24条 大学院学則第69条に定める聴講生の取扱いに関しては、別に定める。(特別聴講学生)
      - 第25条 大学院学則第75条に定める特別聴講学生の取扱いに関しては、別に定める。(特別研究生)
      - 第26条 大学院学則第76条に定める特別研究生の取扱いに関しては、別に定める。(教員の免許授与の所要資格の取得)
      - 第27条 中学校教諭又は高等学校教諭の一種免許状授与の所要資格を有する者で、当該免許状に係る大学院学則第47条第2項に定める免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法に定める所定の単位を修得しなければならない。
      - (雑則)
        - 第28条 この規程に定めるもののほか、研究科に関し必要な事項は、研究科委員会の議を経て別に定める。

附 則

    - 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。
    - 2 改正前の信州大学大学院理工学系研究科規程(平成24年信州大学規程第186号)は、平成28年3月31日に信州大学大学院理工学系研究科に在学する者に対して、この規程の施行後も、なおその効力を有する。



この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 平成30年3月31日に在学する者については、この規程による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、この規程による改正後の第4条及び第4条の2を加える規定、別表第2 研究科共通科目の表中、研究科共通科目欄に山岳科学教育科目群及び山岳科学に関する科目群を加える規定、理学専攻の表中、学外特別講義及び根圏生態学を加える規定並びに工学専攻の表中、航空機力学特論Ⅰ、航空機力学特論Ⅱ、航空機設計特論、航空機センサ特論、構造強度・振動学特論、航空機電気システム特論、交通インフラ安全工学、航空機力学・設計演習Ⅰ、航空機力学・設計演習Ⅱ、航空機力学・設計特別実験Ⅰ、航空機力学・設計特別実験Ⅱ、航空機電気機械応用演習Ⅰ、航空機電気機械応用演習Ⅱ、航空機電気機械応用特別実験Ⅰ及び航空機電気機械応用特別実験Ⅱを加える規定については、この限りでない。

附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成31年3月31日に在学する者については、この規程による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 施行日前までに、改正前の規定により、サステイナブルソサイエティイニティブプログラム等の科目を履修し、かつ、施行日以後に本研究科に入学した学生については、この規程による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成31年3月31日に在学する者については、この規程による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1(第2条関係)

専攻等	分野
理学専攻	数学分野 理科学分野
工学専攻	物質化学分野 電子情報システム工学分野 水環境・土木工学分野 機械システム工学分野 建築学分野
繊維学専攻	先進繊維・感性工学分野 機械・ロボット学分野 化学・材料分野 応用生物科学分野
農学専攻	先端生命科学分野 食品生命科学分野 生物資源科学分野 環境共生学分野
生命工学専攻	生命工学分野 生体医工学分野

別表第2(第9条関係)

研究科共通科目		単位
科目区分	授業科目	
研究科共通科目	MOT 特論 産学連携特別講義 国際連携特別講義Ⅰ 国際連携特別講義Ⅱ 科学英語 大学院と社会 臨床医学概論 研究者倫理特別講義 科学技術政策特論 総合日本語Ⅰ 総合日本語Ⅱ 研究者・技術者を旨とする大学院生のキャリア設計	2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2
	山岳科学教育科目	1
	山岳科学に関する科目	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

理学専攻

理学専攻		単位
科目区分	授業科目	
専攻共通科目	先端科学特別講義A 先端科学特別講義B	2 2
数学分野	群論と対称性 多元環論 代数的トポロジー 微分トポロジー 関数論 偏微分方程式論 数理現象学 確率解析学 代数学特論 幾何学特論 解析学特論 数理科学特論 先端代数学Ⅰ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2

理科学分野	物理学ユニット	先端幾何学 I	2
		先端解析学 I	2
		先端数理科学 I	2
		先端代数学 II	2
		先端幾何学 II	2
		先端解析学 II	2
		先端数理科学 II	2
		代数学演習 I	4
		幾何学演習 I	4
		解析学演習 I	4
		数理科学演習 I	4
		代数学演習 II	4
		幾何学演習 II	4
		解析学演習 II	4
		数理科学演習 II	4
		特別研究	4
		実務体験実習	4
		学外特別講義	2
		磁性物質論	2
		固体物性物理学	2
		磁気共鳴論	2
		統計物理学	2
		光エレクトロニクス	2
		光物性物理学演習 I	4
		光物性物理学演習 II	4
		物性物理学演習 I	4
		物性物理学演習 II	4
		磁性物理学演習 I	4
		磁性物理学演習 II	4
		宇宙線物理学	4
		高エネルギー実験	2
		物理と対称性	2
		場の理論 I	2
		場の理論 II	2
		宇宙放射線計測学	2
		観測天文学演習 I	4
		観測天文学演習 II	4
		宇宙線物理学演習 I	4
		宇宙線物理学演習 II	4
		高エネルギー物理学演習 I	4
		高エネルギー物理学演習 II	4
		素粒子物理学演習 I	4
		素粒子物理学演習 II	4
		実務体験実習	2
		学外特別講義	2
	化学ユニット	計測化学特論	2
		電気化学	2
		量子化学	2
		化学計測学	2

地球学ユニット	分光化学	2
	反応有機化学演習 I	4
	反応有機化学演習 II	4
	物性物理化学演習 I	4
	物性物理化学演習 II	4
	分子反応化学	2
	界面物性科学	2
	分子合成化学	2
	複素環化学	2
	超分子化学	2
	構造無機化学演習 I	4
	構造無機化学演習 II	4
	計測分離化学演習 I	4
	計測分離化学演習 II	4
	実務体験実習	2
	学外特別講義	2
地球学ユニット	古環境復元論	2
	古環境変動論	2
	地殻構造形成論	2
	シーケンス層序学	2
	変形構造解析論	1
	地層科学演習 I	4
	地層科学演習 II	4
	地層科学演習 II	4
	鉱物変移論	2
	地殻火成活動史	2
	岩石磁気学	2
	地球物質科学演習 I	4
	地球物質科学演習 II	4
	実務体験実習	2
	学外特別講義	2
生物学ユニット	発生学	2
	遺伝子情報学	2
	情報生理学	2
	生体生物学演習 I	4
	生体生物学演習 II	4
	進化生態遺伝学	2
	植物進化学	2
	進化生態学	2
	系統発生学	2
	植物病理学	2
	進化生物学演習 I	4
	進化生物学演習 II	4
	実務体験実習	2
	学外特別講義	2
物質循環学ユニット	環境計測学	2
	堆積学特論	2
	大気陸面相互作用論	2
	雪氷圏水文循環論	2
	地球システム解析演習 I	4
	地球システム解析演習 II	4

	地域環境学 I	2
	地域環境学 II	2
	水生生物生態学	2
	化学生態学	2
	集水域システム論	4
	生態システム解析演習 I	4
	生態システム解析演習 II	2
	実務体験実習	2
	根圏生態学	2
	学外特別講義	2
	特別研究	6
	分野共通	

工学専攻		授業科目	単位
専攻共通科目	科目区分	実験の工学手法	2
		応用数学特論	2
物質化学分野	先進材料工学ユニット	応用物理学特論 Think - Communicate - Like a Scientist	2
		経営者から学ぶ技術経営 A	1
		経営者から学ぶ技術経営 B	1
		無機材料工学特論	2
		無機材料工学演習	2
		無機材料工学特別実験 I	2
		無機材料工学特別実験 II	2
		無機材料化学特論	2
		無機材料化学演習	2
		無機材料化学特別実験 I	2
		無機材料化学特別実験 II	2
		材料表面工学	2
		電気化学演習	2
		電気化学特別実験 I	2
		電気化学特別実験 II	2
		機器分析化学特論	2
		機器分析化学演習	2
		機器分析化学特別実験 I	2
		機器分析化学特別実験 II	2
		先進材料化学特論	2
		先進材料化学演習	2
		先進材料化学特別実験 I	2
		先進材料化学特別実験 II	2
		光化学特論	2
		光化学演習	2
		光化学特別実験 I	2
		光化学特別実験 II	2
機能物質化学特論	2		
機能物質化学演習	2		
機能物質化学特別実験 I	2		
機能物質化学特別実験 II	2		
分子工学ユニット	分子工学ユニット	有機合成化学特論	2
		分子集合体化学特論	2
		有機合成化学演習	2
		分子集合体化学演習	2
		有機合成化学特別実験 I	2
		有機合成化学特別実験 II	2
		分子集合体化学特別実験 I	2
		分子集合体化学特別実験 II	2
		コロイド・界面科学特論	2
		コロイド・界面科学演習	2
		コロイド・界面科学特別実験 I	2
		コロイド・界面科学特別実験 II	2

コロイド・界面科学演習	2
コロイド・界面科学特別実験 I	2
コロイド・界面科学特別実験 II	2
触媒設計論	2
触媒設計演習	2
触媒設計特別実験 I	2
触媒設計特別実験 II	2
高速化学反応論	2
高速化学反応特別実験 I	2
高速化学反応特別実験 II	2
精密合成化学特論	2
精密合成化学演習	2
精密合成化学特別実験 I	2
精密合成化学特別実験 II	2
生物化学特論	2
分子生物学特論	2
応用生物学特論	2
生物化学工学特論	2
バイオ・プロセス工学演習 I	2
バイオ・プロセス工学演習 II	2
バイオ・プロセス工学特別実験 I	4
バイオ・プロセス工学特別実験 II	4
食品バイオテクノロジー	2
応用食品プロセス工学	2
食品科学	2
食品バイオテック実習	1
食品プロセス実習	1
機能性食品特別講義 I	1
機能性食品特別講義 II	1
応用解析特論	2
数理解析特論	2
応用数学演習 I	2
応用数学演習 II	2
応用数学演習 III	2
応用数学特別実験 I	4
応用数学特別実験 II	4
応用数学特別実験 III	4
数理情報学応用特論 I	2
数理情報学応用演習 I	2
数理情報学応用演習 II	2
数理情報学応用特別実験	4
物理工学特論 I	2
物理工学特論 II	2
応用物理演習 I	2
応用物理演習 II	2
応用物理特別実験 I	4
応用物理特別実験 II	4
航空機力学特論 I	2
航空機力学特別実験 I	2
航空機力学特別実験 II	2
航空機設計特論	2
航空機センサ特論	2
構造強度・振動学特論	2
航空機電気システム特論	2
交通インフラ安全工学特論	2
航空機装備品設計特論	2
航空機力学・設計演習 I	2
航空機力学・設計演習 II	2





分野共通	土木建造物の劣化診断特別実験	4	地震防災工学	機械システム工学分野	(研究指導)	精密加工制御特論 精密機構特論 機械システム制御特論 計測システム特論 精密知能機械演習 I 精密知能機械演習 II 精密知能機械特別実験 I 精密知能機械特別実験 II	2
		2	地盤防災演習				
分野共通	土木建造物の劣化診断特別実験	4	地盤防災特別実験	精密知能機械ユニット	(研究指導)	精密加工制御特論 精密機構特論 機械システム制御特論 計測システム特論 精密知能機械演習 I 精密知能機械演習 II 精密知能機械特別実験 I 精密知能機械特別実験 II	2
		4	水資源特論				
		2	水資源演習				
		4	水資源特別実験				
		4	水保全工学特論				
		2	水保全工学演習				
		4	水保全工学特別実験				
		4	数値解析特論				
		2	数値解析演習				
		4	数値解析特別実験				
		2	計算構造力学				
		4	計算構造力学演習				
		4	計算構造力学特別実験				
		2	地域環境計画特論				
		4	地域環境計画演習				
		2	地域環境計画特別実験				
		4	河川計画管理特論				
		4	河川計画管理演習				
		4	河川計画管理特別実験				
		2	応用解析特論				
		2	応用数学演習 I				
		2	応用数学演習 II				
		2	応用数学演習 III				
		4	応用数学特別実験 I				
		4	応用数学特別実験 II				
		4	応用数学特別実験 III				
		2	数値情報学応用特論				
		2	数値情報学応用演習 I				
		2	数値情報学応用演習 II				
		2	数値情報学応用特別実験				
		4	物理工学特論 I				
		2	物理工学特論 II				
		2	応用物理演習 I				
		2	応用物理演習 II				
		2	応用物理特別実験 I				
		4	応用物理特別実験 II				
		2	航空機力学特論 I				
		4	航空機力学特論 II				
		2	航空機設計特論				
		2	航空機センサ特論				
		2	構造強度・振動学特論				
		2	航空機電気力学システム特論				
		2	交通インフラ安全工学特論				
		2	航空機装備品認証特論				
2	航空機力学・設計演習 I						
2	航空機力学・設計演習 II						
4	航空機力学・設計特別実験 I						
4	航空機力学・設計特別実験 II						
2	航空機電気機械応用演習 I						
2	航空機電気機械応用演習 II						
4	航空機電気機械応用特別実験 I						
4	航空機電気機械応用特別実験 II						
2	学外特別講義						
2	学外特別実習						

都市空間デザイン学	4
建築環境設計学	2
建築環境設計学演習	4
建築環境設計学実験	4
建築心理学	2
建築心理学演習	4
建築心理学実験	4
建築心理学特論	2
建築史学演習	4
建築史学実験	4
応用解析学特論	2
数理解析学特論	2
応用数学演習 I	2
応用数学演習 II	2
応用数学演習 III	2
応用数学特別実験 I	4
応用数学特別実験 II	4
応用数学特別実験 III	4
数理情報学応用演習 I	2
数理情報学応用演習 II	2
数理情報学応用特別実験	4
物理工学特論 I	2
物理工学特論 II	2
応用物理演習 I	2
応用物理演習 II	2
応用物理特別実験 I	4
応用物理特別実験 II	4
航空機力学特論 I	2
航空機力学特論 II	2
航空機設計特論	2
航空機センサ特論	2
航空機強度・振動学特論	2
航空機電気力学システム特論	2
交通インフラ安全工学特論	2
航空機整備品認証特論	2
航空機力学・設計演習 I	2
航空機力学・設計特別実験 I	4
航空機力学・設計特別実験 II	4
航空機電気機械応用演習 I	2
航空機電気機械応用演習 II	2
航空機電気機械応用特別実験 I	4
航空機電気機械応用特別実験 II	4
学外特別講義	2
学外特別実習	2
(研究指導)	

数理情報学応用特別実験	2
数理情報学応用演習 I	2
数理情報学応用演習 II	2
数理情報学応用特別実験	4
物理工学特論 I	2
物理工学特論 II	2
応用物理演習 I	2
応用物理演習 II	2
応用物理特別実験 I	4
応用物理特別実験 II	4
航空機力学特論 I	2
航空機力学特論 II	2
航空機設計特論	2
航空機センサ特論	2
航空機強度・振動学特論	2
航空機電気力学システム特論	2
交通インフラ安全工学特論	2
航空機整備品認証特論	2
航空機力学・設計演習 I	2
航空機力学・設計特別実験 I	4
航空機力学・設計特別実験 II	4
航空機電気機械応用演習 I	2
航空機電気機械応用演習 II	2
航空機電気機械応用特別実験 I	4
航空機電気機械応用特別実験 II	4
学外特別講義	2
学外特別実習	2
(研究指導)	
建築意匠設計学	2
建築意匠設計学演習	4
建築意匠設計学実験	4
建築意匠設計学演習	4
建築意匠設計学実験	4
建築保存再生設計学	2
建築保存再生設計学演習	4
建築保存再生設計学実験	4
建築保存再生設計学演習	4
建築保存再生設計学実験	4
サステイナブル建築設計学	2
サステイナブル建築設計学演習	4
サステイナブル建築設計学実験	4
空間構造設計学	2
空間構造設計学演習	4
空間構造設計学特別実験	4
空間構造設計学演習	4
建築構造設計学 I	2
建築構造設計学演習	4
マトリクス構造解析実験	4
マトリクス構造解析実験	4
建築構造設計学 II	2
建築構造設計学演習	4
建築構造設計学実験	4
建築構造設計学演習	4
建築構造設計学実験	4
建築構造設計学 III	2
建築構造設計学演習	4
建築構造設計学実験	4
建築構造設計学演習	4
建築構造設計学実験	4
都市環境設計学	2
都市環境設計学演習	4
都市環境設計学実験	4

繊維学専攻

繊維学専攻		単位
専攻共通科目	授業科目	
	繊維技術士特論	2
	繊維基礎科学	2
	繊維系資格概論	2
先進繊維・感性工学分野	繊維材料科学特論	2
	ヤーンテック/ロジー特論	2
	テキスタイルデザイン特論	2

機械・ロボット学分野	先進繊維システム管理学特論	2
	インテリア工学特論	2
化学・材料分野	先進繊維計測学特論	2
	繊維信号解析学特論	2
分野共通	繊維製品快適性評価特論	2
	繊維文化財学特論	2
感性工学	先進繊維工学演習 I	1
	先進繊維工学演習 II	1
感性工学	先進繊維工学演習 III	1
	先進繊維工学演習 IV	1
感性工学	先進繊維工学特別実験 I	2
	先進繊維工学特別実験 II	2
感性工学	先進繊維工学特別実験 III	2
	先進繊維工学特別実験 IV	2
感性工学	製品生理学特論	2
	感性計測特論	2
感性工学	感性デザイン特論	2
	感性情報工学特論	2
感性工学	知能情報学特論	2
	感性文化論	2
感性工学	感性材料学特論	2
	感性繊維化学特論	2
感性工学	感性製品工学特論	2
	衣服工学特論	2
感性工学	身体運動科学特論	2
	環境人間工学特論	2
感性工学	衣環境学特論	2
	感性工学演習 I	1
感性工学	感性工学演習 II	1
	感性工学演習 III	1
感性工学	感性工学演習 IV	1
	感性工学特別実験 I	2
感性工学	感性工学特別実験 II	2
	感性工学特別実験 III	2
感性工学	感性工学特別実験 IV	2
	インタネーションシップ実習	1
感性工学	インタネーションシップ実習	2
	繊維感性工学特論	2
感性工学	マーケティング特論	2
	English Presentation	2
感性工学	ナノ融合材料学特論	2
	複合材料力学特論	2
感性工学	破壊力学特論	2
	振動解析学特論	2
感性工学	熱工学特論	2
	流体工学特論	2
感性工学	ロボット工学特論	2
	宇宙工学特論	2
感性工学	非線形制御特論	2

化学・材料分野	機械・ロボット学演習 I	1
	機械・ロボット学演習 II	1
化学・材料分野	機械・ロボット学演習 III	1
	機械・ロボット学演習 IV	1
化学・材料分野	機械・ロボット学特別実験 I	2
	機械・ロボット学特別実験 II	2
化学・材料分野	機械・ロボット学特別実験 III	2
	機械・ロボット学特別実験 IV	2
化学・材料分野	インタネーションシップ実習	1
	インタネーションシップ実習	2
化学・材料分野	移動現象論特論	2
	無機材料化学特論	2
化学・材料分野	光材料化学特論	2
	プロセス開発工学特論	2
化学・材料分野	環境資源化学特論	2
	半導体工学	2
化学・材料分野	材料反応設計特論	2
	界面科学特論	2
化学・材料分野	反応システム工学特論	2
	触媒反応工学特論	2
化学・材料分野	生命機能高分子学特論 I	2
	生命機能高分子学特論 II	2
化学・材料分野	生命機能高分子学特論 III	2
	ファイバー・機能材料学特論 I	2
化学・材料分野	ファイバー・機能材料学特論 II	2
	合成高分子学特論 I	2
化学・材料分野	合成高分子学特論 II	2
	合成高分子学特論 III	2
化学・材料分野	分子集合機能学特論 I	2
	分子集合機能学特論 II	2
化学・材料分野	分子化学特論 I	2
	分子化学特論 II	2
化学・材料分野	分子化学特論 III	2
	反応化学特論 I	2
化学・材料分野	反応化学特論 II	2
	反応化学特論 III	2
化学・材料分野	構造化学特論 I	2
	構造化学特論 II	2
化学・材料分野	構造化学特論 III	2
	機能化学特論 I	2
化学・材料分野	機能化学特論 II	2
	機能化学特論 III	2
化学・材料分野	機能化学特論 IV	2
	化学・材料演習 I	1
化学・材料分野	化学・材料演習 II	1
	化学・材料演習 III	1
化学・材料分野	化学・材料演習 IV	1
	化学・材料特別実験 I	2
化学・材料分野	化学・材料特別実験 II	2



応用生物科学分野	化学・材料特別実験Ⅲ	2
	化学・材料特別実験Ⅳ	2
応用生物科学分野	化学・材料特別講義	2
	応用生態学特論	2
	保全環境学特論	2
	農産製造学特論	2
	資源微生物学特論	2
	応用微生物学特論	2
	応用昆虫学特論	2
	発生生物学特論	2
	蛋白質工学特論	2
	家畜生産学特論	2
	蚕利用学特論Ⅰ	1
	蚕利用学特論Ⅱ	1
	種物工学特論	2
	細胞生物学特論	2
	シルク加工利用学特論	2
	分子育種学特論Ⅰ	1
	分子育種学特論Ⅱ	1
	生体材料学特論	2
	育種工学特論	2
	ゲノム機能工学特論	2
	発酵食品学特論	2
	遺伝子機能科学特論	2
	バイオマス繊維生産利用学特論	2
	生殖生物学特論	2
	応用生物科学特論	1
	繊維状蛋白質特論	2
	応用生物科学演習Ⅰ	1
応用生物科学演習Ⅱ	1	
応用生物科学演習Ⅲ	1	
応用生物科学演習Ⅳ	1	
応用生物科学特別研究Ⅰ	2	
応用生物科学特別研究Ⅱ	2	
応用生物科学特別研究Ⅲ	2	
応用生物科学特別研究Ⅳ	2	
インターネーションシップ実習	1	
インターネーションシップ実習	2	

農学専攻		単位
専攻共通科目	科目区分	
	授業科目	
	食と緑の科学特論	2
	国際農学特論Ⅰ	2
	国際農学特論Ⅱ	2
	国際農学特論Ⅲ	2
	国際農学特論Ⅳ	2
国際農学特別演習Ⅰ	2	
国際農学特別演習Ⅱ	2	

先端生命科学分野	国際農学特別実習Ⅰ	2
	国際農学特別実習Ⅱ	2
	Advanced Lecture in International Agricultural and Life Science I	1
	Advanced Lecture in International Agricultural and Life Science II	1
	Advanced Seminar for International Agricultural and Life Science I	1
	Advanced Seminar for International Agricultural and Life Science II	1
	Advanced Experimental Course on International Agricultural and Life Science I	1
	Advanced Experimental Course on International Agricultural and Life Science II	1
	海外農学特別実習	2
	基礎生命機能科学特論	2
	生命機能科学特論	2
	生命機能工学特別演習Ⅰ	2
	生命機能工学特別演習Ⅱ	2
	生命機能工学特別実験実習	2
	細胞システム科学特論	2
	動物細胞工学特論	2
	細胞システム科学特別演習Ⅰ	2
	細胞システム科学特別演習Ⅱ	2
	細胞システム科学特別実験実習	2
	菌類共生科学特論	2
農環境特論	2	
生物共生科学特別演習Ⅰ	2	
生物共生科学特別演習Ⅱ	2	
生物共生科学特別実験実習	2	
先端生命科学特論	2	
先端生命科学特別演習	2	
特別インターネーションシップ(短期)特別研究	10	
Advanced Study for Life Science	2	
応用微生物学特論	2	
分子生物・遺伝子工学特論	2	
食品生物機能科学特別演習Ⅰ	2	
食品生物機能科学特別演習Ⅱ	2	
食品生物機能科学特別実験実習	2	
食料分析化学特論	2	
食料機能解剖学特論	2	
食料機能解剖学特別演習Ⅰ	2	
食料機能解剖学特別演習Ⅱ	2	
食料機能解剖学特別実験実習	2	
食品分子機能学特論	2	
食品機能開発学特論	2	
食品分子機能学特別演習Ⅰ	2	

生物資源科学 分野	機能性食品創製学ユニット	食品分子機能学特別演習 II	2
		食品分子機能学特別実験実習	2
		機能性食品創製学特論 I	2
		機能性食品創製学特論 II	2
		食料資源利用学特論	2
		食品生命科学特別演習	2
		特別インタナショナルシップ (短期)	2
		特別研究	10
		Advanced Study for Food Science	2
		動物資源生産学特論 I	2
動物資源生産学ユニット	動物資源生産学特論 II	動物資源生産学特別演習 I	2
		動物資源生産学特別演習 II	2
		動物資源生産学特別実験実習	2
		動物資源生産学特論 I	2
		動物資源生産学特論 II	2
		動物資源生産学特別演習 I	2
		動物資源生産学特別演習 II	2
		動物資源生産学特別実験実習	2
		生産環境システム学特論 I	2
		生産環境システム学特論 II	2
生産環境システム学ユニット	生産環境システム学特別演習 I	生産環境システム学特別演習 II	2
		生産環境システム学特別演習 II	2
		生産環境システム学特別実験実習	2
		生物・食資源生産学特論	2
		生物資源科学特別演習	2
		特別インタナショナルシップ (短期)	2
		特別研究	10
		Advanced Study for Biological Resources	2
		高冷地先端農業特別演習	2
		森林資源利用学ユニット	森林資源利用学特論
森林資源利用学特別演習 II	2		
森林資源利用学特別実験実習	2		
地域環境計画学特論	2		
緑地環境評価学特論	2		
地域環境共生学特別演習 I	2		
地域環境共生学特別演習 II	2		
地域環境共生学特別実験実習	2		
山地保全学特論	2		
森林生態学特論	2		
山岳環境保全学ユニット	山岳環境保全学特別演習 I	山岳環境保全学特別演習 II	2
		山岳環境保全学特別実験実習	2
		環境共生学特論	2
		環境共生学特別演習	2
		特別インタナショナルシップ (短期)	2
		特別研究	10

Advanced Study for Environmental Science		2
生命医工学専攻		
生命医工学専攻		
専攻共通科目	基礎科目	単位
	医療倫理学・社会医工学 力学基礎 I 力学基礎 II 生物学基礎 I 生物学基礎 II	2 2 2 2
生命工学分野	心用科目	1
	病院インタナショナルシップ研修 行政・企業インタナショナルシップ研修	2~6
生命医工学分野	生命工学特論	2
	先進応用生命科学特論	2
	生命情報科学特論	2
	先進生命科学特論	2
	分子生物科学特論	2
	生命工学演習 I	1
	生命工学演習 II	1
	生命工学演習 III	1
	生命工学演習 IV	1
	生命工学特別実験 I	2
	生命工学特別実験 II	2
	生命工学特別実験 III	2
	生命工学特別実験 IV	2
	生体医工学特論	2
	生体ロボット学特論	2
	生体流体力学特論	2
生体マイクログレブデバイス特論	2	
生体情報システム学特論	2	
動物行動学特論	2	
生体材料科学特論	2	
バイオメカニクス特論	2	
生体応答学特論	2	
生体計測学特論	2	
組織工学特論	2	
生体医工学演習 I	1	
生体医工学演習 II	1	
生体医工学演習 III	1	
生体医工学演習 IV	1	
生体医工学特別実験 I	2	
生体医工学特別実験 II	2	
生体医工学特別実験 III	2	
生体医工学特別実験 IV	2	
繊維・ファイバー工学コース		
繊維・ファイバー工学コース		
基幹科目	科目区分	単位
	繊維系合同研修 繊維系資格概論	2 2

	アカデミックイニターテンション (国内) I	1
	アカデミックイニターテンション (国内) II	1
	アカデミックイニターテンション (海外)	2
	繊維・ファイバー工学特論 I	1
	繊維・ファイバー工学特論 II	1
	繊維・ファイバー工学特論 III	1
	繊維・ファイバー工学特論 IV	1
	繊維基礎科学	2

地域共生マネージメントプログラム		
地域共生マネージメントプログラム		
授業科目	単位	
地域連携・経営学特論 I	2	
地域連携・経営学特論 II	2	
動植物環境共生学特論	2	
食品バイオサイエンス特論	2	
中山間地域管理学	2	
生命産業科学特論	2	
地域課題探究演習 I	2	
地域課題探究演習 II	2	
特別研究	10	

ファイバーネットサンスを先導するグローバルリーダーの養成プログラム		
ファイバーネットサンスを先導するグローバルリーダーの養成プログラム		
科目区分	授業科目	単位
必修科目	英語技法特論 I	2
	英語技法特論 II	2
	MOT (Management of Technology)	2
	ファイバー基礎実習	1
	Textile Fundamentals I	1
	研究室ローテーション I	1
	ものづくり・ことづくり演習 I (チームワーキング)	1
	International Topics on Fiber Engineering I	1
	英語技法特論 III	2
	英語技法特論 IV	2
	ファイバーイノベーション概論	2
	Textile Fundamentals II	1
	研究室ローテーション II	1
	ものづくり・ことづくり演習 II (チームワーキング)	1
	International Topics on Fiber Engineering II	1
	テキスタイル基礎実習	1
繊維・ファイバー工学特別実験	1	
共通分野	サブライチエーション	2
	プロダクトデザイン	2
	マーケティング	2
	知的財産	2
	工業経済学	2
	科学哲学	2
日本文化論	2	
比較文化論	2	

技術者倫理			
フロントエンド分野	技術者倫理	単位	
	ナノファイバー工学特論	2	
	ヤーンテクノロジー	2	
	高性能繊維設計特論	2	
	高性能繊維設計特論	2	
	ナノマテリアル工学特論	2	
	機能高分子工学特論	2	
バイオ・メデイカル分野	シルク利用工学	2	
	バイオファイバー科学	2	
	医用材料特論	2	
	繊維生物資源学	2	
	生体分子機能科学	2	
	バイオマス利用工学	2	
	バイオミメティクス科学	2	
	スマートテキスタイル分野	複合材料設計学特論	2
		e-Textile 設計特論	2
		プロテクティブテキスタイル特論	2
テキスタイルデザイン特論		2	
先進繊維計測学特論		2	
繊維集合体特論		2	
感性・ファッション工学分野	ファッションデザイン論	2	
	衣服設計論	2	
	感性情報工学特論	2	
	感性製品計測・評価法特論	2	
	製品生理学特論	2	
	繊維製品生産論	2	

## 28. 信州大学学生生活に関する通則

(平成16年4月1日信州大学通則第1号)

- (趣旨)  
第1条 この通則は、信州大学(以下「本学」という。)の学生が学生生活を守るべき必要な事項について定めるものとする。
- (誓約書及び保証人)  
第2条 本学の学生となる者は、入学のとき保証人1名を定め、連署の誓約書とその所属する学部の長又は研究科の長(以下「学部長等」という。)を経て学長に提出しなければならぬ。
- 第3条 保証人に異動があったときは、速やかに学部長等に届け出なければならない。
- (住所)  
第4条 学生は、毎学年始め、その住所を学部長等に届け出て、異動のときは、その都度速やかに届け出るものとする。
- (学生証)  
第5条 学生は、入学のとき学長から学生証の交付を受け、常に携帯するとともに、必要に応じこれを提示するものとする。
- 第6条 学生証を汚損又は紛失したときは、直ちに届け出て再交付を受けなければならない。
- 第7条 学生が本学の学籍を離れたときは、直ちに学生証を学長に返納しなければならない。
- (厚生)  
第8条 学生は、毎学年所定の健康診断を受けなければならない。
- 2 学部長等は、必要に応じ学生に治療を命じ、又は登学を停止することができる。
- 第9条 学生は、別に定めるところにより、本学の福利厚生施設を利用することができる。
- (団体)  
第10条 学生が、学生を構成員とする団体(以下「学生団体」という。)を設立しようとするときは、教職員(常時勤務するものに限る。)のうちから顧問を定め、会則、代表者及び役員の名前並びに会員数を記載した文書を添え、あらかじめ代表者から学部長等を経て学長に届け出なければならない。ただし、会員が2学部以上にあつたときは、学生担当の副学長(以下「担当副学長」という。)を経て届け出るものとする。
- 2 届け出た記載事項に変更が生じたときは、速やかに前項に準じた手続をするものとする。
- 第11条 学生団体が学外団体に加入し、又は脱退するときは、学部長等を経て学長に届け出なければならない。ただし、会員が2学部以上にあつたときは、担当副学長を経て学長に届け出るものとする。
- (集会)  
第12条 学生又は学生団体が本学の施設を使用して集会をしようとするときは、目的、日時、場所、予定人員等を記載した文書を提出し、当該施設を所管する部局の長の許可を受けなければならない。
- (催物)  
第13条 学生又は学生団体が学内外において、学生及び一般を対象として各種の催物をしようとするときは、あらかじめ学部長等を経て学長に届け出なければならない。ただし、学生又は学生団体の会員が2学部以上にあつたときは、担当副学長を経て学長に届け出るものとする。
- (掲示)  
第14条 学生又は学生団体による学内での文書、ポスター、立看板(以下「掲示物」という。)の掲示については、国立大学法人信州大学における掲示に関する規程(平成16年国立大学法人信州大学規程第61号)に定めるもののほか、次の各号に定めるところによる。
- (1) 掲示物は、所定の一般掲示場(学生用掲示場)に掲示するものとする。
- (2) 掲示物には、掲示した日付並びに学生にあつては掲示責任者名、学生団体にあつては団体名及び団体の代表者を記載するものとする。
- (3) 掲示の期間は、3週間以内とし、この期間を経過したものは、前号に規定する当該掲示責任者又は団体の代表者において、これを撤去するものとする。ただし、特別の事由がある場合は、掲示の期間を延長することができるものとする。
- (禁止等の措置)  
第15条 第10条から前条までに規定する行為が本学の目的にそわないと認められたときは、禁止又は変更等を命ずることがある。
- 附 則  
この通則は、平成16年4月1日から施行する。
- 附 則 (平成19年9月28日平成19年度通則第1号)  
この通則は、平成19年10月1日から施行する。
- 附 則 (平成24年3月15日平成23年度通則第1号)  
この通則は、平成24年4月1日から施行する。
- 附 則 (平成25年4月1日平成25年度通則第1号)  
この通則は、平成25年4月1日から施行する。

## 29. 信州大学における学生の懲戒に関する規程／

### 信州大学における学生の懲戒に係るガイドライン

(平成 23 年 3 月 31 日信州大学規程第 181 号)

(目的)

- 第 1 条 この規程は、信州大学学則(平成 16 年信州大学学則第 1 号。以下「学則」という。)第 65 条第 3 項及び信州大学大学院学則(平成 16 年信州大学学則第 2 号。以下「大学院学則」という。)第 56 条第 3 項の規定に基づき、信州大学(以下「本学」という。))における学生の懲戒に関し必要な事項を定める。

(停学の種類)

- 第 2 条 学則第 65 条第 2 項及び大学院学則第 56 条第 2 項に規定する退学、停学及び訓告のうち、停学の種類は、その期間を概ね 3 箇月未満とする有期停学とその期間を定めない無期停学とする。

(懲戒の観点及び懲戒の種類別の判断方法)

- 第 3 条 懲戒は、教育研究機関である本学の秩序を維持し、社会に対する責任を果たす観点からこれを行う。

- 2 懲戒の種類は、懲戒の対象となる行為(以下「懲戒対象行為」という。)の態様、動機及びその意図、結果、他の学生に与える影響、違法性等を総合的に考慮し、別に定めるガイドラインを標準として判断する。

(懲戒の申請)

- 第 4 条 学部長又は研究科長(以下「学部長等」という。)は、当該学部又は研究科(以下「学部等」という。)に所属する学生が、懲戒対象行為を行った場合、又は、行った疑いのある場合は、直ちに学長に報告するものとする。

- 2 前項の報告に引き続き、学部長等は、次条に定める調査委員会を設置し、事実関係を確認したうえで、懲戒を行うことが必要と判断した場合は、教授会又は研究科委員会(以下「教授会等」という。)の議を経て、学生懲戒申請書(別紙様式第 1)により当該懲戒対象行為に係る懲戒を学長に申請する。

- 3 同一の懲戒対象行為に関して複数の学部等の学生が関与している場合は、当該懲戒対象行為に係る懲戒の申請について、当該学部等が協議を行い、その結果に基づき当該学部等ごとに申請を行う。

(調査委員会)

- 第 5 条 学部長等は、懲戒対象行為に係る事実関係を確認し、懲戒の必要性及び懲戒の種類について検討するため、調査委員会を置く。この場合において、調査委員会は、学部等の学生委員会等をもって代えることができる。

- 2 調査委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 懲戒対象行為を行った学生又は懲戒対象行為を行った疑いのある学生(以下「懲戒対象学生」という。))が所属する学部等の学生委員会等の長
- (2) 懲戒対象学生が所属する学部等の学生委員会等を構成する者

- (3) 懲戒対象学生が所属する学科又は専攻等の教員

- (4) その他学部長等が必要と認めた者

- 3 調査委員会は、懲戒対象学生及び調査の対象となる懲戒対象行為に関する懲戒対象となる教員、学生等から事情等を聴取する。

- 4 調査委員会は、慎重かつ速やかに事実関係の確認及び審議を非公開により行い、その結果を学部長等に報告する。ただし、ハラスメント等の人権を侵害する行為に関しては、国立大学法人信州大学におけるハラスメントの防止等に関する規程(平成 16 年国立大学法人信州大学規程第 27 号)第 16 条に定めるハラスメント相談調査対策委員会が当該行為に係る調査を実施した場合、当該調査結果を尊重しなればならない。

- 5 前各項に規定するもののほか、調査委員会に関し必要な事項は、学部長等が別に定める。

(弁明)

- 第 6 条 調査委員会は、懲戒対象学生に弁明の機会を与える。

- 2 弁明の機会を与えられた懲戒対象学生が、調査委員会が指定した期間内に弁明に応じない場合は、当該学生が弁明する権利を自ら放棄したものとみなす。

(懲戒の決定及び告知)

- 第 7 条 学長は、学則第 65 条に基づき、国立大学法人信州大学教育研究評議会(以下「教育研究評議会」という。)の議を経て、懲戒対象学生等に対する懲戒を行うことを決定したときは、懲戒告知書(別紙様式第 2～別紙様式第 4)を作成し、当該学生に告知する。ただし、当該学生が懲戒告知書の受け取りを拒否した等の事由により告知できない場合又は当該学生の所在が不明な場合は、次の各号による。

- (1) 懲戒告知書を受け取りべき学生が当該文書の受け取りを拒否した等の事由により告知できない場合は、内容証明郵便により送付し、送達された日をもって告知したものとみなす。

- (2) 学生の所在が不明な場合は、当該学生の保証人に手渡すか、又は内容証明郵便により送付し、当該手渡した日又は送達された日をもって告知したものとみなす。

(懲戒の効力)

- 第 8 条 懲戒の効力は、前条の告知をすることにより生ずるものとする。

(懲戒手続の特例)

- 第 9 条 学長は、第 4 条による報告を受け、同条第 2 項に基づき、学部長等により懲戒の申請がなされることが明らかであり、かつ当該懲戒対象行為が社会に多大な影響を与え、緊急性を要すると判断した場合、事実確認を慎重に行うたうえ、第 5 条から前条までの手続によることなく、教育研究評議会の議を経て、懲戒を決定することができる。

- 2 学長は、懲戒対象学生が逮捕・勾留され接見することができない場合であっても、事実確認を慎重に行うたうえ、教育研究評議会の議を経て、懲戒を決定することができる。

(謹慎その他の教育的措置)

- 第 10 条 学部長等は、懲戒対象学生の行為が懲戒対象行為に該当し、かつ懲戒が見込まれる場合に限る、当該学生の権利を不当に侵害しない範囲内で、懲戒の決定前に当該学生に対し謹慎その他の教育

的措置を命ずることができる。

2 謹慎の期間は、原則として2箇月を超えないものとし、停学期間に算入することができる。

(厳重注意)

第 11 条 学部長等は、所属する学生が行った懲戒対象行為に係る事実関係の確認結果に基づき、学生の行為が懲戒には至らないと判断した場合、厳重注意としその行為を戒めることができる。

2 厳重注意は、学部長等が口頭又は文書により行うものとし、あわせて厳重注意報告書(別紙様式第5)を学長に提出するとともに、教育研究評議会に報告するものとする。

(懲戒に関する記録の保存)

第 12 条 学長は、懲戒を決定したとき、懲戒の原因たる事実、決定された懲戒の内容及び認定した事実等を記載した学生懲戒記録簿(別紙様式第6)を作成し、保存する。

(懲戒に関する情報の公示)

第 13 条 学長は、学生に対し、第 8 条に定める懲戒の告知をしたとき、当該学生の所属及び懲戒の内容を公用掲示板及び電子掲示板に掲示し、公表する。この場合において、当該掲示の期間は、懲戒を告知した日から10日間とし、当該学生の氏名、学籍番号等は公表しない。

(不服申し立て)

第 14 条 懲戒を告知された学生は、懲戒に不服がある場合は、学長に対し、懲戒を告知された日の翌日から起算して60日以内に懲戒に係る不服申し立て書(別紙様式第7)により、不服申し立てを行うことができる。この場合において、当該申し立ての参考となる資料があるときは、当該資料を添付するものとする。

2 学長は、前項による不服申し立て書を受理した場合、速やかに教育研究評議会を開催し、審査の要否を決定しなければならない。

3 学長は、調査を要しない旨を決定した場合、速やかにその旨を文書で当該学生に通知する。

4 学長は、教育研究評議会において当該審査を要する旨の決定が行われた場合、直ちに不服申し立てを行った学生が属する学部等の学部長等に調査を行わせうえで、教育研究評議会にて当該審査を行う。

5 第 1 項による不服申し立てを行った場合の当該懲戒の効力は、前項による当該審査が終了するまで継続するものとする。

(停学・謹慎期間中の制限及び特例)

第 15 条 停学及び謹慎の期間中は、原則として教育課程の履修、課外活動(サークル活動その他類似するものを含む。)、及び大学施設の利用を禁止する。ただし、学部長等が教育指導上必要があると認めるときは、この限りでない。

(無期停学の解除決定及び告知)

第 16 条 学部長等は、無期停学となっている学生(以下「無期停学学生」という。))について、停学期間が3箇月を超え、その反省の程度、学習意欲等を総合的に判断して、解除することが適当であるとされた場合は、教授会等の議を経て、無期停学の解除を学長に学生懲戒解除申請書(別紙様式第8)により

申請する。

2 学長は、前項の申請があった場合、教育研究評議会において無期停学の解除の適否を審査し、無期停学を解除することを適当とする場合にあつては、無期停学を解除する日を決定する。

3 学長は、前項により無期停学の解除を決定した学生に対し、無期停学解除通知書(別紙様式第9)を作成し、学生に告知する。

(停学期間の算入)

第 17 条 停学期間は、修業年限に含めないが、在学期間に含めることとする。ただし、学長は、学部長等の申請を受け、教育上の特別の必要又は配慮を認める場合は、懲戒対象行為の態様及び程度等を勘案し、停学期間の全部又は一部を修業年限に算入することができることとする。

(試験等の不正行為による単位認定の可否)

第 18 条 本学が実施する試験等の不正行為を行った学生が履修した授業科目に係る単位については、別表に掲げる例により取り扱うものとする。

(書類への記載)

第 19 条 学長は、成績証明書、その他本人の成績及び修学状況に関する書類で、大学関係者以外の者が閲覧する可能性のある書類の作成にあつては、懲戒となった学生の将来を考慮し、懲戒を受けた旨の記載をしてはならない。

(懲戒告知前の退学申出不受理及び停学期間中の退学許可)

第 20 条 学長は、懲戒対象学生から懲戒の告知前に退学の申出があった場合、この申出を受理しないものとする。

2 学部長等は、停学となっている学生から停学期間中に退学の申出があった場合、教授会等の議を経て学長に申請する。この場合において、学長は、教育研究評議会の議を経て、退学を許可することができる。

附 則

1 この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

2 信州大学における学生の懲戒に関する申合せ(平成 16 年信州大学申合せ第 2 号)は、廃止する。

附 則(平成 23 年 11 月 17 日平成 23 年度規程第 20 号)

この規程は、平成 23 年 12 月 1 日から施行する。

別表(第 18 条関係)

本学が実施する試験等における不正行為の事例		単位認定の可否	
		当該科目	不正行為を行った学期の科目
単位認定に係る試験時の行為	替え玉受験をすること及び替え玉受験を依頼すること。	認定しない	認定しない

	許可されていないノート又は参考書等を使用すること。		
	<p>答案を交換すること。</p> <p>他の受験者の答案を見ることが又は他の受験者に答案を見せること。</p> <p>試験監督者の注意又は指示に従わない場合で特に悪質と認められるもの。</p> <p>その他不正な行為と認められること。</p>		
単位認定に係るレポート(卒業論文等含む)の行為	他人の著作物を盗用すること。	認定しない	認定しないことができる
	<p>実験や調査結果のデータを捏造又は偽造すること。</p> <p>他人が書いたレポート並びに著作物を自分のものとして提出すること。</p>		
他の学生に成り代わり授業に出席又は代返等の行為を行った者並びに同行者を依頼した者。		認定しないことができる	特に悪質な場合認定しないことができる
授業の実施に係るその他不正な行為と認められること。			

## 30. 位置及び沿革

### 位置

北緯 35度51分43秒  
東経 137度56分19秒  
標高 772.69メートル（構内三本木三角点位置）

### 所在地

信州大学農学部 長野県上伊那郡南箕輪村8304  
附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター  
構内ステーション 長野県上伊那郡南箕輪村8304  
野辺山ステーション 長野県南佐久郡南牧村野辺山2ツ山4620-1  
西駒ステーション 長野県伊那市大字伊那字小黒日向7119-110  
手良沢山ステーション 長野県伊那市大字手良野口字沢山22020-12

### 沿革

昭和20年 2月 5日 長野県立農林専門学校（農科・林科）設立許可  
4月 1日 開校  
4月15日 第1回入学式挙行  
昭和24年 5月31日 信州大学設置に伴い同校を吸収，同学農学部（農学科・林学科）として発足  
昭和25年 4月 1日 附属農場及び附属演習林設置  
昭和27年 7月11日 長野県立農林専門学校廃止  
昭和33年 4月 1日 農学専攻科（農学専攻・林学専攻）設置  
昭和35年 4月 1日 畜産学科増設  
昭和39年 4月 1日 農学専攻科（畜産学専攻）増設  
昭和40年 4月 1日 森林工学科増設  
昭和42年 4月 1日 農学科を改組拡充し園芸農学科に名称変更  
4月 1日 農芸化学科増設  
昭和44年 4月 1日 農学専攻科（森林工学専攻）増設  
4月 1日 野辺山農場が本部より所属換  
昭和47年 4月 1日 大学院農学研究科修士課程（園芸農学専攻・林学専攻・畜産学専攻・森林工学専攻・農芸化学専攻）設置  
昭和48年 3月31日 農学専攻科廃止  
4月12日 畜産学科に草地学講座増設  
昭和51年 5月10日 林学科に森林風致計画学講座増設  
昭和52年 4月18日 園芸農学科に応用昆虫学講座増設  
昭和53年 4月 1日 農芸化学科に環境保全化学講座増設  
昭和54年 4月 1日 林学科森林化学講座を木材利用学講座に名称変更  
4月 1日 畜産学科に家畜生体機構学講座増設  
4月 1日 附属高冷地農業実験実習施設設置  
昭和56年 4月 1日 森林工学科に地域計画学講座増設  
昭和62年 4月 1日 臨時増募の開始  
昭和63年 4月 1日 園芸農学科，林学科，畜産学科，森林工学科，農芸化学科を生物生産科学科，森林科学科，生物資源科学科に改組  
平成 3年 4月 1日 岐阜大学大学院連合農学研究科博士課程設置によりその構成大学となる  
平成 4年 4月 1日 大学院農学研究科修士課程，園芸農学専攻・林学専攻・畜産学専攻・森林工学専攻・農芸化学専攻を生物生産科学専攻・森林科学専攻・生物資源科学専攻に改組  
平成 7年 4月 1日 森林科学科に森林環境文化学講座増設

平成 9年 4月 1日

- 学部改組
  - 生物生産科学科（生物資源生態学講座，園芸生産利用学講座，動物生産利用学講座）を食料生産科学科（生物環境管理学講座，植物資源生産学講座，動物資源生産学講座，食資源利用学講座）に改組
  - 森林科学科（森林資源計画学講座，森林生産保全学講座，空間利用整備学講座，森林環境文化学講座）を（山地環境保全学講座，森林生産利用学講座，農山村環境学講座，緑地環境文化学講座）に改組
  - 生物資源科学科（生物制御化学講座，生物機能化学講座，生物資源開発学講座）を応用生命科学科（生物制御化学講座，生物機能化学講座，生物資源開発学講座，生物資源化学講座）に改組

臨時増募の廃止

附属農場・演習林事務部の廃止

第3年次編入学制度化

大学院農学研究科修士課程，生物生産科学専攻・生物資源科学専攻を食料生産科学専攻・応用生命科学専攻に改組

大学院農学研究科修士課程，機能性食料開発学専攻（独立専攻）設置

附属農場，附属演習林及び附属高冷地農業実験実習施設を附属アルプス圏フィールド科学教育研究センターに改組

大学院総合工学系研究科博士課程（生命機能・フアイバー工学専攻，システム開発工学専攻，物質創成科学専攻，山岳地域環境科学専攻，生物・食料科学専攻）設置

食料保健機能開発研究センター設置

食と緑の科学資料館「ゆりの木」設置

農学部プロジェクト研究推進拠点設置

野生動物対策センター設置

講座制を廃止し，分野制に改組

岐阜大学大学院連合農学研究科との協力体制終了

近未来農林総合科学教育研究センター設置

附属AFC野辺山ステーションが教育関係共同利用拠点到認定

国際農学教育研究センター設置

附属AFC演習林が教育関係共同利用拠点到認定

学部改組

食料生産科学科，森林科学科，応用生命科学科を農学生命科学科（生命機能科学コース，動物資源生命科学コース，植物資源科学コース，森林・環境共生学コース）に改組

伊那キャンパスに名称変更

食と緑の資料館を増設

食料保健機能開発研究センターを機器分析支援センターに改組

情報室を情報システム支援センターに改組

大学院改組

農学研究科と理工学系研究科を総合理工学研究科に統合再編し，農系では，農学専攻に4分野（先端生命科学分野，食品生命科学分野，生物資源科学分野，環境共生学分野），及び生命医工学専攻に1分野（生命工学分野）を設置  
講義棟を改修

大学院博士課程の医学系研究科と総合工学系研究科を統合再編し総合医理工学研究科を設置





### 31. ハラスメント(嫌がらせ)にあったら 【ハラスメント相談員】に相談してください

～信州大学イコール・パートナーシップ委員会から学生の皆さんへ～

#### ハラスメントって何?

◎ハラスメントとは、信州大学では、「ハラスメントの防止等に関する規程」で、ハラスメントを次の4つに分類しています。(規程全文は、信州大学IP1「学案内」→国立大学法人信州大学規程編「第1編 全学 第5章 人事」に掲載。)

#### I:セクシュアル・ハラスメント...

- ・ 修学・就業上の地位や権限を背景とした異性への誘い、掛け、嫌がらせや、性的意味を持つ言動で相手を不快にさせることのほか、卑猥なボスターなどで修学環境を損ねるようなこと含まれます。

- ・ セクシュアル・ハラスメントかどうかは、基本事例には受け手が不快に感じるかどうかです。**当事者間の認識や意識のズレが原因となるのが少なくないだけに、相手を思いやる配慮が根絶の第一歩です。**

#### II:アカデミック・ハラスメント...

- ・ 教員等が教育・研究において、地位・職務権限を利用して学生等に著しい不利益を与えたり、不適切な言動で環境を害する行為を言います。

- ・ 典型例的な事例は、人格まで否定するような言葉の暴力、正当な理由なくまくたく指導してもらえない、研究・論文執筆等の妨害、非常識なノルマや雑用・私用の命令、極度のえこひいき、などです。

#### III:パワー・ハラスメント

- ・ パワー・ハラスメントとは、職員(上司一部下)間の、就業上のハラスメントです。

#### IV:その他のハラスメント...

- ・ その他のハラスメントとは、セクハラ、アカハラ、モウハラに類する行為や学外者によるハラスメントです。

#### ハラスメントを受けて辛いと感じたら、ハラスメント相談員に相談してください。

◎ハラスメント相談員は、本学の教職員で構成され、全学教育機構、各学部等の男女それぞれ複数名からなります。ハラスメント相談員は、あなたの立場になって相談に乗ります。

( ・ 秘密は厳守されます。相談したからといって、不利益な取扱いをされることもありません。

( ・ ハラスメントを受けていることを聴いてもいいですし、聞いても連絡して構いません。

( ・ 相談は友人と一緒に構いません。

( ・ 他学部の相談員に相談しても構いません。

( ・ 相談内容によっては総合健康安全センターのカウンセリングを受けることができます。

◎ハラスメント相談員は、ハラスメント行為を受けているあなたのサポーターのような立場の人です。あなたが望んだ場合、行為者への「申入れ」や「ハラスメント相談調査対策委員会」の設置(裏面※①、②)をあなたが望んだ場合、イコール・パートナーシップ委員会(下記参照)への申請手続について助言してくれます。イコール・パートナーシップ委員会は、関係の部長と協力して「申入れ」や「ハラスメント相談調査対策委員会」の設置を実施します。

#### ハラスメント相談員への連絡先は?

氏名一覧と連絡先は、ACSU(握手)内お知らせをご覧ください。各学務窓口あるいは「学生相談センター(0263-37-3165)」にお問い合わせください。

#### 「イコール・パートナーシップ(IP)委員会」とは?

本学の教職員各4名(男女同数)で構成され、ハラスメントのない信州大学にするために学長の下に設置された委員会です。しかし、真偽を調査する委員会ではありません。学生一人一人の人權を擁護するとともに、修学にふさわしい環境が確保されることを目的とする委員会です。差別・人權などについても疑問や問題があれば、委員会(enpinka@shinshu-u.ac.jp)が委員いずれかに気軽に相談してください。

#### ※① 行為者への「申入れ」とは?

イコール・パートナーシップ委員会が、行為者に対してハラスメントの原因となった事態の解消を依頼することをいいます。事実調査はせず、相手に相談者が傷ついたことを理解して、今後同じことをしないようにしてもらえばよい、と考えるべきに適しています。その際、行為者に対して匿名を希望すれば、そのような配慮をします。

#### ※② 「ハラスメント相談調査対策委員会」の設置とは?

行為者に「申入れ」をした後も事態が解消しない、または事実調査をした上で、それに対して判断し、ハラスメント解消のための適切な措置を求めたいときは、あなたの要望によって、学長の下に「ハラスメント相談調査対策委員会」が設置されます。行為者とあなたの双方からの意見を聞いた上で問題の所在を把握し、それに応じてその後の措置が決まっています。

#### 学外にも相談窓口があります。

① 主に女性のための相談窓口

施設等名	各相談	電話番号	曜日・時間等
長野県男女共同参画センターあいちひだ	一般相談、法律相談(要予約) 女性のためのカウンセリング(要予約)	0266-22-8822	【一般】火～土 8:30～17:00 【法律】予約方法、実施日等直接相談願います。 第2本・第1土 10:00～15:50(一人50分) 詳細については電話で直接相談願います。
ハレア松本・女性センター	一般相談、女性弁護士による法律相談(要予約)	0263-39-1105	【一般】(電話) 火・第1・第3水・金 9:00～12:00 (面談) 月・火・木・金 13:00～16:00、 第4金 16:00～19:00(要予約) 【法律】予約方法、実施日等直接相談願います。
長野県警・女性被害犯罪ダイヤルサポート110	相談電話	026-234-8110	月～金 9:00～17:00
上田市市民プラザ・ゆう	専任相談員による一般相談、女性弁護士による法律相談(要予約)	0268-27-3123	【一般】火 11:00～18:00、木 10:00～17:00、 第2・第1土 10:00～17:00 (土曜)の相談は直接相談は要予約 【法律】予約方法、実施日等直接相談願います。
伊那市人権男女共同参画係	女性のための相談	0265-78-4111	(電話) 平日 8:30～17:00 (面談) 火・木 8:30～17:00(要予約)
女性の人権ホットライン	女性をめぐめる人権相談	0570-070-810	平日 8:30～17:15 ※IP電話からの場合 026-232-8145(長野地方法務局)

② 主に男性のための相談窓口

施設等名	各相談	電話番号	曜日・時間等
長野県男女共同参画センターあいちひだ	男性のための相談(電話相談)	0266-22-7111	金 17:00～19:00
ハレア松本・女性センター	男性の悩み相談	0263-37-1587	第2・第3 第1火 17:00～20:00

③ 男女を問わない相談窓口

施設等名	電話番号	曜日・時間
心の電話相談長野県精神保健福祉センター	026-224-3626	平日 9:30～16:00
長野地方法務局人権擁護課	026-235-6634	
法務局上田支局人権相談所	0268-23-2001	
法務局松本支局人権相談所	0263-32-2571	平日 8:30～17:15
法務局伊那支局人権相談所	0265-78-3462	

さらに詳しくは、県や市町村のホームページなどをご覧ください。

#### 信州大学キヤンパス・コード(基本指針)とは...

信州大学では、基本指針として6本の柱から成るキヤンパス・コードを定めています。

※ 全文は、前記「ハラスメントのない大学にするために」→「信州大学キヤンパス・コード」をご覧ください。

- 個人を人間として等しく尊重します。 ○ 学問・言論の自由を尊重します。
- 性差別の根絶をめざし、男女共同参画を推進します。 ○ 人権侵害等を防止します。
- 権利・権限を適正に行使します。 ○ プライバシー等を保護します。

※ 前頁右端にIP委員会ロゴで、「ip」の文字を男女のハートにデザインし、2つ合わせた四葉のクローバーです。



# Handbook for Graduate Students

Graduate Admission for 2019



**Graduate School of Science and Technology**

**[Ina Campus]**

# Contents

1 . Course Registration . . . . .	85
( 1 ) Method and Procedures for Course Registration	
( 2 ) Credits and Class Hours	
( 3 ) Grade Evaluation	
( 4 ) Submission of Master’s Thesis	
2 . Student Life . . . . .	89
( 1 ) Information Bulletins and Emails for Students	
( 2 ) Health/Mental Health	
( 3 ) Leave of Absence and Withdrawal from University	
( 4 ) Notification of Overseas Travel	
( 5 ) Carrying and Reissue of Student Identification	
( 6 ) Disaster and Accident Insurance for Student Education and Research	
( 7 ) Liability Insurance and Fire Insurance for University and Agreement University Students	
3 . In case of Emergency . . . . .	93
4 . Completion requirements by the departments and subjects list . . . . .	94
5 . Completion requirements and course method of department of Biomedical Engineering for enrollment of FY2019 . . . . .	96
6 . Student awards and disciplinary action . . . . .	97
7 . Campus Map . . . . .	102

# 1 . Registration

## (1) Method and Procedures for Course Registration

- 1) Each individual must make the course plan in reference to the course requirements including class content and class schedule and in consultation with the supervisor.
- 2) The year of the course may be determined depending on the class. Please take care and ensure that you register for the course in the specified year.
- 3) The course registration procedures are conducted using personal computers and through access to the “Shinshu University Campus Information System” on the Web. The period for course registration procedures is early April for the first semester and courses held throughout the year, and early October for course held in the later semester. Further details of the registration period will be displayed on the bulletin board. Also, as the review period is set after the course registration, students are requested to make sure that they check the same. If registration procedures are not completed within the stipulated period students cannot attend the classes. Students are requested to take note, as, in principle, no changes in registration will be conducted after this period.
- 4) Students are requested to take note of the specific details including dates of the intensive courses, practical, and experiments that will be posted separately on the bulletin board from time to time.

## (2) Credits and Class Hours

- 1) Calculation of credits is done based on the following criteria.

Lectures and Seminars	15-30 hours	1 Credit
Experiments, Practical, and Training	30-45 hours	1 Credit

- 2) Class Hours

Period 1	9:00-10:30
Period 2	10:40-12:10
Period 3	13:00-14:30
Period 4	14:40-16:10
Period 5	16:20-17:50
Period 6	18:00-19:30
Period 7	19:40-21:10

- 3) Intensive Lectures

As a general rule, the intensive lectures are held during the summer vacation and the spring vacation. Details including dates for these types of lectures may not be specified before the beginning of the semester and students will be informed through the bulletins as and when these are specified. Please conduct the course registration procedures for the intensive courses during the normal course registration period.

### (3) Grade Evaluation

It is the student's responsibility to attend all the classes. Therefore, students who have not attended more than 2/3 of the class hours for any reason, will not be eligible for evaluation.

Regarding the grade evaluation of the course subjects, the supervisor evaluates whether the student has acquired sufficient knowledge by the time of completion of the prescribed course and this is expressed in the form of the following remarks: S:Excellent (90-100 points), A:Very good (80-89 points), B:Good (70-79 points), C:Satisfactory(60-69 points), D · F:Fail (59 points or less). Those receiving Fair grade or above qualify for a passing grade and those receiving the Fail grade are judged as not qualifying for a passing grade.

Further, in principle, results (notification) for the first semester are announced in late August and those for the latter semester and for the year-round course are announced in late February. Information about the dates of announcement will be posted as necessary.

Further, in case of doubts regarding the results, please inform the Education Affairs Group within one week from the date of announcement of results.

### (4) Submission of Master's Thesis

Students are required to submit the "Evaluation Application Form for Master's Degree Thesis", the "Master's Thesis", and the "Synopsis of Thesis Content", to the Education Affairs Group by the specified date. Students are requested to prepare well in time, ensure the confirmation of their supervisor, and submit the thesis through their supervisor.

#### Requirements for Creating the Master's Thesis

1 Specifications A4 Size (Three self-certified copies).

2 Binding Japanese translation

① Use a commercially available file (pale blue) with binding on the left side.

State the items on the right on the cover sheet and the spine.

② The page after the cover sheet should include the same items as on the cover sheet.

③ Next file the Table of Contents.

④ This is to be followed by the body of the thesis. (Fill page numbers).

⑤ Abstract of the thesis content must be attached separately.

⑥ If the title of a thesis or dissertation is a foreign language, please include its Japanese translation in parentheses.

The diagram shows a 3D perspective of a thesis cover sheet and spine. The spine is labeled 'Title' and 'Name'. The front cover sheet contains the following text:

Master's Thesis  
Title(Japanese translation)  
Year ○○○○  
SHINSHU UNIVERSITY  
Graduate school of  
Science and Technology  
Division of ○○○○  
Name ○○○○

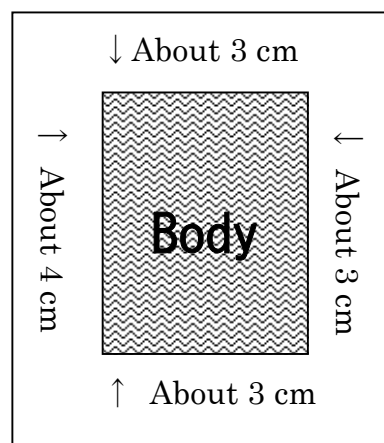
### 3 Method for Creating Thesis

#### ① In Case of a English

- Please use a personal computer, and use thick, A4 size paper.
- Please have around 30 lines per page.
- The “Abstract of Thesis Content” should be written in the Japanese language.

#### ② Other

Take the margin as shown in the figure on the right. (Especially, in the case of figures and tables, please make sure that the page is not packed with the same.)



### 4 Other

- For the thesis copies to be submitted, photocopies are accepted for duplicates (2), but please use the same colored photographs and colored pictures as used in the original.
- Double-sided printing is accepted.

## 2. Student Life

The following information is for Administrative organization in the faculty of Agriculture, Shinshu University.

Monday to Friday 8:30am ~5:15pm

#### Administrative Organization

Student Affairs Group  (1F of the Administration building)	Educational Affairs	(1)Educational program (2)Registration (3)Student status (Entrance, Leave of Absence and Withdrawal, Graduation) (4)Grading and Evaluation (5)Teacher’s Certificate (6)Master’s Thesis (7)Doctoral Program
	Student Support	(1)Certificate (2)Certificate of Student Discount (3)Tuition Exemption, Scholarships (4)Student’s Health (5)Extracurricular Activities (6)Job Hunting (7)Student Dormitory (8)International Student (9)Study Abroad (10)Disaster and Accident Insurance for Student Education and Research
	Entrance Examination	Admission, Entrance Examination
General Affairs Group  (1F of the Administration building)	General Affairs	(1)Events,(2)Ceremony of Entrance and Graduation (3)Part Time Job, TA, RA.
	Financial Affairs	(1)Payment of Tuition, Entrance Fee, Admission Fee, Dormitory Fee, etc. (2) Purchase of Goods
	Environment and Facilities Affairs	Maintenance and Management of Facilities
	Affiliated facilities	(1)Student Experiences (2)Education and Research Center of Alpine Field Science(AFC)
Library		About Library
Education and Research Support Office (1F of the building B)		Education and Research Support for Each Division

## (1) Information Bulletins and Emails for Students

1) Information for students is conducted through bulletins and the campus information system. Students are requested to check the notice board daily when they come to/leave the university campus.

Students will be notified through electronic bulletin boards and emails. Students are requested to register their most frequently used email address and ensure that they check it daily. Further, in case of utmost urgency the student may be contacted by telephone.

In case of any change in the contact information, please ensure that relevant changes to the registration details are made through the campus registration system to avoid any gap in communication of information.

2) International students are requested to check the bulletin board for international students only.

3) Please use the specified bulletin boards for student postings.

## (2) Nurse's office, Mental Health

An Infirmary and Counseling Room with full-time public health nurses and counselors (clinical psychologists) has been established to ensure physical and mental health. Please feel free to use the facilities.

### 1) Infirmary

- ① Periodic health examinations (conducted in April every year)
- ② Health counseling and mental health counseling (reservations required to see a doctor)
- ③ Emergency services

Emergency treatment and referral to specialist doctors when required, transportation for emergency medical care needs as required.

### 2) Counseling Room

Students may encounter various problems and worries during their university life. The counseling room is a place where issues are addressed together with everyone, problems are tackled through discussions, and students are assisted in becoming aware of their own thoughts and feelings. Please feel free to consult regarding yourself, family and friends, the opposite gender, studies, the future, including your constitution. Also, all personal information in consultations is kept strictly confidential.

< Application for Consultation >

As a general rule, reservations are required for consultations. Please contact the Nurse office or the Educational Affairs Group for reservations. However, this does not apply for emergencies.

< Consultation Days >

Monday, Tuesday, Wednesday, and Friday 9:00-16:00 (Closed on Thursday)

< Location >

Counseling Room in front of the Education and Research Support Office Building B 1st Floor



### **(3) Leave of Absence and Withdrawal from University**

#### Leave of Absence from University

In case students want leave of absence, it is necessary to submit the request for leave of absence to the Education Affairs Group until two months prior to the day leave of absence starts and to obtain permission from the President.

In the Faculty of Agriculture leave of absence is granted in case of reasons such as illness.

When taking leave of absence, students are requested to always proceed with the procedures after consulting with supervisors from their own university and this university.

However, if students do not take leave of absence from the agreement university and only from this university, then if the course at the agreement university is completed first, the course fees from then onwards will apply.

#### Withdrawal from University

In case the student wants to withdraw from the university, it is necessary to submit the request for withdrawal to the Education Affairs Group until two months prior to the day leave of absence starts and to obtain permission from the President.

When withdrawing from the university students are requested to always proceed with the procedures after consulting with supervisors from their own university and this university.

Further, in case students do not want to continue the DDP Program and want to enroll only in the curriculum of their own university, withdrawal procedures of this university are necessary.

### **(4) Notification of Overseas Travel**

In case of overseas travel, please submit notification of overseas travel to the Education Affairs Group before going abroad. This is required for contact in case of emergencies. The Education Affairs Group handles distribution but please note that the seal of the class in charge and the supervisor are mandatory so students are requested to spare time and come and pick it up.

### **(5) Carrying and Reissue of Student Identification**

Students are required to always carry the Student Identification, Safety Support Card, and Eco Campus Card. The Student Identity Card is used for class attendance verification, certificate issuing machines, and library entrance/exit. Further, in case of an emergency, please refer to “3.In case of Emergency(P.93) Situations” in this booklet or the Safety Support Card.

For reissue of the Student Identity Card (expenses to be borne by the student) and the Safety Support Card please apply to the Education Affairs Group and for reissue of the Eco Campus Card, please apply to the Environment Commission Secretariat (In Charge, General Affairs Division).

## **(6) Enrolment Guide for “Disaster and Accident Insurance for Student Education and Research”**

This is a student insurance with Shinshu University as the center.

As a general rule, membership is required for all students enrolled in the Faculty of Agriculture but in case the student is already a member of a Co-op Insurance or other equivalent insurance, there is no problem if the student does not necessarily join. (In case membership of any insurance is not confirmed, students will not be permitted to attend the Experimental and Practical Course.)

- Regarding the disaster and accident insurance for student education and research (hereafter, Gakkensai)

The course specified by this university is a (Type A, 20 million yen course) that comes with a disaster risk collateral clause during the period of student enrolment.

It is an insurance that provides compensation for unforeseen accidents and disasters during education and research activities (curricular and school events and club activities) and the period of student enrolment.

### [Membership Procedures]

Applications are accepted at all times, but even when enrolling during the year, the insurance premium will be for the whole year.

### [Insurance Period]

This is from 12:00 noon of April 1 (or from the day after the day of application) till 12:00 p.m. on March 31 of the specific graduation year, (in principle, enrolment for the whole period till graduation).

The period of leave of absence is not covered by insurance and depending on the procedures the insurance premium may be refunded for this period. Please check with the Education Affairs Groups until one month prior to the start of the period of leave of absence.

※Due to leave of absence the enrolment period gets extended so please enroll for insurance again for this duration.

### [Regarding Notification of Accidents and Insurance Claims]

In case of an accident, please contact the Education Affairs Groups promptly.

After the elapse of a certain period of time, one may not be able to receive the insurance money.

## **(7) Enrolment Guide for “Liability Insurance and Fire Insurance for University and Agreement University Students”**

It is mandatory for international students to be members of the Liability Insurance and Fire Insurance for University and Agreement University Students for the entire period of enrolment at the Ina Campus. At the end of the academic year, the International Students’ Support Association, Faculty of Agriculture, Shinshu University assists with 60% of the insurance cost required at the time of subscribing for the insurance membership.

### [Membership Procedures]

Application are accepted at all times at the University Co-op. after membership, please submit the membership certificate at the Education Affairs office.

### 3 . In case of Emergency

#### Contact in the event of Disaster

Evacuation Area: **Gymnasium**

#### 【Contact Address for Disaster】

When the fire occur, dial 119 (Fire station emergency number) and contact to the following numbers.

##### Within office hour <8:30am – 5:15pm>

TEL 0265-77-1303

Ext. 2203

##### After office hour

Emergency call for disaster, Shinshu University (Matsumoto Campus) 0263-37-3333

Japan Security Union, Ina office 0265-78-6161

When you dial 119 (Fire station emergency number),

Request a fire-fighting: Say “KAJI DESU”. (There is a fire.)

Call an ambulance: Say “KYUU KYUU DESU.”(There is an emergency.)

Also, tell them that you are a student of the faculty of agriculture, Shinshu University.

#### Hospital and Public organization

##### ( 1 ) Hospital

Ina Central Hospital (TEL 0265-72-3121)

Showa Inan Hospital (TEL 0265-82-2121)

##### ( 2 ) Public organization

Ina Police Station (TEL 0265-72-0110)

Ina Fire Station (TEL 0265-72-0119)

Notes1. Do not use the elevators, when you evacuate.

Notes2. Be sure to close the fire shutter, after confirm whether there is no people inside.

In case of traffic accident, please report to the Student Affairs group.

TEL 0265-77-1311

## 4. Completion requirements by the departments and subjects list

### (1) Completion requirements and course method of department of agriculture for enrollment of FY2019

- Study in the master's program for 2 years or more and acquire more than 30 credits or more as below. (\* Completion requirements for of the regional symbiosis management program will be determined separately.)
  - Acquire 30 credits or more in total consisting of 2 credits of common subject in the Faculty "Special Course on Research Integrity", 2 credits of common subject in the department "Advanced Lecture in integrated Bioscience", 10 credits from affiliated unit, 14 units of "Graduate Research" "Advanced seminar" and "Advanced Study subjects" from affiliated common division, others 2 credits (Course subjects offered at Graduate School of Science and Engineering).
  - After receiving the necessary research guidance, passing the examination and final examination of the master's thesis or research result on a specific subject.
- ※ Regarding the period of enrollment, for those who are recognized by the Graduate School as having an excellent achievement, it is sufficient for them to attend the master's program for one year or more.

#### [Completion requirement of Regional symbiosis management program]

- Study at the master's program for 1 year or more in principle, acquire 30 credits in total consisting of 2 credits of "Advanced Lecture in Regional Environmental Planning " from Environmental Symbiosis Science Division and 2 credits of "Advanced Lecture in Food Production and Environmental System I " from Bioresource Science Division, and 26 credits of the program.
- After receiving the necessary research guidance, passing the examination and final examination of the master's thesis or research result on a specific subject.

#### [Completing requirement for the Sustainable Society Global Human Resources Development Program]

- In addition to the courses (30 credits) of the mentioned above, each course will acquire 12 credits or more as follows and a total of 42 credits or more will be acquired.  
(※ Students who belong to Department of Agriculture should acquire more than 44 credits or more in total.)
- Acquires more than 8 credits or more in total consisting of the lecture includes 2 credits of Science English for common subjects in the faculty as a required subject and 6 units of common subjects for each course.
- As required subjects, acquire 2 credits of Special Seminar 【SUNS】 of the common subjects in the faculty (long term) and 2 credits of Advanced Internship (long term).

#### [Completing requirement for Master Program of Mountain Studies ]

- In addition to satisfying the completion requirements of the department, 4 credits of "Introduction to mountain science A", "Introduction to mountain science B", "Mountain field practice A" and "Mountain field practice B" from subjects of Mountain science education and 4 credits or more from subjects related to Mountain science (including 2 or more groups from the Biosphere, the Earth sphere, the Humanosphere), in total acquire 8 credits or more.  
However, subjects of mountain science education cannot be included in the completion requirements of the department
- Submit a master's thesis on mountain science and pass the final examination.

**[Acquisition requirements of a junior high school specialized teacher's certification (Science)]**

- Junior high school teacher type 1 certificate acquirer (science).
- Acquire credits or more for subjects that's been marked circled in the junior high school (Science) subject column.

**[Acquisition requirements of a high school specialized teacher's certification (Science)]**

- High school teacher type 1 certificate acquirer (science).
- Acquire 24 credits or more for subjects that's been marked circled in the high school (Science) subject column.

**[Acquisition requirements of a high school specialized teacher's certification (Agriculture)]**

- High school teacher type 1 certificate acquirer (Agriculture).
- Acquire 24 credits or more for subjects that's been marked circled in the high school (Agriculture) subject column.

# 5. Completion requirements and course method of department of Biomedical Engineering for enrollment of FY2019

## (1) Completion Requirements

Study in the master's program for 2 years or more and acquire more than 30 credits or more. In addition to it, after receiving the necessary research guidance, passing the examination and final examination of the master's thesis or research result on a specific subject.

Regarding the period of enrollment, for those who are recognized by the Graduate School as having an excellent achievement, it is sufficient for them to attend the master's program for one year or more.

## (2) Course Method

In the Department of Biomedical Engineering, it is as follows. Please make your course plan in consultation with your supervisor.

### 【Biotechnology Division】

Acquire 30 credits or more in total consisting of 18 credits or more of lectures (include 4 credits required subject of common subjects in the faculty and common subjects in the department, and 2 credits required subject of the Biotechnology division), 4 credits of a seminars (required subjects in the Biotechnology division), 8 credits of Advanced experiments (required subjects of the Biotechnology division).

### 【Biomedical Engineering Division】

Acquire 30 credits or more in total consisting of 18 credits or more of lectures (include 4 credits required subject of common subjects in the faculty and common subjects in the department, 2 credits required subject of the Biomedical Engineering specialized subjects), 4 credits of a seminars (required subjects of the Biomedical Engineering specialized subjects), 8 credits of Advanced experiments (required subjects of the Biotechnology division)

< Credits required for completion >

Division	Lectures	Seminars	Advanced Experiments	Total
Biotechnology Division	18 or more	4	8	30 or more
Biomedical Engineering Division	18 or more	4	8	30 or more

- In taking courses, it is desirable to acquire 8 credits or more from elective subjects in a division you belong.
- "Basic Mechanics I · II" and "Basic Biology I · II" are the subjects for which it is desirable that all students take courses at the first year. "Basic Mechanics I · II" is for students who have studied health, biology and agricultural divisions to acquire the basis of science and engineering science. "Basic Biology I · II" is for students who have studied science and engineering divisions to acquire the basis of medical science and biology.
- "Comprehensive Japanese I" and "Comprehensive Japanese II" of common subjects in the faculty can not be included in the credit required for completion

## 6. Student awards and disciplinary action

### (1) Awards

When there is an act worthy of commendation in the regular lesson / extra-curricular activities in the university life, we praise it and commend "Presidential Award" "Achievement Award" "Dean's Award" "Alumni Association Presidential Award" "Support Association Chairman's Award" according to the achievement.

#### Presidential Award

- I The results of extracurricular activities at Shinshu University are particularly noticeable and those that are found to have been successful in promoting extracurricular activities at our university.

※ Applicable activities

Those who participated in prestigious sports competitions such as the Olympic Games, World Championships, Japanese Championships, etc., with excellent results in sports activities  
Those artwork and cultural activities such as literature, painting, sculpture, music, theater, etc., works, performances etc. gained high evaluation at the international or domestic highest level of examination etc..

- II Those who receive excellent evaluation in social activities and are recognized as remarkably enhancing the honor of our university.

※ Applicable activities

Those who received excellent social evaluation in social activities such as volunteer activities, lifesaving, crime prevention, fire prevention, etc. and whose activities were commended domestic and foreign agencies at public.

- III Others that are recognized to have acts equivalent to or more than the above two items of commendation.

#### Achievement Award

- I Those who are acknowledged that the outcomes of our extracurricular activities at the University are outstanding and that we have made a contribution to the promotion of our extracurricular activities

※ Applicable activities

Those who took part in a competition similar to the Olympics, World Championships, Japanese Championships, etc., with excellent results in sports activities. Those artworks and cultural activities such as literature, paintings, sculpture, music, theater, etc., works, performances etc. gained high evaluation at the domestic level examination etc..

- II Those who received excellent evaluation in social activities and recognized as enhancing the honor of our university.

※ Applicable activities

Those who received excellent social evaluation in social activities such as volunteer activities, lifesaving, crime prevention, fire prevention, etc. and whose activities were commended domestic and foreign agencies at public.

- III Others that are recognized to have acts equivalent to or more than the above two items of commendation.

#### Dean's Award

[Applicable student : Students of Faculty of Agriculture, Graduate School of Science and Technology(Ina Campus), Doctoral program interdisciplinary Graduate school of Science and Technology(Ina Campus) ]

- I Those who are found to have particularly outstanding academic achievement at the Faculty of Agriculture or that the research result is particularly conspicuous
- II Those who have achieved excellent results in sports activities
- III Those who received a high evaluation in the arts and cultural activities
- IV Those who received high evaluation in social activities
- V Others that are recognized to have acts equivalent to or more than the above four items of commendation.

#### Alumni Association Presidential Award

[Applicable student : Students of the Faculty of Agriculture]

Those who are recognized to have excellent academic achievement at Shinshu University Faculty of Agriculture.

- I In consideration of student life as well, "Yurinoki award" should be taken as one person from each course among prospective graduate students who are recognized to be awarded for commendation.
- II In consideration of student life as well, "Karamatsu award" should be excelled in their academic achievement up to the third grade and taken as one person from each course among prospective graduate students who are recognized to be awarded for commendation.

#### Student Support Association Chairman's Award

[Applicable student : Students of Faculty of Agriculture, Graduate School of Science and Technology(Ina Campus) ]

- For each course of faculty of agriculture, one whose academic research is recognizes to have a high evaluation.
- Those that are acknowledged that master's thesis has gained a high evaluation for each division of Graduate School of Science and Engineering (Ina Campus).

## **( 2 ) Disciplinary action**

Acts like violating the rules of our university or contrary to student's duty as shown in 【Table 1】 are subject to disciplinary action (withdrawal, suspension, admonition).

The targeted actions may be caused by familiar acts such as concerning alcohol drinking, car driving and computers and networking.

Even if you conduct fraudulent acts (such as cheat, copy and paste) in the examination conducted by the university, you will be disciplined and not be able to graduate within the term of your study. In addition, the certification of the credits acquired as shown in 【Table 2】 will be canceled.



【Table1】

Acts subject to disciplinary action		Applicable discipline type
Category	Matters	
A Actions that disorder in the university	① Acts that violate “Regulations concerning the prevention of harassment etc. at Shinshu University (Shinshu University regulations No.27 of 2004)”	Withdrawal, suspension (indefinite term or definite term) or admonition
	② Act of fraud in the examination etc. conducted by the university (Details will be cases listed in the appended table.)	Withdrawal, suspension (indefinite term or definite term) or admonition
	③ Acts that forced drinking and caused death caused by downing alcoholic beverages in one etc.	Withdrawal or suspension (indefinite term)
	④ Acts that forced drinking and caused damage such as acute alcohol poisoning due to downing alcoholic beverages in one etc.	Withdrawal, suspension (indefinite term or definite term) or admonition
	⑤ Acts that offer drinking while knowing that as minors	Suspension (indefinite term or definite term) or admonition
	⑥ Drinking behavior of minors	Suspension (indefinite term or definite term) or admonition
	⑦ Acts that severely impede education research or management of our university	Withdrawal, suspension (indefinite term or definite term) or admonition
	⑧ Violent acts such as acts of intimidation, custody, detention acts etc. against the members of the university	Withdrawal, suspension (indefinite term or definite term) or admonition
	⑨ Trespassing or unauthorized use or occupation on buildings managed by the university unauthorized	Suspension (indefinite term or definite term) or admonition
	⑩ Damage acts, vandalism, illegal remodeling activities, etc. of buildings or objects managed by the university	Suspension (indefinite term or definite term) or admonition
	⑪ Acts that violate “Regulations on the prevention of misbehavior on research activities at Shinshu University (Shinshu University regulations No.154 of 2007)” (Acts related to data fabrication and falsification, plagiarism of thesis, infringement of copyright, etc.)	Withdrawal, suspension (indefinite term or definite term) or admonition
	⑫ Acts conducted by antisocial organizations, and the activities which have been recognized as affecting other students etc. and disturbing the order of our university	Withdrawal, suspension (indefinite term or definite term) or admonition
	⑬ The act of trying to use, possess, possess, transfer, mediate or acquire a drug having an effect similar to an illegal drug (narcotic, cannabis, etc.) without justifiable reasons	Withdrawal, suspension (indefinite term or definite term) or
B Criminal act	① Felonious criminal acts or attempted crime act such as murder, robbery, rape, arson	Withdrawal
	② Drug criminal acts (Drug usage, illegal possession, trading, brokerage etc. of narcotic, cannabis etc.)	Withdrawal or suspension (indefinite term or definite term)
	③ Criminal acts such as injury, theft, fraud, extortion, gambling, trespassing, or violence that does not lead to injury to others	Withdrawal or suspension (indefinite term or definite term)
	④ Groping (Including peeping, obscene, acts of voyeurism and other nuisances)	Withdrawal or suspension (indefinite term or definite term)
	⑤ Criminal act prescribed by “Act on the Control etc. of Stalking etc. (Act No. 81 of 2000)”	Withdrawal or suspension (indefinite term or definite term)

	⑥Criminal act prescribed by “Act on Punishment of Activities Relating to Child Prostitution and Child Pornography, and the Protection of Children (Act No.52 of 1999)”	Withdrawal or suspension (indefinite term or definite term)
	⑦Criminal acts using computers or networks	Withdrawal or suspension (indefinite term or definite term)
C Traffic Accidents / Violations	① In the case of a traffic accident involving death or serious aftereffects and the causative action is malicious such as unlicensed driving, drunk driving, reckless driving etc.	Withdrawal
	②In the case of a traffic accident causing injury or death and the causative action is malicious such as unlicensed driving, drunk driving, reckless driving etc.	Withdrawal or suspension (indefinite term or definite term)
	③Malicious violation of Road Traffic Act such as unlicensed driving, drunk driving, reckless driving etc.	Suspension (indefinite term or definite term)
	④In the case of a traffic accident involving death or serious aftereffects and the causative action is a driver’s negligence	Withdrawal or suspension (indefinite term or definite term)
	⑤In the case of a traffic accident involving serious aftereffects etc. and the causative action is a driver’s negligence	Suspension (indefinite term or definite term) or admonishment

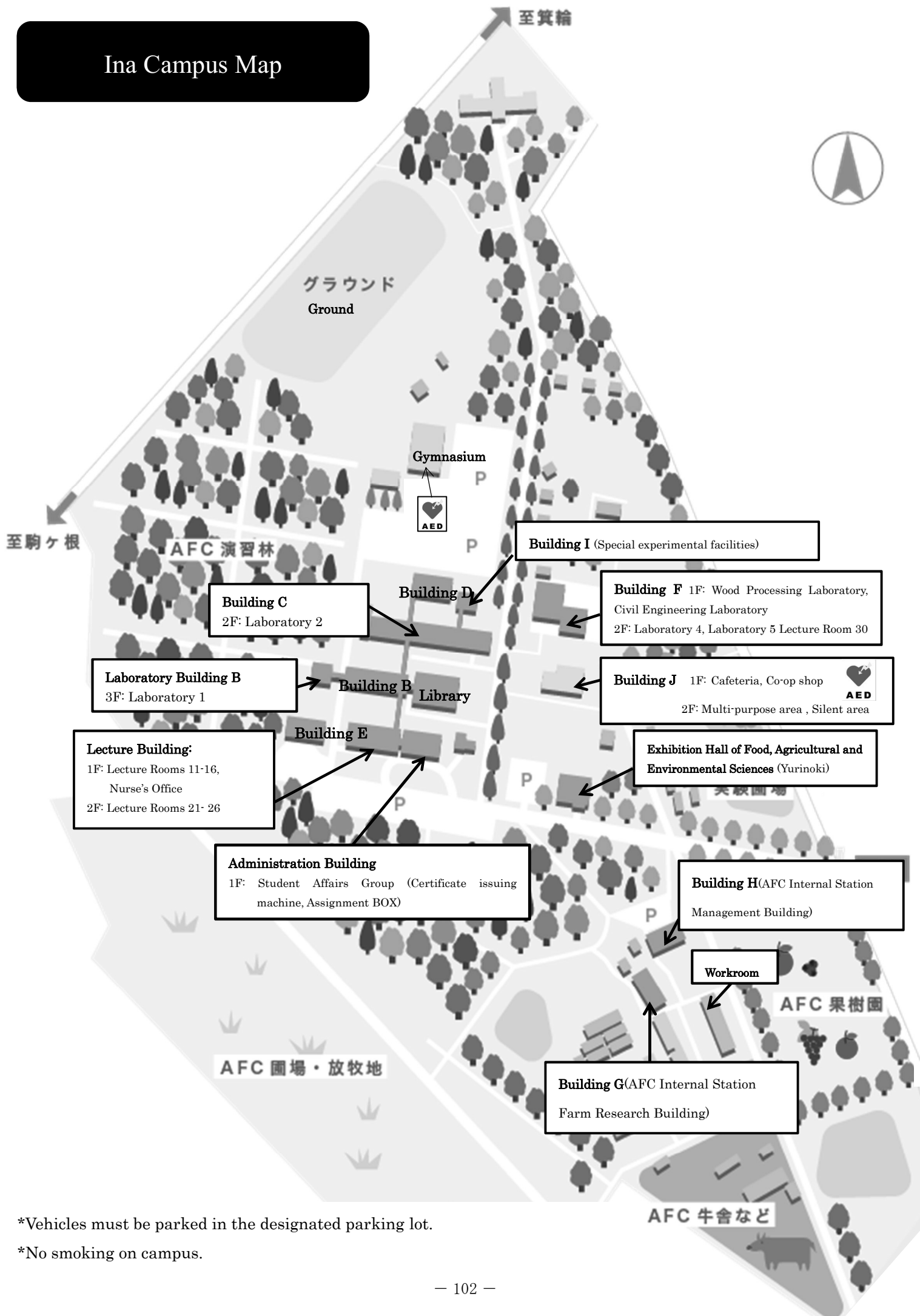
If you conduct fraudulent acts (such as cheating, copy and paste) in the examination conducted by the university, disciplinary action will be taken and the accreditation of the credits acquired as shown in 【Table 2】 will be canceled.

【Table2】

Cases of fraud in exams etc. conducted by the University		Accreditation of credit	
		Relevant subject	Subjects in the semester that made fraud
Act at the time of examination for accreditation of credits	To take an entrance examination as a substitute and to ask for a substitute exam	Not certified	Not certified
	To use an unauthorized notebook or reference book etc.		
	Exchange examination paper		
	Seeing the answers of other examinees or showing answers to other examinees		
	Especially recognized as malicious in cases not following the cautions or instructions of the invigilator		
	In addition, being recognized as a fraud		
Acts of reports (including graduation theses etc.) for accreditation of credits	To steal other's work	Not certified	May be uncertified
	To fabricate or counterfeit the data of experiments and survey results.		
	Submitting reports written by others as one's work		
Those who have acted as substitution such as attended classes and answer etc. on behalf of other students or a person who such requested the act.		May be uncertified	Especially when it is malicious, may be uncertified
Things to be recognized as another fraud related to the implementation of the lecture			

+

# Ina Campus Map



\*Vehicles must be parked in the designated parking lot.

\*No smoking on campus.

2019年4月発行

発行・編集／ 信州大学大学院総合理工学研究科  
(伊那キャンパス)

〒399-4598 長野県上伊那郡南箕輪村8304

学務グループ教務担当 TEL(0265)77-1308

FAX(0265)77-1313



**SHINSHU UNIVERSITY**